

## 平成18年1月－12月研究業績目録

(前段：和文業績)  
(後段：欧文業績)

院長

**Director-General**

### 抄録のある学会報告

篠崎英夫. 安全・安心の保健医療—医療制度改革の目指すべき方向性—, 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53(10 特別附録): 83. (シンポジウム)

篠崎英夫. たばこ対策の国際的潮流と今後の展望. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53 (10 特別附録): 116. (シンポジウム)

### その他学術報告 (研究調査報告書含む)

篠崎英夫, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金医療

技術評価総合研究事業「卒前教育から生涯教育を通じた医師教育の在り方に関する研究」平成17年度総括・分担研究報告書. 2006.3.

篠崎英夫. 我が国の医療安全と世界の現状. 日本医科大学付属病院医療安全管理研修講演会; 2006.7.24; 東京.  
篠崎英夫. 団塊の世代のこれからの健康づくり—私の健康づくりから—. 第9回日本地域看護学会学術集会; 2006.7.30; 和光. 同学会プログラム集.

篠崎英夫. 医療政策と地域医療. 静岡県立大学創立20周年記念事業講演; 2006.10.13; 静岡.

次長

**Vice President**

### 学術雑誌に発表した原著論文

大井田隆, 曾根智史, 武村真治, 尾崎米厚, 兼板佳孝, 玉城哲雄, 簗輪眞澄, 林謙治.

わが国における妊婦の喫煙状況. 日本公衆衛生雑誌 2007; 54(2): 115-122.

林謙治. 青少年の生活習慣と健康—特に喫煙について. 思春期学 2006; 24(1): 5-9.

久保秀一, 井上孝夫, 山崎彰美, 羽田明, 加藤則子, 林謙治. 多子傾向に関する要因の解析—少子化対策への手がかかりを求めて—. 小児保健研究 2006; 65(5): 633-642.

### 学術雑誌に発表した総説

林謙治. 終末期をめぐる医療と法の諸問題. 保健医療科学 2006; 55(3): 204-207.

### 抄録のある学会報告

吉見逸郎, 林謙治. 望ましくない生活習慣への対策. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53(10 特別附録): 158.

尾崎米厚, 谷畑健生, 神田秀幸, 大井田隆, 簗輪眞澄, 林謙治. わが国の中高生の喫煙率はなぜ下がったか? 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本

公衆衛生雑誌 2006; 53(10 特別附録): 646.

兼板佳孝, 大井田隆, 尾崎米厚, 簗輪眞澄, 谷畑健生, 神田秀幸, 中村裕美, 林謙治. 思春期の精神的健康度と睡眠との関連性. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53(10 特別附録): 841.

### その他学術報告 (研究調査報告書含む)

林謙治, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「終末期医療の質の向上に関する研究」平成17年度総括・分担研究報告書. 2006.3.

林謙治, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金特別研究事業「新たな公衆衛生の潮流に即した医療計画及び関連指針等の策定に資する調査・研究」平成17年度総括・分担研究報告書. 2006.3.

林謙治, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「未成年者の喫煙実態状況に関する調査研究」平成17年度総括・分担研究報告書. 2006.4.

林謙治, 主任研究者. 厚生科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「医療関係職種の資質の向上 (特に医師の卒後臨床研修及び国家試験の質の向上) に関する研究」平成17年度総括・分担研究報告書. 2006.4.

企画調整主幹

**Director for Planning and Coordination**

### 抄録のある学会報告

遠藤弘良. 医療制度改革と今後の医療界の動向. (社)

神奈川県病院協会平成17年度病院管理研修; 2006.10.27; 横浜. (特別講演)

### その他学術報告（研究調査報告書含む）

遠藤弘良. 諸外国における医師養成システムの現状と課題に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「卒前教育から生涯教育を通じた医師教育の在り方に関する研究」（主任研究者：篠崎英夫. 課題番号：H17-医療-013）平成17年度分担研究報告書. 2006. p.5-32.

遠藤弘良. ヒトゲノム研究に関する国際的動向を踏まえた評価の在り方に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金ヒトゲノム・再生医療等研究ヒトゲノム遺伝子治療研究事業「ヒトゲノム研究事業の企画と評価に関する研究」（主任研究者：林謙治. H17-ゲノム-010）平成17年度分担報

告書. 2006. p.27-44.

遠藤弘良. データマネージメントセンターのあり方の検討. 厚生労働科学研究費補助金厚生労働科学特別研究事業「臨床研究登録制度の今後のあり方に関する研究」（主任研究者：丹後俊郎）平成17年度分担研究報告書. 2006. p.87-92.

遠藤弘良. 評価指標データの広域的分析体制構築に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金厚生労働科学特別研究事業「保健医療政策分野における主要政策課題の調査・分析に関する研究」（主任研究者：曾根智史）平成17年度分担研究報告書. 2006. p.175-198.

## 技術評価部

### Department of Technology Assessment and Biostatistics

#### 学術雑誌に発表した原著論文

大坪浩一. 埼玉県秩父地域における医療資源の地域的分布の変化. 地域研究 2006 ; 47 : 11-22.

#### 学術雑誌に発表した総説

丹後俊郎. 非劣性と優越性との交換と非劣性マージンの選択に関する統計的論点について. 計量生物学 2006 ; 27 : S116-S119.

横山徹爾, 齋藤京子. 脳卒中と生活習慣. からだの科学 2006 ; 249 : 48-52.

横山徹爾, 齋藤京子. 抗酸化物質・栄養素と動脈硬化. 動脈硬化予防 2006 ; 5 : 20-23.

横山顕, 大森泰, 横山徹爾. 咽喉・食道の発癌リスク. 消化器内視鏡 2006 ; 18(9) : 1348-1354.

#### 著書

丹後俊郎, 上坂浩之, 編集. 臨床試験ハンドブック—デザインと統計解析. 東京：朝倉書店；2006.

山岡和枝. 典型的な治療・予防領域での無作為化比較試験の紹介 13.7 糖尿病予防のための食事教育. 丹後俊郎, 上坂浩之, 編集. 臨床試験ハンドブック. 東京：朝倉書店；2006. p.325-333.

横山徹爾. 衛生の主要指標. 厚生統計協会, 編. 図説・国民衛生の動向2006. 東京：厚生統計協会；2006. p.24-37.

横山徹爾. 下垂体腫瘍の疫学. 千原和夫, 編. 最新医学別冊：新しい診断と治療のABC・機能性下垂体腫瘍. 大阪：最新医学社；2006. p.15-21.

西川正子, 橋本敏夫. 開発段階に応じた臨床試験の種類 3.1 第I相（初期の臨床薬理試験段階）. 丹後俊郎, 上坂浩之, 編集. 臨床試験ハンドブック. 東京：朝倉書店；2006. p.27-38.

西川正子. 臨床試験の実施計画書. 丹後俊郎, 上坂浩之, 編集. 臨床試験ハンドブック. 東京：朝倉書店；2006. p.114-136.

西川正子. 典型的な治療・予防領域での無作為化比較試験の紹介 13.5 関節リウマチ. 丹後俊郎, 上坂浩之, 編集. 臨床試験ハンドブック. 東京：朝倉書店；2006. p.296-315.

西川正子. 臨床薬理試験 14.3 食事の影響を検討する試験 -14.6 曝露応答（ER）関係. 丹後俊郎, 上坂浩之, 編集. 臨床試験ハンドブック. 東京：朝倉書店；2006. p.353-365.

西川正子. 有害事象の経時的発現状況の推測. 丹後俊郎, 上坂浩之, 編集. 臨床試験ハンドブック. 東京：朝倉書店；2006. p.607-616.

#### 抄録のある学会報告

渡辺満利子, 山岡和枝, 丹後俊郎. EBNに基づく高脂血症のための効果的食教育のモデル化. 第16回日本疫学会学術総会；2006.1.24；名古屋. Journal of Epidemiology 2006 ; 16(1) : 161.

山岡和枝, 丹後俊郎. メタボリック・シンドロームへのライフスタイル教育の効果：メタ・アナリシス. 2006年度統計関連学会連合大会；2006.9.5-8；仙台. 同講演報告集. p.107.

安達美佐, 山岡和枝. 栄養教育の実践のための栄養情報のニーズに関する検討. 日本行動計量学会第34回大会；2006.9.11-14；上尾. 同発表論文抄録集. p.4-5.

渡辺満利子, 山岡和枝, 丹後俊郎. 女子中高生を対象とした食育のための食行動の問題点の検討. 日本行動計量学会第34回大会；2006.9.11-14；上尾. 同発表論文抄録集. p.6-7.

可知悠子, 渡辺満利子, 平塚信子, 山岡和枝, 丹後俊郎. 女子中高生の食行動の問題点の検討：心理学的側面と食行動での親子の共通性. 日本行動計量学会第34回大会；2006.9.11-14；上尾. 同発表論文抄録集. p.8-9.

渡辺満利子, 横塚昌子, 阿部直美, 吉田友佳, 山岡和枝, 丹後俊郎. EBNに基づく高脂血症のための効果的食

教育のモデル化：研究デザインとベースライン調査結果。日本行動計量学会第34回大会；2006.9.11-14；上尾。同発表論文抄録集。p.10-11.

山岡和枝，吉野諒三。調査結果の安定性の検討：健康感関連項目に見る比率と構造の分析。日本行動計量学会第34回大会；2006.9.11-14；上尾。同発表論文抄録集。p.222-223.

渡辺満利子，平塚信子，玉井頌子，安達美佐，可知悠子，山岡和枝，丹後俊郎。女子中高生の食育—栄養摂取状況とその問題点—。第65回日本公衆衛生学会総会；2006.10.25-27；富山。日本公衆衛生雑誌 2006；53(10 特別附録)：952.

可知悠子，渡辺満利子，小林康毅，山岡和枝，丹後俊郎。女子中高生の食意識と食行動：心理的側面での問題点。第65回日本公衆衛生学会総会；2006.10.25-27；富山。日本公衆衛生雑誌 2006；53(10 特別附録)：646.

角田弘子，横山和仁，山岡和枝。ソーシャル・キャピタルが健康に及ぼす影響—生活と文化に関する世論調査から—。第65回日本公衆衛生学会総会；2006.10.25-27；富山。日本公衆衛生雑誌 2006；53(10 特別附録)：391.

山岡和枝。保健医療のアウトカム評価に関する国際共同研究—多文化間におけるスコアの変換。第13回ヘルスリサーチフォーラム；2006.12.3；東京。

高橋邦彦，横山徹爾，丹後俊郎，Martin Kulldorff。サーベイランスのための Flexible scan 法。第16回日本疫学会学術総会；2006.1.24；名古屋。Journal of Epidemiology 2006；16(1)：230.

横山徹爾，由田克士，吉池信男。国民健康・栄養調査における都道府県別推計に必要なサンプルサイズ。第16回日本疫学会学術総会；2006.1.24；名古屋。Journal of Epidemiology 2006；16(1)：229.

土井由利子，横山徹爾，川南勝彦，石川雅彦，箕輪眞澄。特定疾患の国際疾病分類 (ICD10, 9m 8) に関する内容妥当性の検討。第16回日本疫学会学術総会；2006.1.24；名古屋。Journal of Epidemiology 2006；16(1)：98.

三宅吉弘，佐々木敏，横山徹爾，大矢幸弘，田中景子，福島若葉，大藤さとこ，齋藤京子，清原千香子，廣田良夫，大阪母子保健研究グループ。魚介類・脂肪酸摂取と産後うつ病のリスクとの関連：大阪母子保健研究。第16回日本疫学会学術総会；2006.1.24；名古屋。Journal of Epidemiology 2006；16(1)：169.

岡本和士，小橋元，鷺尾昌一，阪本尚正，佐々木敏，三宅吉博，横山徹爾，稲葉裕，永井正規。筋萎縮性側索硬化症発症関連要因解明に関する症例対照研究。第16回日本疫学会学術総会；2006.1.24；名古屋。Journal of Epidemiology 2006；16(1)：201.

横山徹爾，由田克士，齋藤京子，石脇亜紗子，吉池信男。国民健康・栄養調査における栄養素等の習慣的摂取量の分布の推定。第65回日本公衆衛生学会総会；2006.10.25-27；富山。日本公衆衛生雑誌 2006；53(10 特

別附録)：955.

齋藤京子，横山徹爾，野末みほ，草間かおる，印南京子，吉池信男。国民健康・栄養調査における飲酒・喫煙習慣の質問票の比較検討—三重県県民調査より。第64回日本公衆衛生学会総会。2006.9.15。札幌。p.977.

齋藤京子，横山徹爾，三宅吉博，佐々木敏，田中景子，大矢幸弘，福島若葉，大藤さとこ，清原千香子，廣田良夫。妊娠時肉類および脂肪酸摂取と乳児アトピー性皮膚炎疑いとの関連—大阪母子保健研究—。第56回日本アレルギー学会秋期学術大会；2006.11.4；東京。同講演要旨集。p.1215.

横山徹爾，大森泰，横山徹爾。アルコール依存症者の食道と口腔咽喉の発癌予測因子：内視鏡による追跡研究。第65回日本癌学会学術総会；2006.9.28；横浜。同講演要旨集。p.63.

大坪浩一。地域医療計画のための医療情報地図化の試み—簡易型 GIS ソフト「地図太郎」の活用例—。第65回日本公衆衛生学会総会；2006.10.25-27；富山。日本公衆衛生雑誌 2006；53(10 特別附録)：290.

大坪浩一，石井敏弘，梶本修身，信川益明。特定規制地域の導入・病床規制の廃止による病床整備計画—20年間の医療福祉施設の立地分析を通じて—。日本健康科学学会第22回学術大会；2006.10；東京。Health Sciences 2006；22：542.

大坪浩一，信川益明，長屋憲。地域医療計画における計画圏域の導出方法と資源配分モデルの提案。病院設備 2006；48：267.

大坪浩一，石井敏弘，梶本修身，信川益明。地域医療計画の政策動向からみた「医療圏」の概念の誤解と展望。第35回日本医療福祉設備学会；2006.11；東京。予稿集。p.60.

石井敏弘，三上浄子，佐藤由美子，大坪浩一，信川益明。りんご収穫労働者における腰痛有病と作業環境。日本健康科学学会第22回学術大会；2006.10；東京。Health Sciences 2006；22：553.

杉野友啓，大坪浩一，信川益明，梶本佳孝，梶本修身。身体疲労定量化法の検討—パフォーマンス評価を中心として—。日本健康科学学会第22回学術大会；2006.10；東京。Health Sciences 2006；22：586.

梶本修身，大坪浩一，信川益明。保険適応外薬とトクホ販売における医師，卸，薬局の連携について。第35回日本医療福祉設備学会；2006.11；東京。予稿集。p.62.

石井敏弘，佐藤由美子，大坪浩一，信川益明。肥満とその関連病態を改善する健康教育プログラムの評価。第35回日本医療福祉設備学会；2006.11；東京。予稿集。p.85.

西川正子，丹後俊郎。臨床比較試験における2つのエンドポイントのそれぞれの医学的重みを考慮した複合エンドポイントの構成方法について。2006年度統計関連学会連合大会；2006.9.5-8；仙台。p.222.

Hasegawa T, Tango T, Nishikawa M. Use of

randomization-based inference in randomized controlled trial ~ RCT では無作為割り付けの確率分布に基づく統計的推測を採用すべき。2006年度日本計量生物学会シンポジウム；2006.5.25；和光。同講演要旨集。p.89-94.

高橋邦彦，横山徹爾，丹後俊郎，Martin Kulldorff. Scan statistics for detecting spatial and space-time disease clusters. 2006年度日本計量生物学会シンポジウム；2006.5.25；和光。p.41-50.

上原秀昭，高橋邦彦，西川正子，丹後俊郎。イベント数で効果を比較する臨床試験の計画と解析：混合ポワソンモデルによる条件付スコア検定の適用。2006年度日本計量生物学会シンポジウム；2006.5.25；和光。p.41-50.

高橋邦彦，丹後俊郎，Martin Kulldorff. Space-time flexible scan 法によるサーベイランスのための集積性の検出。2006年度統計関連学会連合大会；2006.9.5-8；仙台。p.233.

長谷川貴大，丹後俊郎，西川正子。RCT では無作為割り付けの確率分布に基づく統計的推測を採用すべき。2006年度日本計量生物学会シンポジウム；2006.5.25；和光。p.58-60.

### その他学術報告（研究調査報告書含む）

丹後俊郎。主任研究者。厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「エビデンスを適切に統合するメタ・アナリシスの理論，応用と普及に関する調査研究」平成17年度総括・分担研究報告書。2006.3.

丹後俊郎。主任研究者。厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「エビデンスを適切に統合するメタ・アナリシスの理論，応用と普及に関する調査研究」平成15～17年度 総合研究報告書。2006.3.

丹後俊郎。主任研究者。厚生労働科学研究費補助金厚生労働科学特別研究事業「臨床研究登録制度の今後のあり方に関する研究」平成17年度総括・分担研究報告書。2006.3.

丹後俊郎，高橋邦彦。集積地域同定のための新たな検定手法の開発に関する研究。厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「地理及び社会状況を加味した地域分析方法の開発に関する研究」（主任研究者：浅見泰司）平成17年度分担研究報告書。2006, p3-1～3-6.

丹後俊郎。情報の伝播の統計モデルに関する研究。厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「地域における新たな普及啓発方法の開発に関する研究」（主任研究者：浮田徹嗣）平成17年度分担研究報告書。2006, p18-29.

山岡和枝，丹後俊郎。糖尿病予防のための栄養教育効果の評価とメタ・アナリシスに関する研究。厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「エビデンスを適切に統合するメタ・アナリシスの理論，応用と普及に関する調査研究」（主任研究者：丹後俊郎）平成17年度総括・分担研究報告書。2006.3. p.87-91.

山岡和枝，横山徹爾，種井優次。臨床研究登録情報検索

のためのポータル・サイト基本設計に係わる調査研究。厚生労働科学研究費補助金厚生労働科学特別研究事業「臨床研究登録制度の今後のあり方に関する研究」平成17年度総括・分担研究報告書。2006.3. p.77-85.

吉野諒三，山岡和枝，林文ほか。平成14年度～平成17年度文部科学省科学研究費補助金研究・基盤研究（A）研究成果報告書。東アジア価値観国際比較調査－総合報告書－。2006.3

横山徹爾。循環器疾患の危険因子・予防因子に関するメタ・アナリシス。厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「エビデンスを適切に統合するメタ・アナリシスの理論，応用と普及に関する調査研究」（主任研究者：丹後俊郎）平成17年度総括・分担研究報告書。2006.3. p.79-85.

横山徹爾。健康診査の項目による循環器疾患発症リスク評価方法に関する考察。厚生労働省科学研究費補助金健康科学総合研究事業「地域保健における健康診査の効率的なプロコールに関する研究」（主任研究者：水嶋春朔）平成17年度総括・分担研究報告書。2007.3. p.72-76.

横山徹爾，齋藤京子。妊婦の栄養と4ヶ月時のアトピー性皮膚炎との関連に関する前向きコホート研究－大阪母子保健研究－。厚生労働科学研究費補助金免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業「衛生仮説を含めたアレルギー性疾患の発症関連環境要因の解明に関する前向きコホート及び横断研究」（主任研究者：三宅吉弘）平成17年度研究報告書。2007.3. p.73-81.

横山徹爾。標本抽出方法及びデータ解析手法の検討。厚生労働省科学研究費補助金がん予防等健康科学総合研究事業「国民健康・栄養調査における各種指標の設定及び精度に関する研究」（主任研究者：吉池信男）総合研究報告書。2007.3. p.13-38.

横山徹爾。間脳下垂体機能障害の予後調査法に関する研究。厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「間脳下垂体機能障害調査研究班」（主任研究者：千原和夫）平成17年度総括・分担研究報告書。2006.3. p.72-74.

横山徹爾，江石義信，横山雅子，中島正光，三宅吉博，佐々木敏，岡本和土，小橋 元，阪本尚正，鷲尾昌一。生活習慣・ストレスと *Propionibacterium acnes* の皮膚菌体量との関連に関する横断研究－サルコイドーシスの症例対照研究に向けて－。厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「特定疾患の疫学に関する研究班」（主任研究者：永井正規）平成17年度総括・分担研究報告書。2006.3. p.187-189.

丹後俊郎，高橋邦彦。メタ・アナリシスに向けた2つの回帰直線の傾きの比の信頼区間の構成。厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「エビデンスを適切に統合するメタ・アナリシスの理論，応用と普及に関する調査研究」（主任研究者：丹後俊郎）平成17年度総括・分担研究報告書。2006.3. p.31-34.

西川正子，丹後俊郎。臨床試験登録システム，登録項目

のあり方と臨床試験啓発普及の方法に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金厚生労働科学特別研究事業「臨床研究登録制度の今後のあり方に関する研究」平成17年度総括・分担研究報告書. 2006.3. p.35-53.

## Originals

Takahashi K, Tango T. An extended power of cluster detection tests. *Statistics in Medicine* 2006 ; 25 : 841-852.

Aida J, Ando Y, Aoyama H, Tango T, Morita M. An ecological study on the association of public dental health activities and sociodemographic characteristics with caries prevalence in Japanese 3-year-old children. *Caries Research* 2006 ; 40 : 466-472.

Lwin H, Yokoyama T, Yoshiike N, Saito K, Yamamoto A, Date C, Tanaka H. Polymorphism of methylenetetrahydrofolate reductase gene (C677T MTHFR) is not a confounding factor of the relationship between serum uric acid level and the prevalence of hypertension in Japanese men. *Circ J* Jan 2006 ; 70(1) : 83-87.

Kamei Y, Saito K, Yokoyama T, Yoshiike N, Ezaki O, Tanaka H. Gly395Arg Polymorphism of PPAR-alpha gene was not detected in Japanese population of 729 individuals. *J Nutr Sci Vitaminol*. 2006 Feb ; 52 : 75-78.

Yokoyama A, Kato H, Yokoyama T, Igaki H, Tsujinaka T, Muto M, Omori T, Kumagai Y, Yokoyama M, Watanabe H. Esophageal squamous cell carcinoma and aldehyde dehydrogenase-2 genotypes in Japanese females. *Alcoholism Clinical & Experimental Research* 2006 Mar ; 30(3) : 491-500.

Kleijn W Chr, Ogoshi K, Yamaoka K, Shigehisa T, Takeda Y, Creutzberg CL, Nortier JWR, Kaptein AA. Conceptual equivalence and health-related quality of life : an exploratory study in Japanese and Dutch cancer patients. *Quality of Life Research* 2006 Aug ; 15(6) : 1091-1101.

Yamanouchi Y, Hashimoto H, Yamaoka K, Takano T, Kisaki T, Oku J, Yano E. Effect of Apolipoprotein E genotype on association of menopausal status with lipid level in Japanese women. *Journal of Health Science* 2006 ; 52 : 532-539.

Miyake Y, Sasaki S, Yokoyama T, Chida K, Azuma A, Suda T, Kudoh S, Sakamoto N, Okamoto K, Kobashi G, Washio M, Inaba Y. Japan idiopathic pulmonary fibrosis study group. Dietary fat and meat intake and idiopathic pulmonary fibrosis : a case-control study in Japan. *Int J Tuberc Lung Dis* 2006 Mar ; 10(3) : 333-339.

Washio M, Horiuchi T, Kiyohara C, Kodama H, Tada Y, Asami T, Takahashi H, Kobashi G, Abe T, Tanaka H, Nogami N, Harada M, Tsukamoto H, Ide S, Nagasawa K, Ushiyama O, Hotokebuchi T, Okamoto K, Sakamoto N, Sasaki S, Miyake Y, Yokoyama T, Mori M, Oura A,

## 視聴覚資料やデジタル媒体などによる研究成果

高橋邦彦, 横山徹爾, 丹後俊郎. FleXScan : Software for the flexible spatial scan statistic. 国立保健医療科学院, 2006.

Sinomura Y, Suzuki H, Yamamoto M, Inaba Y, Nagai M. Smoking, drinking, sleeping habits, and other lifestyle factors and the risk of systemic lupus erythematosus in Japanese females : findings from the KYSS study. *Mod Rheumatol* 2006 ; 16(3) : 143-150.

Hara K, Matsushita Y, Horikoshi M, Yoshiike N, Yokoyama T, Tanaka H, Kadowaki T. A proposal for the cutoff point of waist circumference for the diagnosis of metabolic syndrome in the Japanese population. *Diabetes Care* 2006 May ; 29(5) : 1123-1124.

Nakada S, Katsuki Y, Imoto I, Yokoyama T, Nagasawa M, Inazawa J, Mizutani S. Early G2/M checkpoint failure as a molecular mechanism underlying etoposide-induced chromosomal aberrations. *J of Clin Invest* 2006 Aug ; 116 : 80-89.

Tanabe T, Ishige I, Suzuki Y, Aita Y, Furukawa A, Ishige Y, Uchida K, Suzuki T, Takemura T, Ikushima S, Oritsu M, Yokoyama T, Fujimoto Y, Fukase K, Inohara N, Nunez G, Eishi Y. Sarcoidosis and NOD1 variation with impaired recognition of intracellular *Propionibacterium acnes*. *Biochimica et Biophysica Acta* 2006 Sep ; 1762 : 794-801.

Yokoyama A, Mizukami T, Omori T, Yokoyama T, Hirota T, Matsushita S, Higuchi S, Maruyama K, Ishii H, Hibi T. Melanosis and squamous cell neoplasms of the upper aerodigestive tract in Japanese alcoholic men. *Cancer Sci* 2006 Sep ; 97(9) : 905-911.

Kawabe M, Miwa H, Ohkusa T, Yokoyama T, Kurosawa A, Asaoka D, Hojo M, Nagahara A, Tsuda H, Sato N. Nonsteroidal anti-inflammatory drugs induce asymptomatic gastroduodenal ulcers in the Japanese population — A Case-control study on its prevalence and the protective effect of anti-ulcer agents. *J Clin Biochem Nutr* 2006 ; 39 : 145-152.

Yokoyama A, Omori T, Yokoyama T, Sato Y, Mizukami T, Matsushita S, Higuchi S, Maruyama K, Ishii H, Hibi T. Risk of squamous cell carcinoma of the upper aerodigestive tract in cancer-free alcoholic Japanese men : An endoscopic follow-up study. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev* 2006 Nov ; 15(11) : 2209-2215.

Miyake Y, Sasaki S, Tanaka K, Yokoyama T, Ohya Y, Fukushima W, Saito K, Ohfuji S, Kiyohara C, Hirota Y, Osaka Maternal and Child Health Study Group. Dietary folate and vitamins B12, B6, and B2 intake and the risk of postpartum depression in Japan : the Osaka Maternal and Child Health Study. *J Affect Disord* 2006 Nov ; 96(1-2) :

133-138.

Miyake Y, Sasaki S, Yokoyama T, Tanaka K, Ohya Y, Fukushima W, Saito K, Ohfuji S, Kiyohara C, Hirota Y, Osaka Maternal and Child Health Study Group. Risk of postpartum depression in relation to dietary fish and fat intake in Japan : the Osaka Maternal and Child Health Study. *Psychol Med* 2006 Dec ; 36(12) : 1727-1735.

Nishikawa M, Tango T, Ogawa M. Non-Parametric inference of adverse events under informative censoring. *Statistics in Medicine* 2006 ; 25 : 3981-4003.

### Books

Yamaoka K. The Multicultural psychology of Japanese Americans. In : Jackson Y, Edited. *Encyclopedia of multicultural psychology*. Thousand Oaks, CA : SAGE ; 2006. p.275-281.

### Proceedings with abstracts

Nishikawa M, Tango T, Ogawa M. Nonparametric estimation of adverse events under informative censoring. In : *The International Symposium on Biostatistics ; Forefront and Related Topics* : Feb 12-15 2006 ; Fukuoka, Japan. *Proceedings*. p.51.

Yamaoka, K. Analysis of the East Asia value survey and the health and culture survey. In : *Health and Social and Cultural Factors in East Asia* ; July 15 - 16, 2006 ; Sophia University, Tokyo, Japan. *Abstract*. 2006. p.2-3.

Yamaoka K, Tango T. Effects of lifestyle modification on cardiac risk factors associated with metabolic syndrome. In : *Systematic Review and Meta-Analysis, International*

*Biometric Conference* 2006 ; 2006.7.9-13 ; Montreal, Canada. MP6. p.157.

Yamaoka K, Kaptein A A, Creutzberg C L, Nortier JWR, Kleijn W Chr, Kobayashi K, Ogoshi K, Hayashi F, Tabei T, Inoue K. Cross cultural equivalence in the quality of life scoring procedure : difference of QOL scores of cancer patients between Japan and the Netherlands. In : *13th Annual Conference of the International Society for Quality of Life Research* ; October 10-14 2006 ; Lisbon, Portugal.

Nishikawa M, Tango T, Ogawa M. Nonparametric inference of adverse events under dependent censoring. In : *XXIII International Biometric Conference* ; July 16-21 2006 ; Montreal, Canada. CDROM 157.

Hasegawa T, Tango T, Nishikawa M. Restricted randomization-based inference in randomized controlled trails. In : *XXIII International Biometric Conference* ; July 16-21 2006 ; Montreal, Canada. CDROM 175.

Takahashi K, Kulldorff M, Tango T, Yih K. A flexible space-time scan statistic for disease outbreak detection. In : *XXIII International Biometric Conference* ; July 16-21 2006 ; Montreal, Canada. CDROM 233.

Uehara H, Takahashi K, Nishikawa M, Tango T. Sample size estimation for the randomized parallel group study with count data. In : *XXIII International Biometric Conference* ; July 16-21 2006 ; Montreal, Canada. CDROM 210.

Takahashi K, Kulldorff M, Tango T, Yih K. A flexible space-time scan statistic for disease outbreak. In : *2006 Syndromic Surveillance Conference* ; Oct. 19-20 2006 ; Baltimore, USA. p.70.

### 政策科学部

### Department of Policy Sciences

#### 学術雑誌に発表した原著論文

石川雅彦, 前沢政次. 地域住民の参画による「こころの健康増進活動」の誘導と評価に関する研究. *プライマリ・ケア* 2006 ; 29(3) : 190-196.

石川雅彦, 長谷川敏彦. 迅速根本原因分析法 (Rapid Root Cause Analysis) によるインシデント・アクシデント報告の活用. *日本医療マネジメント学会雑誌* 2006 ; 7(2) : 352-356.

石川雅彦, 長谷川敏彦, 長谷川友紀. 手術における患者・部位誤認防止システム—「5ステップ法」の適用—. *日本医療マネジメント学会雑誌* 2006 ; 6(4) : 671-675.

石川雅彦. チーム医療訓練としての CRM (クルー・リソース・マネジメント). *病院管理* 2006 ; 43(4) : 31-34.

#### 学術誌に発表した総説

石川雅彦. 医療安全トレーニングのコンピテンシーと今

後の展開—KYTからCRM, LOFTへ—. *看護管理* 2006 ; 16(3) : 184-188.

石川雅彦. 国立保健医療科学院・病院管理研修「看護部長コース」研修担当者に聞く—「看護部長コース」のねらいと実際. *看護管理* 2006 ; 16(4) : 284-288.

石川雅彦. 新人ナース覚書 入職前にこれだけは伝えておきたい ① 新しい“仕事”に向かって第一歩を踏み出そうとしているあなたへ. *看護教育* 2006 ; 47(4) : 344-346.

石川雅彦. 新人ナース覚書 入職前にこれだけは伝えておきたい ② 学生時代に考えてほしいこと. *看護教育* 2006 ; 47(5) : 428-430.

石川雅彦. 新人ナース覚書 入職前にこれだけは伝えておきたい ③ あなたの望む仕事を手に入れるために. *看護教育* 2006 ; 47(6) : 522-524.

石川雅彦. 新人ナース覚書 入職前にこれだけは伝えて

おきたい ④ 新しいキャリアをスタートとするための準備. 看護教育 2006 ; 47(7) : 606-608.

石川雅彦. 新人ナース覚書 入職前にこれだけは伝えておきたい ⑤ 新しいキャリアのスタート. 看護教育 2006 ; 47(8) : 747-749.

石川雅彦. 新人ナース覚書 入職前にこれだけは伝えておきたい ⑥ あなたは1人ではない. 看護教育 2006 ; 47(9) : 840-842.

石川雅彦. 新人ナース覚書 入職前にこれだけは伝えておきたい ⑦ 専門職としてのキャリアを積む. 看護教育 2006 ; 47(10) : 930-932.

石川雅彦. 新人ナース覚書 入職前にこれだけは伝えておきたい ⑧ キャリアを深めるコミュニケーション. 看護教育 2006 ; 47(12) : 1160-1162.

石川雅彦. 医療安全リーダーシップ研修を構築し実施する—国立保健医療科学院の取り組みから—. 看護管理 2006 ; 16(12) : 996-1001.

児玉知子, 志真泰夫. 緩和医療における意思決定と倫理的課題—英国における終末期医療関連ガイドラインから. 病院 2006 ; 65(2) : 127-131.

児玉知子, 井上まり子, 種田憲一郎, 長谷川敏彦. 女性医師の活動性評価について. 日本医事新報 2006 ; (4279) : 74-79.

種田憲一郎. 医療安全におけるコンピテンシー. 保健医療科学 2006 ; 55(2) : 93-99.

児玉知子. 終末期医療における法的枠組みと倫理的課題について. 保健医療科学 2006 ; 55(3) : 218-224.

## 著書

石川雅彦. 国民皆保険制度維持における未病の役割. 日本未病システム学会, 編. 未病医学入門. 京都: 金芳堂; 2006. p.18-20.

石川雅彦. 医療制度の変遷と未病. 日本未病システム学会, 編. 未病医学入門. 京都: 金芳堂; 2006. p.21-23.

石川雅彦. 薬剤師への要望と期待—医師の立場から. 古川裕之, 土屋文人, 編. 医薬品安全管理入門. 東京: 医学書院; 2006. p.163-169.

石川雅彦. 医療安全総合政策. 長谷川敏彦, 編. 医療安全管理事典. 東京: 朝倉書店; 2006. p.54-57.

石川雅彦. クリニカル・ガバナンス. 長谷川敏彦, 編. 医療安全管理事典. 東京: 朝倉書店; 2006. p.197-199.

石川雅彦. Ⅲ. 基本的診療技能. 外科手技. 大滝純司, 仲田和正, 編. コア・カリキュラム対応診療の基本. 改定2版. 京都: 金芳堂; 2006. p.378-383.

石川雅彦. お待たせしました. 日本プライマリ・ケア学会, 編. 私を変えてくれた—患者さんのこの一言! 東京: 日本医事新報社; 2006. p.46-47.

石川雅彦. おまかせします. 日本プライマリ・ケア学会, 編. 診療の質を高める—外来でのこの一言. 東京: 日本医事新報社; 2006. p.12-13.

種田憲一郎. 真実告知—医療過誤の告白. 長谷川敏彦, 編. 医療安全管理事典. 東京: 朝倉書店; 2006. p.185-187.

## 抄録のある学会報告

石川雅彦, 種田健一郎, 長谷川敏彦. インシデント・アクシデント分析における迅速根本原因分析法 (RRCA). 第8回日本医療マネジメント学会; 2006.6.17; 横浜. 医療マネジメント学会誌 2006 ; 7(3) : 209.

石川雅彦, 長谷川敏彦. 院内死亡率の低下をめざして—Rapid Response Team (RRT) の可能性. 第8回日本医療マネジメント学会; 2006.6.17; 横浜. 医療マネジメント学会誌 2006 ; 7(3) : 220.

岡本初美, 石川雅彦, 長谷川敏彦. 医療安全に関する, 新人看護師のコンピテンシー 自己評価表の作成. 第8回日本医療マネジメント学会; 2006.6.16; 横浜. 医療マネジメント学会誌 2006 ; 7(3) : 202.

杉本百合香, 石川雅彦, 長谷川敏彦. 医療安全管理者への組織内・外からの支援体制の検討. 第8回日本医療マネジメント学会; 2006.6.16; 横浜. 医療マネジメント学会誌 2006 ; 7(3) : 203.

宮地真希子, 石川雅彦, 長谷川敏彦. シミュレーショントレーニングを活用した危機管理システム整備—医療事故発生を想定した模擬記者会見を開催して—. 第8回日本医療マネジメント学会; 2006.6.16; 横浜. 医療マネジメント学会誌 2006 ; 7(3) : 232.

濱田康代, 種田健一郎, 石川雅彦, 長谷川敏彦. 医療安全ガイドラインおよびマニュアルに関する調査. 第8回日本医療マネジメント学会; 2006.6.17; 横浜. 医療マネジメント学会誌 2006 ; 7(3) : 259.

石川雅彦, 長谷川敏彦, 宮田佳子, 楠本茂雅, 石橋明. チーム医療推進における CRM (クルー・リリース・マネジメント) の適用. 第56回日本病院学会; 2006.7.7; 岡山. 同講演集. p.54.

土井由利子, 横山徹爾, 川南勝彦, 石川雅彦, 箕輪眞澄. 特定疾患の国際疾病分類 (ICD10, 9m 8) に関する内容妥当性の検討. 第16回日本疫学会学術総会; 2006.1.24; 名古屋. Journal of Epidemiology 2006 ; 16(1) : 98.

石川雅彦, 長谷川敏彦. 医療者に対する院内医療安全トレーニング—事例分析を中心に. 第38回医学教育学会; 2006.7.29; 奈良. 医学教育 2006 ; 37 (suppl) : 64.

石川雅彦, 長谷川敏彦. 卒前医学教育における医療安全教育の調査と展望. 第38回医学教育学会; 2006.7.30; 奈良. 医学教育 2006 ; 37 (suppl) : 69.

石川雅彦. インシデント・アクシデント分析における根本原因分析法の簡略化. 病院管理学会; 2006.10.20; 名古屋. 病院管理 2006 ; 43 (suppl) : 175.

石川雅彦. インシデント・アクシデント分析における根本原因分析法 (RCA) の戦略的活用. 第45回自治体病院学会; 2006.10.20; 鹿児島. 同抄録集. 2006. p.339.

石川雅彦. 保健医療領域における医療安全推進の課題—リーダーシップの重要性—. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53 (10 特別附録): 495.

石川雅彦, 種田憲一郎. 医療安全推進におけるリーダーシップ. 第1回医療の質・安全学会; 2006.11.23-24; 東京. 医療マネジメント学会雑誌 (第1回医療の質・安全学会学集会プログラム・抄録) 2006; 1 (増補号): 158.

藤田茂, 城川美佳, 長谷川友紀, Merrilyn Walton, 長谷川敏彦, 種田憲一郎, 石川雅彦, 平尾智広. 米国 ASHRM 医療安全研修プログラムのコア・コンピテンシーによるコンテンツ評価. 第8回医療マネジメント学会学術総会; 2006.6.16-17; 横浜. 医療マネジメント学会雑誌 2006; 7(1): 205.

種田憲一郎. 医療安全管理者と推進者に求められる能力. 第1回医療の質・安全学会学集会; 2006.11.23-24; 東京. 医療マネジメント学会雑誌 (第1回医療の質・安全学会学集会プログラム・抄録) 2006; 1 (増補号): 93. (ワークショップ)

種田憲一郎, 児玉知子, 長谷川敏彦. 医師需給に関するモデルの検討. 第76回日本衛生学会総会; 2006.3.25-28; 山口. 日本衛生学会雑誌2006; 61(2): 239.

種田憲一郎, 松本邦愛, 児玉知子, 長谷川敏彦. 医師の診療時間に関する調査. 第76回日本衛生学会総会; 2006.3.25-28; 山口. 日本衛生学会雑誌2006; 61(2): 239.

児玉知子. 女性医師の活動性評価について. 第76回日本衛生学会総会; 2006.10.25-27; 宇部. 日本衛生学雑誌 2006; 61(2): 240.

児玉知子. 医師の卒後就労状況の経時的変化について—医師・歯科医師・薬剤師調査から—. 日本衛生学雑誌 2006; 61(2): 240.

児玉知子, 井上まり子, 種田憲一郎, 長谷川敏彦. 国内女性医師の生産性について. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53 (10 特別附録): 455.

児玉知子. 国内エイズ対策背策の評価について 過去15年間の行政担当者研修とエイズ動向データから. 第20回日本エイズ学会学術集会・総会; 2006.11.30-12.2; 東京. 日本エイズ学会誌2006; 8(4): 376.

竹原健二, 松田智大, 児玉知子. HIV 予防介入プログラムに対する評価のあり方について—RCTを用いた文献レビューの結果より—. 第20回日本エイズ学会学術集会・総会; 2006.11.30-12.2; 東京. 日本エイズ学会誌2006; 8(4): 320.

中川正法, 有村公良, 児玉知子, 水野敏樹, 立川俱子, 納光弘. 地域在宅高齢者における神経学的所見の長期縦断研究. 第47回日本神経学会総会; 2006.5.11-13; 東京.

## その他学術報告 (研究調査報告書含む)

石川雅彦. 医療の質と医師受給 卒前・卒後医学教育. 厚生労働科学研究費補助金厚生労働科学特別研究事業「医師需給と医学教育に関する研究」(主任研究者: 長谷川敏彦. 課題番号: H16- 特別-031) 平成17年度報告書. 東京: 2006.

石川雅彦, 主任研究者. 文部省科学研究費補助金 萌芽研究「コア・コンピテンシー概念に基づく医学部新医療安全教育の研究」(課題番号: 17659157) 平成17年度報告書. 2006.

石川雅彦. 行政資料を用いた難病の頻度調査. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業「特定疾患の疫学に関する研究」(主任研究者: 永井正規) 平成17年度総括・分担研究報告書. 東京: 2006.

石川雅彦. 医師臨床研修制度・研修管理委員会・委員長研修から見た臨床研修の課題. 厚生労働科学研究補助金医療安全・医療技術評価総合研究事業「新医師臨床研修制度における研修医指導に関する研究」(主任研究者: 水嶋春朔. 課題番号: 17251801) 平成17年度報告書. 2006.

石川雅彦. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「手術成績予測法を用いた外科治療質改善システムの開発」(主任研究者: 二村雄次) 平成17年度報告書. 東京: 2006.

種田憲一郎, 主任研究者. 厚生労働科学特別研究費補助金医療技術評価総合研究事業「地域連携クリティカルパスモデルの開発に関する研究」(課題番号: H17- 特別-049) 平成17年度報告書. 2006.

児玉知子. 法的・倫理的考察—英国例—. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「終末期医療の質の向上に関する研究」(主任研究者: 林謙治. 課題番号: H17- 医療-001) 平成17年度報告書. 2006.

児玉知子. 終末期医療のエビデンスと医療供給体制について. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「終末期医療の質の向上に関する研究」(主任研究者: 林謙治. 課題番号: H17- 医療-001) 平成17年度報告書. 2006.

長谷川敏彦, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「日本の医師需給の実証的調査研究」(長谷川敏彦. H17- 医療—一般-014) 平成17年度報告書. 東京: 2006.

児玉知子. 女性医師の活動性評価について. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「日本の医師需給の実証的調査研究」(主任研究者: 長谷川敏彦. H17- 医療—一般-014) 平成17年度報告書. 東京: 2006.

児玉知子. 国内における動向. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「日本の医師需給の実証的調査研究」(主任研究者: 長谷川敏彦. H17- 医療—一般-014) 平成17年度報告書. 東京: 2006.

児玉知子. 公的がん専門医療機関の役割に関する研究. がん研究助成金「公的がん専門医療機関の機能と経営の研

価に関する研究」(主任研究者:長谷川敏彦. 課題番号:

17-20) 平成17年度報告書. 東京:2006.

### Proceedings with abstracts

Taneda K, Gray GC, Noji EK. Epidemiologic aspects of military post deployment health conditions, natural disasters, and terrorism. In: 8th Annual Seattle Epidemiology, Biostatistics & Clinical Research Methods, Summer Session; 2006 Jun 26-30; Seattle, U.S.A.

Seattle: Seattle Epidemiologic Research & Information Center (ERIC); 2006. p.5.

Kodama T. Health care support for the people with ALS in Japan. In: International Alliance of ALS/MND Associations, 14th Annual Meeting; 2006 Nov.28; Yokohama. (Special Lecture)

## 経営科学部

### Department of Management Science

#### 学術雑誌に発表した原著論文

熊川寿郎, クリニカルパスとは. 老年精神医学雑誌 2006; 17(11): 1131-1140.

岡本悦司, 久保喜子. 昭和ヒトケタ男性の寿命—世代生  
命表による生存分析. 厚生指標 2006; 53(13): 28-34.

#### 学術雑誌に発表した総説

市川幾恵, 熊川寿郎. 大規模病院の看護部門におけるバ  
ランスト・スコアカード導入・活用のポイント第1回 昭  
和大学病院看護部におけるBSCの導入. 看護部長通信  
2006; 3(6): 74-79.

人見視華, 斉藤隆子, 馬渡法子, 奥野喜美子, 高野優  
子, 熊川寿郎. 病棟目標達成に役立つBSCの実際. 主任  
&中堅 2006; 16(4): 119-129.

熊川寿郎. ユビキタス社会のヘルスケアサービス. 病院  
2006; 65(4): 321-323. (特別寄稿)

古田愛子, 菊池美佐子, 熊川寿郎. 大規模病院の看護部  
門におけるバランスト・スコアカード導入・活用のポイン  
ト第2回 都立府中病院看護部におけるBSCの導入. 看護  
部長通信 2006; 4(1): 122-127.

高野優子, 熊川寿郎. 病院におけるBSC導入事例1:  
東京都立豊島病院 BSC導入で見えてくる「看護管理の  
質」評価. 看護 2006; 58(7): 68-76.

市川幾恵, 熊川寿郎. 病院におけるBSC導入事例4:  
昭和大学病院 BSC導入で向上した組織コミットメント  
と業務効率. 看護 2006; 58(7): 94-102.

熊川寿郎, 高橋淑郎. BSCの最新知識 関連書籍ブッ  
クレビュー. 看護 2006; 58(7): 142-147.

白杵たみ子, 熊川寿郎. 大規模病院の看護部門における  
バランスト・スコアカード導入・活用のポイント第3回  
香川県立中央病院看護部におけるBSCの導入. 看護部長  
通信 2006; 4(2): 43-49.

早川幸子, 熊川寿郎. 大規模病院の看護部門におけるバ  
ランスト・スコアカード導入・活用のポイント第4回 鳥  
取大学医学部附属病院看護部におけるBSC導入・活用の  
ポイント. 看護部長通信 2006; 4(3): 101-106.

熊川寿郎. 大規模病院の看護部門におけるバランスト・  
スコアカード導入・活用のポイント第5回 BSCのカス

ケイド. 看護部長通信 2006; 4(4): 46-50.

熊川寿郎. 大規模病院の看護部門におけるバランスト・  
スコアカード導入・活用のポイント第6回 BSCはどこ  
から導入してもよい. 看護部長通信 2006; 4(5): 43-47.

小山秀夫. 介護保険と医療保険の非整合性. 介護保険旬  
報 2006; (2266): 28-31.

小山秀夫. マーケティング. マネジメントで読み解く介  
護保険(10). 介護保険情報 2006; (70): 48-51.

小山秀夫. 行政的リーダーシップ. マネジメントで読み  
解く介護保険(11). 介護保険情報 2006; (71): 74-77.

小山秀夫. 〈時評〉介護保険施設はどこに向かうのか.  
月刊介護保険2006; (121): 22-23.

小山秀夫. コストパフォーマンス. マネジメントで読み  
解く介護保険(12). 介護保険情報 2006; (72): 60-63.

岡本悦司. 指標としての医療費分析の効用と留意点. 保  
健師ジャーナル 2006; 62(8): 624-627.

岡本悦司. アメリカ医療制度改革と疾病予防活動. 公衆  
衛生 2006; 70(11): 852-855.

#### 著書

熊川寿郎. 4.4 事例—医療リスクマネジメントシステム.  
大澤幸生, 山田雄二ら, 編著. 筑波大学ビジネス科学研究  
科監修. チャンスとリスクのマネジメント (シリーズビジ  
ネスの数理第2巻). 東京: 朝倉書店; 2006. p.78-99.

熊川寿郎. 第3章 医療機関BSC導入の先進事例【事例  
4】医療リスクマネジメントとBSC (T病院の事例). 日  
本医業経営コンサルタント協会, 編集. 医療機関BSC導  
入ハンドブック. 第II部 医療機関BSC導入の効果と事例.  
東京: 日本医業経営コンサルタント協会; 2006. p.88-105.

熊川寿郎. 第3章 医療機関BSC導入の先進事例【事例  
7】看護部のBSC導入事例 (都立豊島病院). 日本医業経  
営コンサルタント協会, 編集. 医療機関BSC導入ハンド  
ブック. 第II部 医療機関BSC導入の効果と事例. 東京:  
日本医業経営コンサルタント協会; 2006. p.145-161.

岡本悦司. 社会保障と社会福祉. 岸玲子, 古野純典, 大  
前和幸, 小泉昭夫, 編. NEW 予防医学・公衆衛生学. 改  
訂第2版. 東京: 南江堂; 2006. p.355-361.

岡本悦司. 医療関係法規. 医学・医療と社会. 藤崎和

彦, 田宮菜奈子, 山本秀樹, 編. 東京: 金芳堂; 2006. p.130-142.

岡本悦司. 介護保険と高齢者福祉・地域の保健医療福祉の連携. 岡崎勲, 豊嶋英明, 小林廉毅, 編. 標準公衆衛生・社会医学. 東京: 医学書院; 2006. p.321-329.

岡本悦司, 小橋元, 坂田清美, 佐藤敏彦, 横山英世, 著. 保健医療論. サブノート保健医療論・公衆衛生学 (29版). 東京: メディックメディア社; 2006. p.2-141.

### 抄録のある学会報告

堤福子, 高野優子, 熊川寿郎. BSCによる平成17年度安全推進委員会の活動成果. 第8回日本医療マネジメント学会学術総会; 2006.6.16; 横浜. 日本医療マネジメント学会雑誌2006; 7 (1 学術総会プログラム・抄録): 259.

植松由起子, 重松久子, 吉田裕美, 山崎淳子, 藤井由加里, 堤福子, 高野優子, 熊川寿郎. 内服薬管理フローチャートを用いた服薬管理. 第8回日本医療マネジメント学会学術総会; 2006.6.16; 横浜. 日本医療マネジメント学会雑誌2006; 7 (1 学術総会プログラム・抄録): 259.

加藤美保, 金沢千恵子, 堤福子, 高野優子, 熊川寿郎. 看護科スタッフのリスク認知力の測定 第2報. 第8回日本医療マネジメント学会学術総会; 2006.6.16; 横浜. 日本医療マネジメント学会雑誌 2006; 7 (1 学術総会プログラム・抄録): 259.

白杵たみ子, 矢野真由美, 池田哲代, 藤井加芳子, 熊川寿郎. 香川県立中央病院看護部のBSCの取り組み. 第8回日本医療マネジメント学会学術総会; 2006.6.16; 横浜. 日本医療マネジメント学会雑誌2006; 7 (1 学術総会プログラム・抄録): 260.

中井清美, 峠妙子, 松本ちえみ, 小笠原妙子, 熊川寿郎. BSCの作成過程における気づきについて. 第8回日本医療マネジメント学会学術総会; 2006.6.16; 横浜. 日本医療マネジメント学会雑誌2006; 7 (1 学術総会プログラム・抄録): 260.

河田初美, 谷まり子, 鈴木勝美, 岡環, 丸山幸代, 熊川寿郎. BSC導入により病棟管理に認められた変化. 第8回日本医療マネジメント学会学術総会; 2006.6.16; 横浜. 日本医療マネジメント学会雑誌2006; (1 学術総会プログラム・抄録): 260.

堀口京子, 高野優子, 馬渡法子, 熊川寿郎. 看護管理におけるバランスト・スコアカード (BSC) の運用と成果. 第8回日本医療マネジメント学会学術総会; 2006.6.17; 横浜. 日本医療マネジメント学会雑誌 2006; 7 (1 学術総会プログラム・抄録): 238.

上野真弓, 菊地たき子, 北村玲子, 木下さゆり, 向井和子, 馬渡法子, 熊川寿郎. 病棟管理におけるバランスト・スコアカード (BSC) 導入の成果. 第8回日本医療マネジメント学会学術総会; 2006.6.17; 横浜. 日本医療マネ

ジメント学会雑誌 2006; 7 (1 学術総会プログラム・抄録): 238.

城所扶美子, 市川幾恵, 石橋悦子, 熊川寿郎. BSCを用いた病棟運営. 第8回日本医療マネジメント学会学術総会; 2006.6.17; 横浜. 日本医療マネジメント学会雑誌 2006; 7 (1 学術総会プログラム・抄録): 238.

新関茂子, 市川幾恵, 石橋悦子, 熊川寿郎. BSCによる病棟管理の取り組み. 第8回日本医療マネジメント学会学術総会; 2006.6.17; 横浜. 日本医療マネジメント学会雑誌2006; 7 (1 学術総会プログラム・抄録): 238.

菊地信子, 市川幾恵, 石橋悦子, 熊川寿郎. NICUにBSCを導入して. 第8回日本医療マネジメント学会学術総会; 2006.6.17; 横浜. 日本医療マネジメント学会雑誌 2006; 7 (1 学術総会プログラム・抄録): 239.

福地本晴美, 市川幾恵, 石橋悦子, 熊川寿郎. マネジメントツールとしてのBSC活用の実際一師長の急な交代にも対応できる一. 第8回日本医療マネジメント学会学術総会; 2006.6.17; 横浜. 日本医療マネジメント学会雑誌 2006; 7 (1 学術総会プログラム・抄録): 239.

梅本健三, 深澤英代, 埴良江, 井上節子, 堤福子, 高野優子, 熊川寿郎. 全看護職員のリスク分析・改善策立案能力の向上を目指した取り組み報告. 第8回日本医療マネジメント学会学術総会; 2006.6.17; 横浜. 日本医療マネジメント学会雑誌 2006; 7 (1 学術総会プログラム・抄録): 239.

寺地順子, 市川幾恵, 石橋悦子, 熊川寿郎. バランスト・スコアカード (BSC) による外来目標管理とその成果. 第8回日本医療マネジメント学会学術総会; 2006.6.17; 横浜. 日本医療マネジメント学会雑誌 2006; 7 (1 学術総会プログラム・抄録): 239.

増田千鶴子, 市川幾恵, 石橋悦子, 熊川寿郎. 外来部門におけるバランスト・スコアカードの導入とPDCAサイクルについて. 第8回日本医療マネジメント学会学術総会; 2006.6.17; 横浜. 日本医療マネジメント学会雑誌 2006; 7 (1 学術総会プログラム・抄録): 240.

増山有希, 山崎照世, 菊地たき子, 鳥井幸子, 堤福子, 高野優子, 熊川寿郎. BSCによるルート抜去予防へのリスクマネジメント. 第8回日本医療マネジメント学会学術総会; 2006.6.17; 横浜. 日本医療マネジメント学会雑誌 2006; 7 (1 学術総会プログラム・抄録): 240.

市川幾恵, 石橋悦子, 熊川寿郎. バランスト・スコアカード (BSC) と目標管理とのシナジー効果の検討. 第8回日本医療マネジメント学会学術総会; 2006.6.17; 横浜. 日本医療マネジメント学会雑誌 2006; 7 (1 学術総会プログラム・抄録): 240.

熊川寿郎. 病院運営 質管理 1 未収金他. 第8回日本医療マネジメント学会学術総会; 2006.6.17; 横浜. 日本医療マネジメント学会雑誌 2006; 7 (1 学術総会プログラム・抄録): 51. (座長)

早川幸子, 熊川寿郎. バランスト・スコアカードによる

目標管理の活性化. 第3回日本医療マネジメント学会鳥取地方会; 2006.9.2; 鳥取. 同抄録集. p.39.

菊地たき子, 上野真弓, 西川玲子, 木下さゆり, 向井和子, 馬渡法子, 熊川寿郎. バランスト・スコアカード (BSC) 導入による病棟管理への効果. 第45回全国自治体病院学会; 2006.10.19-20; 鹿児島. 第45回全国自治体病院学会抄録集. 2006. p.264.

馬渡法子, 高野優子, 堀口京子, 熊川寿郎. バランスト・スコアカード (BSC) による看護管理システムの運用と成果. 第45回全国自治体病院学会; 2006.10.19-20; 鹿児島. 第45回全国自治体病院学会抄録集. 2006. p.265.

植松由起子, 山崎淳子, 藤井由加里, 堤福子, 高野優子, 熊川寿郎. 内服薬管理フローチャートを用いた服薬管理方法の検討. 第45回全国自治体病院学会; 2006.10.19-20; 鹿児島. 第45回全国自治体病院学会抄録集. 2006. p.341.

熊川寿郎. BSC 導入のファシリテーションを考える. 第4回日本医療バランスト・スコアカード研究学会学術総会; 2006.11.11; 東京. 同学会学術総会プログラム・抄録. 2006. p.24. (BSC 専門講座)

熊川寿郎. 21世紀のヘルスケアシステムと BSC —「学習する組織」を如何に構築するか. 第4回日本医療バランスト・スコアカード研究学会学術総会; 2006.11.11; 東京. 同学会学術総会プログラム・抄録. 2006. p.30.

高野優子, 熊川寿郎. BSC 導入による看護スタッフの意識と行動の変容. 第4回日本医療バランスト・スコアカード研究学会学術総会; 2006.11.11; 東京. 同学会学術総会プログラム・抄録. 2006. p.35.

市川幾重, 岡本泰子, 熊川寿郎. 8病院を統括する看護部組織管理に BSC を導入する. 第4回日本医療バランスト・スコアカード研究学会学術総会; 2006.11.11; 東京. 同学会学術総会プログラム・抄録. 2006. p.36.

岡本悦司. メタボリック症候群25%削減のための都道府県別目標値の推計. 日本健康科学学会第22回学術大会; 2006. 10.27; 仙台. Health Sciences 2006; 22(4): 574.

岡本悦司. レセプト傷病別医療費データの動的グラフ化の試み. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.26; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53(10 特別附録): 290.

岡本悦司, 木村真也. レセプト情報を活用した有害事象検出データマイニング手法とその応用第2報—抗うつ薬と消化管症状. 第12回日本薬剤疫学会学術総会; 2006.11.11; 横浜. 薬剤疫学 2006; 11(Supplement): s48-49.

岡本悦司. DPC の逆転現象に関する考察. 第5回日本

医療経営学会総会; 2006.12.1; 東京. 同抄録集. p.7.

### その他学術報告 (研究調査報告書含む)

熊川寿郎. 医療バイオ技術に関する産学協同研究の現状と課題. 厚生労働科学研究費補助金ヒトゲノム・再生医療等研究ヒトゲノム遺伝子治療研究事業「ヒトゲノム研究事業の企画と評価に関する研究」(主任研究者: 林謙治. 課題番号: H17-ゲノム-010) 平成17年度総括・分担研究報告書. 2006. p.53-66.

林謙治, 児玉知子, 熊川寿郎, 角間辰之. 終末期医療に関する調査(平成15年)再分析. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「終末期医療の質の向上に関する研究」(主任研究者: 林謙治. 課題番号: H17-医療-001) 平成17年度研究報告書. 2006. p.129-189.

岡本悦司. 研修医に対する保険診療講習を支援する遠隔教材の開発に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「医療関係職種の資質の向上(特に医師の卒後臨床研修及び国家試験の質向上)に関する研究」(主任研究者: 林謙治) 平成17年度研究報告書. 2006.

岡本悦司, 西山孝之, 李中淳, 穴水弘光, 山肩大祐, 南商堯. 医療分野における情報化促進のための国内外の実態調査—レセプトオンライン化に関する韓国実態調査. 総務省委託研究報告書. 2006. 全152頁.

岡本悦司. レセプトデータによる経口感染症サーベイランスと医療費推計の精緻化. 厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業「わが国における飲食に起因する経口感染症の被害推計の精密化に関する研究」平成16～17年度総合研究報告書. 2006.

岡本悦司. 埼玉県国民健康保険における疾病の動向. 埼玉県国民健康保険団体連合会委託研究報告書. 2006. 全303頁.

岡本悦司. レセプト情報より薬剤有害事象を検出するデータマイニング手法の開発に関する研究. (課題番号 14570373) 平成14～17年度科学研究費補助金基盤研究(2). 研究成果報告書. 2006. 全72頁.

小山秀夫, 主任研究者. 平成17年度長寿科学総合研究事業「介護老人保健施設及び介護療養型医療施設における経営実態及びマネジメント実施状況に関する研究」(課題番号: H16-長寿-029) 平成17年度総括研究報告書. 2006.

小山秀夫, 中村知夫, 宮坂勝之, 上泉和子, 藤野忠彦, 佐藤進, 吉川清志. 成育医療研究委託事業「NICUの後方医療に関する研究」(主任研究者: 小山秀夫. 課題番号: 15公-4) 平成17年度研究報告書. 2006. p.71-88.

### Book

Tatara K, Okamoto E. Public health of Japan 2006. Tokyo: Japan Public Health Association; 2006. 全82頁.

### Proceedings with abstracts

Okamoto E. No care for ALL? — Japan's quest for healthy aging through "preventive LTC". In: The 134th Annual Meeting of American Public Health Association; 7 November 2006; Boston, MA, USA. Final Program. p.174.

## 人材育成部

## Department of Human Resources Development

## 原著

水嶋春朔. 新医師臨床研修制度における指導ガイドライン. クリニカルプラクティス2006; 25(10): 959-962.

水嶋春朔. 我が国におけるメタボリックシンドロームに着目した特定健診・特定保健指導. 日本臨牀 2006; 64(増刊号9): 729-733.

橘とも子. 自発的 HIV 検査相談受検の時期に関連する要因の解析. 東京都夜間常設 HIV 検査相談センターにおける非感染受検者情報の分析, 2000-2002年 第2報. 昭和医会誌 2006; 66(1): 38-46.

## 総説

水嶋春朔. 乳酸菌飲料の降圧効果. 血圧 2006; 13(2): 183-187.

水嶋春朔. 介護予防の考え方とすすめ方. 保健医療科学 2006; 55(1): 50-56.

水嶋春朔, 遠藤弘良. WHO におけるコンピテンシーに基づく人材育成. 2006; 55(2): 112-117.

飯島美世子, 岸本節子, 脇節子, 周田奈都美, 水嶋春朔. 座談会 これからの保健師に必要な「力」とは何か. からだの科学 2006; (水嶋春朔, 鳩野洋子, 杉森裕樹, 編. 増刊 これからの保健師): 2-20.

水嶋春朔. 第2部 地域保健と保健師 これからの生活習慣病健診・保健指導の方向性. からだの科学 2006; (水嶋春朔, 鳩野洋子, 杉森裕樹, 編. 増刊 これからの保健師): 54-60.

水嶋春朔, 鳩野洋子. 第6部 保健師の人材育成 キャリアパス・キャリアデザイン. からだの科学 2006; (水嶋春朔, 鳩野洋子, 杉森裕樹, 編. 増刊 これからの保健師): 144-148.

水嶋春朔. 第7部 これからの保健師に求められるコンピテンシー 公衆衛生専門職のコンピテンシー. からだの科学 2006; (水嶋春朔, 鳩野洋子, 杉森裕樹, 編. 増刊 これからの保健師): 158-163.

水嶋春朔. 保健事業のムリムダムラをなくす 第6回健康政策の核になる健診はどのように見直されるの? 公衆衛生情報 2006; 36(1): 18-21.

水嶋春朔. 保健事業のムリムダムラをなくす 第7回予防医学のストラテジーってどういう考え方? 公衆衛生情報 2006; 36(2): 20-23.

水嶋春朔. 保健事業のムリムダムラをなくす 第8回ポピュレーション・ストラテジーの具体例って? 公衆衛生情報 2006; 36(3): 22-25.

水嶋春朔. 保健事業のムリムダムラをなくす 第9回母子保健事業を親御さんの行動変容を促す場にしてみる!? 公衆衛生情報 2006; 36(4): 2006.

水嶋春朔. 保健事業のムリムダムラをなくす 第10回予算消的な研修でいいの? 公衆衛生情報 2006; 36(5): 4-7.

水嶋春朔. 保健事業のムリムダムラをなくす 第11回研修に役立つ専門職のコンピテンシーを開発しよう. 公衆衛生情報 2006; 36(6): 34-37.

水嶋春朔. 保健事業のムリムダムラをなくす 最終回ずっと「ちよい役」でいいの? 公衆衛生情報 2006; 36(7): 20-23.

橘とも子. 進言. 地域の健康危機管理を如何に支援するか. 厚生福祉 2006; (5380): 11.

橘とも子. 公衆衛生従事者に求められる健康危機管理コンピテンシー. 保健医療科学 2006; 55(2): 76-92.

橘とも子. 地域保健健康危機管理におけるコンピテンシー. からだの科学 2006; (水嶋春朔, 鳩野洋子, 杉森裕樹, 編. 増刊 これからの保健師): 164-168.

綿引信義. 米国におけるコンピテンシーに基づく公衆衛生専門職の育成について. 保健医療科学 2006; 55(2): 100-105.

## 著書

水嶋春朔. 地域診断のすすめ方 根拠に基づく生活習慣病対策と評価. 第2版. 東京: 医学書院; 2006.

大井田隆, 編. 兼坂佳孝, 横山徹爾, 曾根智史, 山懸然太郎, 水嶋春朔, 尾島俊之, 青山旬, 谷原真一, 中山健夫, 吉池信男, 藤本眞一, 小橋元, 青木良太, 赤木真寿美, 杉山龍司. 図説 国民衛生の動向2006. 東京: 厚生統計協会; 2006.

岸玲子, 古野純典, 大前和幸, 小泉昭夫, 編. 水嶋春朔. 健康増進・ヘルスプロモーション. NEW 予防医学・公衆衛生学. 東京: 南江堂; 2006. p.26-32.

橘とも子. 保健統計の意義と現状. 藤崎和彦, 田宮菜奈子, 山本秀樹, 編. コアカリキュラム対応医学・医療と社会. 京都: 金芳堂; 2006. p.51-56.

橘とも子. 地域保健. 藤崎和彦, 田宮菜奈子, 山本秀樹, 編. コアカリキュラム対応医学・医療と社会. 京都: 金芳堂; 2006. p.107-108.

## 抄録のある学会報告

水嶋春朔, 渡辺芳子, 境道子, 柳堀朗子, 中村京子, 一戸貞人, 天野恵子. 千葉県鴨川市住民におけるメタボリックシンドロームのリスク要因と生活習慣. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53(10 特別附録): 595.

曾根智史, 遠藤弘良, 水嶋春朔, 加藤則子. 国立保健医療科学院における医師臨床研修「地域保健・医療」ブログ

ラムの開発. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53(10 特別付録): 487.

齋藤陽子, 水嶋春朔, 武見ゆかり. 乳幼児健診等の機会を活用した家族の望ましい健康生活習慣病形成に関する研究. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53(10 特別付録): 663.

白神美津子, 水嶋春朔, 山野井尚美, 岡本美由紀, 西川里美, 井上五月, 吾郷栄子. 岡山県における心の健康指標を用いた地域診断. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53(10 特別付録): 833.

橘とも子, 角野文彦, 武村真治, 緒方裕光, 曾根智史, 加藤則子. ケースメソッド演習の健康危機管理コンピテンシー獲得効果に関するパイロット研究. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53(10 特別付録): 490.

武村真治, 曾根智史, 橘とも子, 緒方裕光, 加藤則子. 諸外国の健康危機管理システムの実態. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53(10 特別付録): 469.

### その他学術報告 (研究調査報告書含む)

水嶋春朔. 地域保健における健康診査の効率的なプロトコールに関する研究. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「地域保健における健康診査の効率的なプロトコールに関する研究」(主任研究者: 水嶋春朔) 平成17年度総括・分担研究報告書. 2006. p.1-8.

水嶋春朔, 一戸貞人, 柳堀朗子, 中村京子, 渡辺芳子. 千葉県鴨川市住民における腹囲とメタボリックシンドロームリスク要因及び生活習慣との関連. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「地域保健における健康診査の効率的なプロトコールに関する研究」(主任研究者: 水嶋春朔) 平成17年度総括・分担研究報告書. 2006. p.9-19.

水嶋春朔, 一戸貞人, 柳堀朗子, 中村京子, 渡辺芳子. 基本健康診査における血圧2回測定の有効性に関する検討. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「地域保健における健康診査の効率的なプロトコールに関する研究」(主任研究者: 水嶋春朔) 平成17年度総括・分担研究報告書. 2006. p.50-57.

水嶋春朔, 主任研究者. 健やか親子21の推進のための乳幼児健診等の機会を活用した家族の望ましい健康生活習慣形式に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「健やか親子21の推進のための乳幼児健診等の機会を活用した家族の望ましい健康生活習慣形式に関する研究」平成17年度総括・分担研究報告書. 2006. p.1-4.

水嶋春朔, 主任研究者. 新医師臨床研修制度における研修医指導に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金医療技術総合評価研究事業「新医師臨床研修制度における研修医

指導に関する研究」平成17年度総括・分担研究報告書. 2006. p.1-4.

水嶋春朔, 大滝純司. 医師臨床研修指導ガイドライン発行版作成の手順. 厚生労働科学研究費補助金医療技術総合評価研究事業「新医師臨床研修制度における研修医指導に関する研究」(主任研究者: 水嶋春朔) 平成17年度総括・分担研究報告書. 2006. p.28-31.

中山健夫, 水嶋春朔. 臨床研修指導における診療ガイドラインの活用に関する検討. 厚生労働科学研究費補助金医療技術総合評価研究事業「新医師臨床研修制度における研修医指導に関する研究」(主任研究者: 水嶋春朔) 平成17年度総括・分担研究報告書. 2006. p.55-60.

水嶋春朔, 主任研究者. がん検診の経済的効果及び制度の在り方に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金厚生労働科学特別研究事業「がん検診の経済的効果及び制度の在り方に関する研究」(主任研究者: 水嶋春朔) 平成17年度総括・分担研究報告書. 2006. p.1-50.

水嶋春朔, 大重賢治. 在外公館を通じた諸外国におけるがん制度に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金厚生労働科学特別研究事業「がん検診の経済的効果及び制度の在り方に関する研究」(主任研究者: 水嶋春朔) 平成17年度総括・分担研究報告書. 2006. p.51-67.

水嶋春朔, 烏帽子田彰, 大井田隆, 大久保一郎. 医学教育に関する臨床研修医を対象とした調査. 厚生労働科学研究費補助金医療技術総合評価研究事業「卒前教育から生涯教育を通じた医師教育の在り方に関する研究」(主任研究者: 篠崎英夫) 平成17年度総括・分担研究報告書. 2006. p.33-38.

水嶋春朔, 江上美芽. 医療経済の観点から見たテーラーメイド医療の将来性展望. 厚生労働科学研究費補助金ヒトゲノム・再生医療等研究ヒトゲノム遺伝子治療研究事業「ヒトゲノム研究事業の企画と評価に関する研究」(主任研究者: 林謙治) 平成17年度総括・分担報告書. 2006. p.45-52.

水嶋春朔, 江上美芽. 医療経済の観点から見たテーラーメイド医療の将来性展望. 厚生労働科学研究費補助金ヒトゲノム・再生医療等研究ヒトゲノム遺伝子治療研究事業「ヒトゲノム研究事業の企画と評価に関する研究」(主任研究者: 林謙治) 平成16～17年度総合研究報告書. 2006. p.120-124.

水嶋春朔, 橘とも子, 兵井伸行, 綿引信義. 公衆衛生医師等の専門的能力の構造分析. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「公衆衛生医師等の専門的能力の構築とその向上に資する教育研修プログラムの開発に関する研究」(主任研究者: 曾根智史) 平成17年度総括・分担研究報告書. 2006. p.5-20.

橘とも子. 健康危機管理研修のプログラムの開発・実施・評価. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「地域における健康危機管理研修に関する研究」(主任研究者: 加藤則子) 平成17年度研究報告書. 2006. p.7-203.

橘とも子, 磯野威, 土井徹, 泉峰子, 郡山一明, 原岡智子. 健康危機管理支援情報システム (H-Crisis System) におけるシミュレーショントレーニングプログラムのモデル開発・評価に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業. 「健康危機管理情報の網羅的収集/評価および統合/提供に関する調査研究.」(主任研究者: 緒方裕光. 課題番号: H16-健康-033) 平成17年度総括・分担研究報告書. 2006. p.33-51.

橘とも子. HIV 検査相談の説明相談の事例集. HIV 検査体制の構築に関する研究班 (主任研究者: 今井光信). 平成18年3月. 横浜: HIV 検査体制の構築に関する研究班; 2006.

### 視聴覚資料やデジタル媒体などによる研究成果

#### < DVD >

水嶋春朔. 日本家族計画協会, 制作協力. 健やか親子21 ママとパパの健やかな生活習慣~大切な子供のために~. 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「健やか親子21の推進のための乳幼児健診等の機会を活用した家庭の望ましい健康生活習慣形成に関する研究」(主任研究者: 水嶋春朔) 平成17年度. 2006.

### Originals

Yamori Y, Liu L, Mizushima S, Ikeda K, Nara Y. Male cardiovascular mortality and dietary markers in 25 population samples of 16 countries. *Journal of Hypertension* 2006 ; 24(8) : 1499-1505.

### Reviews

Tachibana T. How should we change our policy on anti-HIV/AIDS in Japan in future? - Practical utilization on information of personal health behaviors for health promoting measures -. *Showa Univ J Med Sci* June 2006 ; 18(2) : 65-74.

### Proceedings with abstracts

Liu L, Mizushima S, Ikeda K, Nara Y, Yamori Y. Gender difference of dietary biomarkers and its relation to blood pressure in 60 population samples of countries. In : *International Society of Hypertension* ; 2006 ; Fukuoka.

Okamoto E, Tachibana T. No care for all!?-Japan's quest for healthy aging through "preventive" LTC. In : *American Public Health Association 134th Annual Meeting and Exposition* ; Nov 4-8 2006 ; Boston, USA. *Public Health and Human Rights*. p.174. Available at : [http : //](http://)

#### <メジャー>

水嶋春朔. ウエストサイズストーリー メタボリックシンドローム対策用腹囲測定メジャー. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「地域保健における健康診査の効率的なプロトコールに関する研究」(主任研究者: 水嶋春朔) 平成17年度. 2006.

#### <健康教育ツール>

水嶋春朔. ウエストサイズストーリー メタボリックシンドローム対策用健康メモ. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「地域保健における健康診査の効率的なプロトコールに関する研究」(主任研究者: 水嶋春朔) 平成17年度. 2006.

#### < e-Learning 教材 >

橘とも子. 原因不明感染性胃腸炎様疾患の集団発生に対する保健所の対応. 和光: 国立保健医療科学院; 2006.

橘とも子, 増田宏, 武村真治, 曾根智史. H18健康危機管理研修会 基礎編&応用編. 和光: 国立保健医療科学院; 2006.

橘とも子. 新・健康危機管理支援情報システム (H-CRISIS) の概要. 和光: 国立保健医療科学院; 2006

[apha.confex.com/apha/134am/techprogram/paper\\_133089.htm](http://apha.confex.com/apha/134am/techprogram/paper_133089.htm)

Tachibana T, Mizushima S. What kind of competencies for public health crisis management do public health workers improve effectively utilizing case method exercises? In : 38th APACPH Annual Conference 2006 & 2nd International Public Health Conference ; Dec 3-6 2006 ; Bangkok, Thailand. *Program and Abstract Handbook*. 2006. p.166-167.

Hyoj N. Incentives package for health workforce-review of issues and challenges in developing countries and countries in transition. In : *The 21 Annual Meeting of Japan Association for International Health* ; 2006 Oct 11-13 ; Nagasaki. *Journal of International Health* 2006 ; 21 (Supplement) : 211.

Watahiki N, Hata E, Okamoto E, Hyoj N, Licos AR, Ssekitooleko J, et al. Problems that married Filipino women in Saitama City encountered from the perspective of coping experiences and social network. In : *The 21 Annual Meeting of Japan Association for International Health* ; 2006 Oct 11-13 ; Nagasaki. *Journal of International Health* 2006 ; 21 (Supplement) : 198.

**公衆衛生政策部**  
**Department of Public Health Policy and Administration**

**学術雑誌に発表した原著論文**

土井由利子, 横山徹爾, 川南勝彦, 石川雅彦. 特定疾患治療研究対象疾患と国際疾病分類 (ICD-10,9,8) に基づく死因コードの対応. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53: 777-786.

**学術誌に発表した総説**

曾根智史. 新任時期の教育目標 求められる能力, 到達目標, 行動目標. 保健医療科学 2006; 55(2): 118-127.

曾根智史. これからの行政の仕事. 健康管理 2006; 628: 34-35.

篠崎英夫, 遠藤弘良, 川南勝彦. 新医師臨床研修制度と精神科後期研修 医師臨床研修と専門医研修について行政の立場から. 日本精神科病院協会雑誌 2006; 25(6): 610-614.

武村真治. イギリスの健康危機管理体制の実態とわが国への適用可能性. 公衆衛生 2006; 70(3): 185-188.

武村真治. イギリスにおける公衆衛生体制の再構築—わが国が学ぶべきこと. 公衆衛生2006; 70(6): 428-431.

武村真治. 保健活動の経済的評価. 保健師ジャーナル. 2006; 62(8): 640-644.

**著書**

曾根智史, 湯浅資之, 渡部基, 鳩野洋子, 訳. 健康行動と健康教育—理論, 研究, 実践. 東京: 医学書院; 2006.

**抄録のある学会報告**

曾根智史, 田口眞, 中野修治, 堀江正知, 広部一彦. 事業場における在職者の性別死亡率と性・年齢階級別死因 (サンユー会学術 QQ プロジェクト, 2004年). 第79回日本産業衛生学会; 2006.5.9-12; 仙台. 産業衛生学雑誌 2006; 48 (増刊): 790.

中野修治, 田口眞, 曾根智史, 堀江正知, 広部一彦. 事業場における在職者の死因と健康診断結果との関連 (サンユー会学術 QQ プロジェクト, 2004年). 第79回日本産業衛生学会; 2006.5.9-12; 仙台. 産業衛生学雑誌 2006; 48 (増刊): 795.

曾根智史, 遠藤弘良, 水嶋春朔, 加藤則子. 国立保健医療科学院における医師臨床研修「地域保健・医療」プログラムの開発. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53 (10 特別附録): 487.

橘とも子, 角野文彦, 武村真治, 加藤則子, 緒方裕光, 曾根智史. ケースメソッド演習の健康危機管理コンピテンシー獲得効果に関するパイロット研究. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53 (10 特別附録): 490.

笠島茂. 職業・産業による平均寿命の格差と公衆衛生政策. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53 (10 特別附録): 93. (サテライトシンポジウム「社会経済的環境による健康の格差」).

武村真治, 曾根智史, 橘とも子, 緒方裕光, 加藤則子. 諸外国の健康危機管理システムの実態. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53 (10 特別附録): 469.

岩室紳也, 櫃本真聿, 福永一郎, 藤内修二, 石川貴美子, 中瀬克己, 松岡宏明, 国吉秀樹, 松村康弘, 武村真治, 安藤実里, 下田智久. 市区町村における健康日本21の推進, 評価状況 (その1). 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53 (10 特別附録): 404.

**その他学術報告 (研究調査報告書含む)**

曾根智史, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「国民のニーズに適合した地域保健行政組織の構造・機能・マンパワーのあり方に関する研究」平成17年度総括研究報告書. 2006.

曾根智史, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「国民のニーズに適合した地域保健行政組織の構造・機能・マンパワーのあり方に関する研究」平成15年度～17年度総合研究報告書. 2006.

曾根智史, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「公衆衛生医師等の専門的能力の構築とその向上に資する教育研修プログラムの開発に関する研究」平成17年度総括・分担研究報告書. 2006.

曾根智史, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「死体検案業務の質の確保・向上に関する研究」平成17年度総括・分担研究報告書. 2006.

曾根智史, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金厚生労働科学特別研究事業「保健医療政策分野における主要政策課題の調査・分析に関する研究」平成17年度総括・分担研究報告書. 2006

曾根智史. 厚生科学研究費補助金厚生労働科学特別研究事業「行政処分を受けた医師に対する再教育モデル事業に関する研究」(主任研究者: 加藤則子) 平成17年度総括・分担研究報告書. 2006.

曾根智史, 武村真治, 緒方裕光, 橘とも子, 谷畑健生. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「地域における健康危機管理研修に関する研究」(主任研究者: 加藤則子) 平成16年度～17年度総合研究報告書. 2006.

曾根智史, 川南勝彦, 岡本悦司, 熊川寿郎. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「医療関係職種の実質の向上 (特に医師の卒後臨床研修及び国家試験の質

の向上に関する研究」(主任研究者:林謙治)平成17年度総括・分担研究報告書, 2006.

曾根智史, 川南勝彦, 岡本悦司, 熊川寿郎. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「医療関係職種 of 資質の向上(特に医師の卒後臨床研修及び国家試験の質の向上)に関する研究」(主任研究者:林謙治)平成15年度~17年度総合研究報告書, 2006.

曾根智史, 河原和夫, 寺岡加代, 玉川淳. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「地域保健行政の再構築に関する研究」(主任研究者:谷修一)平成17年度総括・分担研究報告書, 2006.

川南勝彦, 曾根智史, 林謙治. 臨床研修修了者に対する到達目標達成度に関する調査. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「医療関係職種の資質の向上(特に医師の卒後臨床研修及び国家試験の質の向上)に関する研究」(主任研究者:林謙治)平成17年度総括・分担研究報告書, 2006. p.5-11.

福井次矢, 矢野栄二, 青木誠, 川南勝彦. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「新医師臨床研修制度の評価に関する調査研究」(主任研究者:福井次矢)

平成17年度総括研究報告書, 2006.

武村真治. 諸外国の健康危機管理研修の実態調査. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「地域における健康危機管理研修に関する研究」(主任研究者:加藤則子)平成17年度総括・分担研究報告書, 2006. p.204-291.

武村真治. 諸外国の公衆衛生専門医制度の実態調査. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「公衆衛生医師等の専門的能力の構築とその向上に資する教育研修プログラムの開発に関する研究」(主任研究者:曾根智史)平成17年度総括・分担研究報告書, 2006. p.122-341.

武村真治. 自然災害への対応システムに関する全国調査. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「自然災害発生後の2次的健康被害発生防止及び有事における健康危機管理の保健所等行政機関の役割に関する研究」(主任研究者:大井田隆)平成17年度総括・分担研究報告書, 2006. p.23-189.

武村真治. 「健康日本21」地方計画推進・評価事業報告書(分担事業者:下田智久). 平成17年度地域保健総合推進事業, 2006.

## Originals

Yamazaki S, Sokejima S, Mizoue T, Eboshida A, Kabuto M, Yamaguchi N, Akiba S, Fukuhara S, Nitta H. Association between high voltage overhead transmission lines and mental health: a cross-sectional study. *Bioelectromagnetics* 2006; 27: 473-478.

Kabuto M, Nitta H, Yamamoto S, Yamaguchi N, Akiba S, Sokejima S, et al. Childhood leukemia and magnetic fields in Japan: a case-control study of childhood leukemia and residential power-frequency magnetic fields in Japan. *International Journal of Cancer* 2006; 119: 643-650.

Morimoto T, Oguma Y, Yamazaki S, Sokejima S, Nakayama T, Fukuhara S. Gender differences in effects of physical activity on quality of life and resource utilization. *Quality of Life Research* 2006; 15: 537-546.

Kaneita Y, Ohida T, Uchiyama M, Takemura S, Kawahara K, Yokoyama E, Miyake T, Harano S, Suzuki K, Fujita T. The relationship between depression and sleep disturbances: A Japanese nationwide general population survey. *Journal of Clinical Psychiatry* 2006; 67(2): 196-203.

Kaneita Y, Yokoyama E, Miyake T, Harano S, Asai T,

Tsutsui T, Ibuka E, Suzuki K, Kaneko A, Sone T, Takemura S, Kawahara K, Ohida T. Epidemiological study on passive smoking among Japanese infants and smoking behavior of their respective parents: A nationwide cross-sectional survey. *Preventive Medicine* 2006; 42: 210-217.

Asai T, Kaneita Y, Uchiyama M, Takemura S, Asai S, Yokoyama E, Miyake T, Harano S, Suzuki K, Ibuka E, Kaneko A, Tsutsui T, Ohida T. Epidemiological study of the relationship between sleep disturbances and somatic and psychological complaints among the Japanese general population. *Sleep and Biological Rhythms* 2006; 4: 55-62.

## Proceedings with abstracts

Ugawa Y, Mizuno Y, Terao I, Nishikawa M, Okano T, Soukejima S, et al. Studies on hypersensitivity to non-thermal radiofrequency electromagnetic field in Japan: Second Report. In: *Bioelectromagnetics Society 28th Annual Meeting*; 2006 June 11-15; Cancun, Mexico. Abstracts for the Bioelectromagnetics Society Annual Meeting; 2006. p.76-78.

## 疫学部

### Department of Epidemiology

#### 学術雑誌に発表した原著論文

松浦弘幸, 野田信雄, 小井手一晴, 福田吉治, 今井博久. 離婚率の社会環境的要因の統計的考察. *バイオメディ*

*カル・ファジィ・システム学会誌* 2006; 8: 159-165.

堀内史枝, 岡靖哲, 土井由利子, 鈴木周平, 若宮英司, 大川匡子. 日本語版 Children's Sleep Habits Questionnaire

(CSHQ-J) の有用性と問題点. 不眠研究 2006 ; 1 : 21-24.  
土井由利子, 横山徹爾, 川南勝彦, 石川雅彦. 特定疾患治療研究対象疾患と国際疾病分類 (ICD-10, 9, 8) に基づく死因コードの対応. 日本公衆衛生雑誌 2006 ; 53 : 777-786.

### 学術雑誌に発表した総説

藤田利治, 反町吉秀. 疫学・統計からみた SIDS の現状: 解剖との関係を中心に. 日本 SIDS 学会雑誌 2006 ; (1) : 41-48.

### 著書

今井博久. 乳がんの原因と予防について. 日本乳癌学会, 編. 乳がん診療ガイドラインの解説. 東京: 金原出版 2006. p.18-21

土井由利子. 母子保健の現状と動向. 鈴木庄介, 久道茂, 編. シンプル衛生公衆衛生学2006. 東京: 南江堂; 2006. p.203-209.

土井由利子. 睡眠障害診断に用いる質問紙の理解と使用方法. 日本睡眠学会, 編. 臨床睡眠検査法マニュアル. 東京: ライフサイエンス; 2006. p.157-163.

土井由利子. ジェンダーと健康. 川上憲人, 小林廉毅, 橋本英樹, 編. 社会格差と健康. 東京: 東大出版会; 2006. p.127-146.

土井由利子. 認知症高齢者介護実態調査. 柳川洋, 中村好一, 児玉和紀, 三浦宜彦, 編. 地域保健活動のための疫学. 第2版. 東京: 日本公衆衛生協会; 2006. p.192-195.

土井由利子. 睡眠障害の生活習慣病および生命予後に対する影響をみる. 清水徹男, 編. 睡眠障害治療の新たなストラテジー—生活習慣病からみた不眠症治療の最前線—. 東京: 先端医学社; 2006. p.70-76.

加藤則子, 土井由利子, 滝本秀美. 少子化問題と対策. 日本未病システム学会, 編. 未病医学入門. 京都: 金芳堂; 2006. p.29-31.

### 抄録のある学会報告

今井博久, 庭田聖子. わが国で最初の地域に基づいた糖尿病疾病管理プログラム研究. 第44回日本病院管理学会学術総会; 2006.10.19-20; 名古屋. 病院管理 2006 ; 43 (supplement) : 216.

今井博久, 中尾裕之, 庭田聖子. 高校生の無症候性クラミジア感染症の大規模スクリーニング研究. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006 ; 53 (10 特別附録) : 925.

福田吉治. 日本における「健康格差」研究の現状. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006 ; 53 (10 特別附録) : 91. (サテライトシンポジウム「社会経済的環境による健康の格差」).

土井由利子, 横山徹爾, 川南勝彦, 石川雅彦, 籾輪眞澄. 特定疾患の国際疾病分類 (ICD10, 9, 8) に関する

内容妥当性の検討. 第16回日本疫学会学術総会; 2006.1.23; 名古屋. Journal of Epidemiology 2006 ; 16 (1) : 98.

土井由利子. これからの子供の睡眠研究に向けて - 国内外の研究のレビュー. 日本睡眠学会第31回定期学術集会; 2006.6.29; 大津. 同抄録集. p.77. (シンポジウム).

土井由利子. 社会経済的環境による健康の格差: 性差と健康格差 - 社会経済的環境の意味を考える. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006 ; 53 (10 特別附録) : 92. (サテライトシンポジウム「社会経済的環境による健康の格差」).

土井由利子, 横山徹爾. 過去33年間 (1972-2004年) における難病による死亡の推移に関する検討. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006 ; 53 (10 特別附録) : 638.

齋藤和子, 土井由利子. 新結核患者登録票の患者情報収集上の問題点と問題点解決のためのシミュレーション学習. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006 ; 53 (10 特別附録) : 481.

松村康弘, 藤田利治, 李廷秀, 片野田耕太, 高木廣文, 鈴木庄亮, 水沼英樹, 麻生武志, 林邦彦. 女性ホルモン剤使用状況とその妥当性に関する検討 Japan Nurses' Health Study. 第16回日本疫学会学術総会; 2006.1.23; 名古屋. Journal of Epidemiology 2006 ; 16(1) : 171.

藤田利治, 竹島正. 精神疾患患者の入院後の退院経過と長期在院にかかわるリスク要因の検討. 第16回日本疫学会学術総会; 2006.1.23; 名古屋. Journal of Epidemiology 2006 ; 16(1) : 122.

丹野高三, 松田智大, 新城正紀, 三徳和子, 眞崎直子, 平良セツ子, 坂田清美, 永井正規. 特定疾患患者の地域ベース・コホート研究. 第16回日本疫学会学術総会; 2006.1.23; 名古屋. Journal of Epidemiology 2006 ; 16 (1) : 228.

松田智大, 谷畑健生, 青山旬, 橋本修二, 畑栄一. 日本における人工妊娠中絶比の地理的分布と経年変化の考察. 第16回日本疫学会学術総会; 2006.1.23; 名古屋. Journal of Epidemiology 2006 ; 16(1) : 95.

### その他学術報告 (研究調査報告書含む)

土井由利子, 主任研究者. 文部科学研究費補助金基盤研究 (C)「眠剤に関する大規模薬剤疫学研究 - 外来処方を中心に」平成17年度研究実績報告書. 2006.

土井由利子. 行政資料を用いた難病の頻度調査—特定疾患の国際疾病分類 (ICD-10, 9, 8) に関する内容妥当性の検討—. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「特定疾患の疫学に関する研究」(主任研究者: 永井正規) 平成17年度分担研究報告書. 2006.

土井由利子. 行政資料を用いた難病の頻度調査—人口動態調査死亡票を用いた特定疾患の頻度調査について—. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「特定疾

患の疫学に関する研究」(主任研究者:永井正規)平成17年度分担研究報告書. 2006.

土井由利子, 横山徹爾, 編. 難病の死亡統計データベース

ク. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「特定疾患の疫学に関する研究」(主任研究者:永井正規)平成17年度分担研究報告書. 2006.

## Originals

Imai H, Nakao H, Nakagi Y, Niwata S, Sugioka Y, Itoh T, Yoshida T. Prevalence of burnout among public health nurses in charge of mental health services and emergency care systems in Japan. *Environ Health Prev Med* 2006 ; 11 : 286-291.

Ishida K, Imai H, Ogasawara K, Hagiwara K, Todo S, Furukawa H, Fujita H, Sakurai T, Tamashiro H. Cost-utility analysis for living donor liver transplantation : asingle center experience in Japan. *Hepato-Gastroenterology* 2006 ; 53 : 588-591.

Kuroi K, Shimozuma K, Taguchi T, Imai H, Yamashiro H, Ohsumi S, Saito S. Effect of mechanical closure of dead space on seroma formation in breast surgery. *Breast Cancer* 2006 ; 13 : 260-265.

Kuroi K, Shimozuma K, Taguchi T, Imai H, Yamashiro H, Ohsumi S, Saito S. Evidence-based risk factors for seroma formation in breast surgery. *Jpn J Clin Oncol* 2006 ; 36 : 197-206.

Kizuki M, Takano T, Nakamura K, Fukuda Y, Watanabe M, Seino K, Inose T, Kawabe Y. Social course patterns of urban dwellers with tuberculosis under fragile living conditions. *J Epidemiol* 2006 ; 16 : 167-175.

Watanabe M, Nakamura K, Fukuda Y, Takano T. Maternal and child behaviors as determinants in the health

of urban preschool children. *Prev Med* 2006 ; 42 : 297-300.

Kurimori S, Fukuda Y, Nakamura K, Watanabe M, Takano T. Calculation of prefectural disability-adjusted life expectancy (DALE) using long-term care prevalence and its socioeconomic correlates in Japan. *Health Policy* 2006 ; 76 : 346-358.

Kaneita Y, Ohida T, Uchiyama M, Takemura S, Kawahara K, Yokoyama E, Miyake T, Harano S, Suzuki K, Fujita T. The relationship between depression and sleep disturbances : A Japanese nationwide general population survey. *J Clin Psychiatry* 2006 ; 2(67) : 196-203.

## Proceedings with abstracts

Imai H. The first trial of a community-based diabetes disease management program in Japan. In : Proceedings of the premier forum for health services research annual research meeting ; June 2006 ; Seattle, USA. p.115.

Fukuda T, Shimozuma K, Ohsumi S, Mukai H, Morita S, Imai H, Watanabe T, Ohashi Y. Quality of life patients receiving adjuvant chemotherapies for breast cancer in Japan. In : Proceedings of ISPOR 9th Annual European Congress ; October 28-31, 2006 ; Copenhagen, Denmark. p.151.

## 公衆衛生看護部

### Department of Public Health Nursing

#### 学術雑誌に発表した原著論文

鳩野洋子, 川底トシエ, 山本夕へ, 平野かよ子, 奥田博子, 他. 東北1地域における自殺予防の可能性への態度とその関連要因. *保健師ジャーナル*2006 ; 62(4) : 310-314.

山田和子, 平野かよ子, 鳩野洋子, 島田美喜, 俵麻紀, 大竹ひろ子, 海法澄子, 奥田博子. 失業者のメンタルヘルスの実態とその関連要因~抑うつ状態とストレスを中心に~. *和歌山県立医科大学保健看護学部紀要*2006 ; 2 : 27-35.

福島富士子. わが国の市町村における母子保健計画づくりの進展について—二次にわたる市町村母子保健計画書の比較分析を通して—. *民族衛生* 2006 ; 72(1) : 25-36.

#### 総説

平野かよ子. 事例でみる保健活動の評価—ここさえ押さえればクリアーになる 保健師活動の評価はなぜ必要か?—

*保健師ジャーナル*2006 ; 62(1) : 8-12.

平野かよ子. 公衆衛生を基盤とする保健師活動. *保健の科学* 2006 ; 48(3) : 164-168.

平野かよ子. 日本の保健師のあゆみ. *からだの科学* 2006 ; (水嶋春朔, 鳩野洋子, 杉森裕樹, 編. 増刊 これからの保健師) : 22-27.

平野かよ子. 医療制度改革における市町村の保健衛生部門と保健所の役割. *月刊地域保健*2006 ; 37(11) : 32-41.

西山真弓, 東浦徳也, 米山守, 丸山寿恵, 鳩野洋子. 相模原市におけるヘルスアセスメント事業 地域の介護予防に向けた取り組み. *保健師ジャーナル*2006 ; 62(3) : 230-235.

平野かよ子. 公衆衛生看護における保健師のコンピテンシー. *保健医療科学*2006;55(2):128-132.

鳩野洋子, 岡本玲子, Barbara Johnson, Rosamund Bryar, Moria Graham. アメリカ・イギリス・オーストラリアにみるコミュニティ・ナース教育. *保健の科学*

2006; 48(3): 195-199.

鳩野洋子, 岩本節子, 大倉美佳, 神谷栄子, 古川馨子. 5年後の自分を描く! 学びの場に身をおいた経験から. 保健師ジャーナル2006; 62(4): 272-280.

鳩野洋子. アウトソーシングと保健師活動. からだの科学 2006; (水嶋春朔, 鳩野洋子, 杉森裕樹, 編. 増刊 これからの保健師): 72-76.

米澤洋美, 鳩野洋子. 保健師の人数と分布—保健師需給の観点から—. からだの科学 2006; (水嶋春朔, 鳩野洋子, 杉森裕樹, 編. 増刊 これからの保健師): 34-37.

水嶋春朔, 鳩野洋子. 保健師のキャリアパス・キャリアデザイン. からだの科学 2006; (水嶋春朔, 鳩野洋子, 杉森裕樹, 編. 増刊 これからの保健師): 144-148.

鳩野洋子, 岡本玲子, バーハーラ・ジョンソン, ロスモンド・ブライヤー. 英国における公衆衛生専門職のコンピテンシー. 保健医療科学 2006; 55(2): 106-111.

福島富士子. 行政からの周産期の看護と支援. 周産期医学 2006; 36(5): 651-654.

福島富士子. 子どもの虐待予防, 早期発見における助産師の役割. 周産期医学 2006; 36(8): 979-982.

福島富士子. 行動科学的観点からみた思春期の子どもの健康教育. 思春期学 2006; 24(1): 139-141.

中板育美. 産後の精神障害. 周産期医学 2006; 36(5): 647-650.

中板育美. 特集—子どもを守る—児童虐待. 公衆衛生 2006; 70(8): 584-587.

## 著書

平野かよ子. 成人期の人々のいる家族の看護. 系統看護学講座別巻17臨床看護総論. 第4版. 東京: 医学書院; 2006. p.21-28.

平野かよ子. 健康生活と看護. 系統看護学講座別巻17臨床看護総論. 第4版. 東京: 医学書院; 2006. p.54-72.

平野かよ子. 地域保健活動と母子保健. 系統助産学大系地域母子保健. 第3版. 2006. 東京: 医学書院 p.13-46

曾根智史, 湯浅資之, 渡部基, 鳩野洋子, 訳. 健康行動と健康教育 理論・研究・実践. 東京: 医学書院; 2006.

鳩野洋子. 閉じこもり予防・支援プログラム—閉じこもり予防サロン. 安村誠司, 編. 地域ですすめる閉じこもり予防・支援. 東京: 中央法規出版; 2006. p.123-128.

鳩野洋子. 閉じこもり予防支援プログラムの評価. 安村誠司, 編. 地域ですすめる閉じこもり予防・支援. 東京: 中央法規出版; 2006. p.155-171.

中板育美. 育児支援家庭訪問事業の取組み, 子ども虐待の予防とケア研究会, 編. 子ども虐待の予防とケアのすべて. 東京: 第一法規出版; 2006. p.5083 - 5093.

## 抄録のある学会報告

平野かよ子. まちづくりにつながる保健福祉行政サービスの提供あり方. 第32回日本保健医療社会学会;

2006.5.13-14; 東京.

山田和子, 尾崎米厚, 上野昌江, 平野かよ子. 「不適切な養育」のリスク要因分析の試み—3歳6カ月児健診票を活用して. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53 (10 特別付録): 664.

平野かよ子, 鳩野洋子, 福島富士子, 奥田博子, 中板育美, 米澤洋美, 末永カツ子, 山田和子, 島田美喜. 日常生活圏域の設定と保健福祉サービス提供体制のあり方2—日常生活圏域の規定要因. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53 (10 特別付録): 515.

鳩野洋子, 平野かよ子, 福島富士子, 奥田博子, 中板育美, 米澤洋美, 末永カツ子, 山田和子, 島田美喜. 日常生活圏域の設定と保健福祉サービス提供体制のあり方3—住民活動等との関連. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53 (10 特別付録): 516.

末永カツ子, 平野かよ子, 鳩野洋子, 福島富士子, 奥田博子, 中板育美, 米澤洋美, 山田和子, 島田美喜. 日常生活圏域の設定と保健福祉サービス提供体制のあり方4—介護保険事業計画との関連. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53 (10 特別付録): 516.

米澤洋美, 平野かよ子, 鳩野洋子, 福島富士子, 奥田博子, 中板育美, 末永カツ子, 山田和子, 島田美喜. 日常生活圏域の設定と保健福祉サービス提供体制のあり方5—合併による変化の認識. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53 (10 特別付録): 517.

中板育美, 平野かよ子, 鳩野洋子, 福島富士子, 奥田博子, 米澤洋美, 末永カツ子, 山田和子, 島田美喜. 日常生活圏域の設定と保健福祉サービス提供体制のあり方—日常生活圏域の広がり—. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53 (10 特別付録): 515.

岡本玲子, 塩見美抄, 岩本里織, 尾島俊之, 中山貴美子, 別所遊子, 鳩野洋子, 千葉由美, 井上清美. 保健師の専門能力獲得に関する研究(第1報)—習得に役立ったことに焦点をあてて—. 第9回日本地域看護学会学術集会; 2006.7.29-30; 和光. p.113.

塩見美抄, 岡本玲子, 岩本里織, 尾島俊之, 中山貴美子, 別所遊子, 鳩野洋子, 千葉由美, 井上清美. 保健師の専門能力獲得に関する研究(第2報)—望まれる習得方法に焦点をあてて—. 第9回日本地域看護学会学術集会; 2006.7.29-30; 和光. p.114.

井上清美, 岡本玲子, 塩見美抄, 尾島俊之, 鳩野洋子, 別所遊子. 保健師の専門能力向上に関する研究1. 現任教育担当者が効果的と感じた教育研修方法. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑

誌 2006 ; 53 (10 特別附録) : 463.

塩見美抄, 岡本玲子, 岩本里織, 尾島俊之, 鳩野洋子, 別所遊子, 井上清美. 保健師の専門能力向上に関する研究 2 能力向上に必要なことと自治体の取り組みの現状. 第65回日本公衆衛生学会総会 ; 2006.10.25-27 ; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006 ; 53 (10 特別附録) : 463.

岩本里織, 岡本玲子, 塩見美抄, 岡本玲子, 尾島俊之, 鳩野洋子, 別所遊子, 井上清美. 保健師の専門能力向上に関する研究 3 卒後教育体制整備に関する意見. 第65回日本公衆衛生学会総会 ; 2006.10.25-27 ; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006 ; 53 (10 特別附録) : 464.

岡本玲子, 鳩野洋子, 塩見美抄, 岩本里織, 尾島俊之, 別所遊子, 井上清美. 保健師の専門能力向上に関する研究 4 能力向上に必要な改革に関する意見聴取. 第65回日本公衆衛生学会総会 ; 2006.10.25-27 ; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006 ; 53 (10 特別附録) : 464.

斎藤智子, 平澤則子, 飯吉令枝, 小林恵子, 佐々木美佐子, 鳩野洋子. 豪雪地帯における高齢者のサポートシステムの構築 (第2報) —健康関連 QOL の変化—. 第65回日本公衆衛生学会総会 ; 2006.10.25-27 ; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006 ; 53 (10 特別附録) : 784.

岡本玲子, 塩見美抄, 岩本里織, 尾島俊之, 鳩野洋子, 別所遊子, 中山貴美子, 千葉由美. 保健師の専門能力向上に関する研究 1—強化を要する専門能力到達段階の実態—. 第26回日本看護科学学会学術集会 ; 2006.12.2-3 ; 神戸.

塩見美抄, 岡本玲子, 岩本里織, 尾島俊之, 鳩野洋子, 別所遊子, 中山貴美子, 千葉由美. 保健師の専門能力向上に関する研究 2—強化したい能力と強化方法に関する保健師の意向—. 第26回日本看護科学学会学術集会 ; 2006.12.2-3 ; 神戸.

岩本里織, 岡本玲子, 塩見美抄, 尾島俊之, 鳩野洋子, 別所遊子, 中山貴美子, 千葉由美. 保健師の専門能力向上に関する研究 3—自己研鑽の実態と希望する学習支援体制—. 第26回日本看護科学学会学術集会 ; 2006.12.2-3 ; 神戸.

奥田博子, 平野かよ子, 鳩野洋子, 福島富士子, 中板育美, 米澤洋美, 末永カツ子, 山田和子, 島田美喜. 市町村合併に伴う高齢者の日常生活圏と保健福祉サービスのあり方について. 第9回日本地域看護学会学術集会 ; 2006.7.29-30 ; 和光. p.174.

奥田博子, 宮崎美砂子, 井伊久美子. 自然災害時における保健師の派遣協力のあり方に関する実態調査. 第65回日本公衆衛生学会総会 ; 2006.10.25-27 ; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006 ; 53 (10 特別附録) : 476.

福島富士子, 櫃本真聿, 尾島俊之, 他. 健やか親子21推進の効果に関する研究 (第2報) —妊娠・出産・育児の満足度の要因と出産意欲—. 第65回日本公衆衛生学会総会 ; 2006.10.25-27 ; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006 ; 53 (10 特別附録) : 676.

藤内修二, 糸数公, 福島富士子, 他. 健やか親子21推進の効果に関する研究 (第1報) —ベースライン値の比較—. 第65回日本公衆衛生学会総会 ; 2006.10.25-27 ; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006 ; 53 (10 特別附録) : 675.

瑞谷毅, 藤内修二, 福島富士子, 他. 健やか親子21推進の効果に関する研究 (第3報) —母乳児の効果と促進要因—. 第65回日本公衆衛生学会総会 ; 2006.10.25-27 ; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006 ; 53 (10 特別附録) : 676.

尾島俊之, 藤内修二, 福島富士子他. 健やか親子21推進の効果に関する研究 (第4報) —乳幼児健康診査時の事故防止対策—. 第65回日本公衆衛生学会総会 ; 2006.10.25-27 ; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006 ; 53 (10 特別附録) : 675.

福島富士子, 待鳥美光. 少子化社会における世代間継承をめざしたワークショップの試み. 世代間交流国際フォーラム ; 2006.8.2 ; 東京. p.243.

福島富士子, 待鳥美光. 思春期の子どもを持つ親の '気づき' を促すワークショップの実践. 第25回日本思春期学会総会学術集会 ; 2006.8 ; 大阪.

疋田理津子, 中板育美. 児童虐待発生予防推進を目指した資源開発—予防的介入のきっかけを早期に掴むためのツール開発と試行—. 第13回ヘルスリサーチフォーラム ; 2006.12.2 ; 東京. p.71-276.

中板育美, 高橋ゆきえ, 他. 母子手帳交付時面接から始まる児童虐待予防の可能性. 日本子ども虐待防止学会第12回学術大会 ; 2006.12.8-9 ; 仙台. p.40.

中板育美, 藤原千秋. 児童相談所に勤務する保健師が役割を効果的に発揮するための体制整備に関する研究. 日本子ども虐待防止学会第12回学術大会 ; 2006.12.8-9 ; 仙台. p.26.

疋田理津子, 中板育美. 妊娠に困惑し, 支援を自ら求めない人への予防的介入の必要性. 第9回日本地域看護学会学術集会 ; 2006.7.29-30 ; 和光. p.157.

渡辺好恵, 中板育美, 本田浩子, 佐藤睦子, 他. 児童虐待予防目的の親支援グループミーティングの標準化の実践的研究. 第65回日本公衆衛生学会総会 ; 2006.10.25-27 ; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006 ; 53 (10 特別附録) : 644.

藤原千秋, 中板育美. 児童相談所に勤務する保健師が役割を効果的に発揮するための体制整備に関する研究. 第65回日本公衆衛生学会総会 ; 2006.10.25-27 ; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006 ; 53 (10 特別附録) : 717.

中板育美. 子どものメンタルヘルスを担う人材を育成する—保健師の育成について—. 第53回日本小児保健学会 ; 2006.10.26-28 ; 甲府. p.70.

### その他学術報告 (研究調査報告書含む)

平野かよ子, 鳩野洋子, 福島富士子, 奥田博子, 中板育美, 米澤洋美, 他. 厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究推進事業「市町村合併に伴う住民参加型の日常生活圏域の設定と保健福祉サービス提供体制のあり方に関する

研究」(主任研究者：平野かよ子)。平成17年度報告書。2006。

田代順子，堀内茂子，平野かよ子，他。平成17年度国際医療協力研究委託研究費「開発途上国の地域看護のあり方に関する研究」(主任研究者：田代順子)2005年度研究報告書。2006。

平野かよ子，山田幸子，佐伯和子，曾根智史，鳩野洋子，福島富士子，奥田博子，中板育美，米澤洋美。平成17年度国際医療協力研究委託研究費「フィジーにおける地域看護強化のための地域保健看護現任教育国際協力：実践・評価研究」2005年度分担研究報告書(分担研究者：平野かよ子)。2006。

平野かよ子，鳩野洋子，奥田博子，中板育美，米澤洋美。厚生労働科学研究費補助金地域保健総合研究事業「都道府県保健師の指導者育成プログラム開発一都道府県保健師の現任教育の実態一」(主任研究者：佐伯和子)平成17年度報告書。2006.3。

岡本玲子，鳩野洋子，塩見美佐，中山貴美子，別所遊子，尾島俊之。厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「変革期に対応する保健師の新たな専門技能獲得に関する研究」(主任研究者：岡本玲子)平成17年度報告書。2006。

福島富士子，主任研究者。厚生労働科学研究費補助金政策科学推進事業「少子化社会における妊娠・出産にかかわる政策提言に関する研究」。平成15-17年度総合研究報告書。2006。

宮崎美砂子，奥田博子，井伊久美子。自然災害における保健師の派遣協力のあり方に関する実態調査。厚生労働科学研究費補助金特別事業「自然災害発生後の二次的健康被害発生防止及び有事における健康危機管理の保健所等行政機関の役割に関する研究」(主任研究者：大井田隆)平成17年度報告書。2006。

鈴木恵子，青柳玲子，飯田恵久子，齋藤ひろみ，藤本浩子，甫喜本光，井伊久美子，奥田博子。地域における健康危機管理のあり方検討小委員会報告 組織の中で健康危機管理に保健師の専門性を発揮するために。東京：日本看護

協会；2006。

福島富士子，主任研究者。厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業報告書「少子化社会における妊娠・出産にかかわる政策提言に関する研究」平成17年度研究報告書。2006。

福島富士子，宮里和子，藤内修二。子ども未来財団，児童関連サービス調査研究等事業「産後一ヵ月までの育児支援のあり方に関する研究」。平成17年度研究報告書。2006。

藤内修二，尾島俊之，福島富士子，他。厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「健やか親子21推進の効果に関する研究 地域における母子保健活動の評価の手引き」(主任研究者：山縣然太郎)平成17年度研究報告書。2006。

佐藤拓代，山下洋，福島富士子，他。厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「妊娠期からの虐待予防に関する研究」(主任研究者：奥山真紀子)平成17年度研究報告書。2006。

中板育美，高橋ゆきえ，横森喜代美，但馬直子，他。厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「児童虐待の発生予防・進行防止を目指す在宅養育支援の在り方に関する研究」(主任研究者：奥山真紀子)平成17年度研究報告書。2006。

渡辺好恵，中板育美，関美雪，他。厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「地域が中心になった虐待の在宅支援に関する研究」(主任研究者：奥山真紀子)平成17年度研究報告書。2006。

根本愛子，中板育美，他。全国保健師長会調査研究事業「児童虐待予防の推進及び新たなニーズに対する母子保健事業に関する研究(第2報)」(分担事業者：根本愛子)平成17年度報告書。2006。

中村敬，塚原洋子，松田博雄，中板育美，他。医療機関のための子育て支援ハンドブック 母子保健事業検討会報告。東京：東京都；2006。

中村敬，塚原洋子，松田博雄，中板育美，他。要支援家庭の把握と支援のための母子保健事業ハンドブック。母子保健事業検討会報告。東京：東京都；2006。

### Proceedings with abstracts

Okamoto R, Shiomi M, Makayama K, Hatono Y. An analysis about researcher's action to facilitate the professional development of public health nurses on action research in Japan. In : 7th International Interdisciplinary Conference Advances in Qualitative Methods ; July 2006 ; Melbourne, Australia.

Yonezawa H, Hirano K, Hatono Y, Okuda H. A survey of community health care programs for the prevention of housebound elderly in Japan 1 : Programs provided by

public health nurses in municipalities. In : 134th American Public Health Association Annual Meeting and Exposition ; Nov. 2006 ; Boston, U.S.A.

Hatono Y, Hirano K, Yonezawa H, Okuda H. A survey of community health care programs for the prevention of housebound elderly in Japan 2 : Activities conducted by community residents and related factors. In : 134th American Public Health Association Annual Meeting and Exposition ; Nov. 2006 ; Boston, U.S.A.

**生涯保健部**  
**Department of Health Promotion and Research**

**学術雑誌に発表した原著論文**

石井博子, 田中哲郎. 子どもたちを危険から守る 園での不慮の事故の現状 保育園での事故の現状とリスクマネジメント. チャイルドヘルス 2006; 9(1): 4-8.

内山有子, 田中哲郎. 子どもたちを危険から守る 園での不慮の事故の現状 アメリカにおける事故防止・安全教育プログラム. チャイルドヘルス 2006; 9(1): 9-11.

田中哲郎, 石井博子, 内山有子, 市川光太郎. 救急受診理由と病気の際の支援に関する調査. 日本小児救急医学会雑誌 2006.06; 5(1): 131-134.

石井博子, 田中哲郎. 保育園に子どもを通園させている保護者の家庭内危険箇所の理解度. 保育と保健2006.07; 12(2): 34-38.

瀧本秀美, 草間かおる, 吉池信男, 福岡秀興. 単胎正期産児の出生体重に影響する因子. 産婦人科の実験 2006; 55(8): 1277-1284.

小林正子. 成長曲線からみた思春期. 子どもと発育発達 2006; 3(4): 229-233.

小林正子, 山口類, 向井田紀子. 出生後の体重発育における日内変動, 週内変動, 自己回帰過程等の波動形成に関する検討 I (24 ヶ月まで). 日本成長学雑誌 2006; 12(1): 15-21.

須藤紀子, 吉池信男. 健康教育プログラムが2型糖尿病患者の血糖コントロールに及ぼす影響のメタ分析. 栄養学雑誌 2006; 64(6): 309-324.

**学術誌に発表した総説**

田中哲郎. 小児救急の現状と展望. 月刊保団連 2006; No.885: 4-8.

田中哲郎. 小児救急医療体制の整備のために. 都市問題 2006; 97(2): 67-73.

田中哲郎. わが国の子どもの事故の現状. 小児看護 2006; 29(3): 278-284.

瀧本秀美. 臨床栄養 母子栄養をめぐる最近の話題 若い女性のやせの増加と問題点. 臨床栄養 2006; 108(1): 14.

瀧本秀美. 臨床栄養 母子栄養をめぐる最近の話題 出生時体重の低下傾向について. 臨床栄養 2006; 108(2): 126.

瀧本秀美. 臨床栄養 母子栄養をめぐる最近の話題 乳児期の栄養に関する最近の動向. 臨床栄養 2006; 108(3): 254.

瀧本秀美. 臨床栄養 母子栄養をめぐる最近の話題 離乳に関する WHO の指針. 臨床栄養 2006; 108(4): 382.

瀧本秀美. 臨床栄養 母子栄養をめぐる最近の話題 非母乳栄養児の離乳に関する WHO の指針. 臨床栄養

2006; 108(5): 510.

瀧本秀美. 臨床栄養 母子栄養をめぐる最近の話題 栄養アセスメントと経済状況. 臨床栄養 2006; 108(6): 846.

瀧本秀美. 臨床栄養 妊娠期の体重管理—妊娠中の体重増加の考え方. 臨床栄養 2006; 109(2): 164-169.

小林正子. 子どもを一貫して見守るための母子健康手帳の活用について. 中国四国小児保健学会論文集 2006; 第15回: 23-24.

小林正子. 身長・体重・体重差グラフが語る子どもの心. 日本小児科学会雑誌 2006; 110(11): 1509-1512.

小林正子. 発育・発達の記録・管理と活用. 学校保健研究 2006; 48 (suppl.): 22-23.

須藤紀子. 母親のアルコール摂取と喫煙の胎児(新生児)への影響. 臨床栄養 2006; 109(2): 195-197.

**著書**

田中哲郎. 健康に必要な子どもの健康知識. 第2版. 京都: 東山書房; 2006.

田中哲郎. 幼児の事故の現状と事故防止1-1. 学校安全対策研究会, 編. 子どもの安全と危機管理. 東京: 第一法規出版; 2006.05.

田中哲郎. 乳幼児の事故の現状3-1-5. 学校安全対策研究会, 編. 子どもの安全と危機管理. 東京: 第一法規出版; 2006.05.

田中哲郎. 事故防止. 大関武彦, 古川漸, 横田俊一郎, 編. 今日の小児治療指針. 第14版. 東京: 医学書院; 2006.05.

衛藤隆, 田中哲郎, 横田俊一郎, 渡辺博, 編. 最新Q&A 教師のための救急百科. 東京: 大修館書店; 2006.

田中哲郎. 保育園における危険予知トレーニング—事故を防ぐリスク感性を磨くための一—. 東京: 日本小児医事出版社; 2006.

瀧本秀美. 母子関連数値. 日本栄養・食糧学会, 編. 栄養・食糧学データハンドブック. 東京: 同文書院; 2006. p.321-322.

加藤則子, 土井由利子, 瀧本秀美. 少子化問題と対策. 日本未病システム学会, 編. 未病医学入門. 東京: 金芳堂; 2006. p.29-31.

小林正子. 子どもの発育と発達—子どもの捉え方と対応—. 笠原賀子, 編著. 栄養教諭のための学校栄養教育論. 東京: 医歯薬出版株式会社; 2006. p.13-18.

佐藤加代子. 母子の公衆栄養プログラム, 公衆栄養マネジメント. 田中平三, 伊達ちぐさ, 佐々木敏, 編. 公衆栄養学. 東京: 南江堂; 2006. p.50-53.

佐藤加代子. 学童・思春期の公衆栄養プログラム, 公衆

栄養マネジメント. 田中平三, 伊達ちぐさ, 佐々木敏, 編. 公衆栄養学. 東京: 南江堂; 2006. p.53-55.

佐藤加代子. 成人の公衆栄養プログラム, 公衆栄養マネジメント. 田中平三, 伊達ちぐさ, 佐々木敏, 編. 公衆栄養学. 東京: 南江堂; 2006. p.54-58.

佐藤加代子. 高齢者の公衆栄養プログラム, 公衆栄養マネジメント. 田中平三, 伊達ちぐさ, 佐々木敏, 編. 公衆栄養学. 東京: 南江堂; 2006. p.58-59.

佐藤加代子. ライフステージ・ライフスタイル, 健康状態と栄養教育, 乳・幼児期. 武見ゆかり, 丸山千寿子, 足立淑子, 編. 栄養教育論. 東京: 南江堂; 2006. p.207-220.

佐藤加代子. 公衆栄養学の概念. 独立行政法人 国立健康・栄養研究所, 監修. 管理栄養士全科のまとめ. 東京: 南山堂; 2006. p.272.

佐藤加代子. 公衆栄養活動. 独立行政法人 国立健康・栄養研究所, 監修. 管理栄養士全科のまとめ. 東京: 南山堂; 2006. p.273.

佐藤加代子. 教育機関の立場から保健所・保健センター栄養士・管理栄養士への提言. 栄養士・管理栄養士まるとガイド. 改定5版. 2007: p43-46.

須藤紀子. 諸外国の栄養状況と施策. 八倉巻和子, 編著. N ブックス公衆栄養学. 第2版. 東京: 建帛社; 2006. p.207-217.

### 抄録のある学会報告

石井博子, 田中哲郎, 市川光太郎. 子どもが救急外来を受診した理由に関する検討. 第20回日本小児救急医学会; 2006.6.16-17; つくば.

石井博子, 田中哲郎, 市川光太郎. 子どもが病気の際の育児支援についての検討. 第20回日本小児救急医学会; 2006.6.16-17; つくば.

石井博子, 内山有子, 田中哲郎. 保護者の家庭内危険箇所の理解度. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53 (10 特別付録): 720.

石井博子, 田中哲郎. 保護者の家庭内危険箇所の理解度. 第53回日本小児保健学会; 2006.10.26-28; 甲府.

瀧本秀美. 妊娠期の低栄養の現状と改善への提言. 第58回日本産科婦人科学会学術総会シンポジウム; 2006.4; 横浜.

瀧本秀美. B群ビタミンと妊娠転帰への影響. 第46回日本先天異常学会学術集会シンポジウム「微量栄養素と先天異常»; 2006.6.29-30; 山形.

小林正子. 毎日体重測定による高齢者の健康管理と健康教育の可能性. 第15回日本健康教育学会; 2006.6.23-24; 東京. 日本健康教育学会誌 2006; 14 (suppl): 84-85.

小林正子. 身長・体重・体重差グラフが語る子どもの心. 第109回日本小児科学会; 2006.4.21-23; 金沢. 日本小児科学会雑誌 2006; 110(2): 139.

小林正子. 体重の毎日測定・記録による中高年者への健

康教育の可能性. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53(10 特別付録): 334.

小林正子. 発育から把握する保育園児の心身の健康状態—身長・体重・体重差グラフの活用—. 第53回日本小児保健学会; 2006.10.26-28; 甲府. 同学会講演集. p.360-361.

小林正子, 三木とみ子, 齋藤久美, 他. 「発育グラフソフト」を用いた児童生徒の健康管理. 第53回日本学校保健学会; 2006.11.10-12; 高松. 同学会講演集. p.172-173.

向井田紀子, 小林正子. 1日2回測定的身長・体重による乳幼児期の発育に関する研究. 第17回日本成長学会; 2006.11.25; 東京. 日本成長学会雑誌 2006; 12(2): 112.

小林正子, 山口類, 向井田紀子. 出生から5歳までの体重発育における日内変動・週内変動・自己回帰過程等のリズム形成に関する検討. 第17回日本成長学会; 2006.11.25; 東京. 日本成長学会雑誌 2006; 12(2): 113.

境道子, 柳堀朗子, 佐藤加代子. 千葉県鴨川市住民におけるメタボリックシンドロームリスク要因と生活習慣. 第53回日本栄養改善学会; 2006.10.25-27; つくば. 栄養学雑誌2006; 64 (Supplement): 237.

鈴木博子, 前田みゆき, 家永紀子, 佐藤加代子. 高齢者の食環境整備と食からの介護予防の取り組み. 第53回日本栄養改善学会; 2006.10.25-27; つくば. 栄養学雑誌 2006; 64 (Supplement): 341.

須藤紀子. 自治体による栄養・食生活支援に関する全国調査—自然災害発生後の二次的健康被害防止のために—. 第53回日本栄養改善学会学術総会; 2006.10.25-27; つくば. 栄養学雑誌 2006; 64 (Supplement): 74.

### その他学術報告 (研究調査報告書含む)

瀧本秀美. 妊娠中の母体体重増加量と妊娠転帰との関連. 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「若い女性の食生活はこのままで良いのか? 次世代の健康を考慮に入れた栄養学・予防医学的検討」(主任研究者: 吉池信男) 平成17年度研究報告書. 2006. p.42-47.

瀧本秀美. 海外における取り組みの状況について. 平成17年度児童関連サービス調査研究等事業「授乳・離乳の新たなガイドライン策定のための枠組みに関する研究」(主任研究者: 堤ちはる) 平成17年度研究報告書. 2006. p.179-182.

佐藤加代子, 前坂幾江, 鈴木博子, 前田みゆき, 他. 飲食店等の健康づくりメニュー提供店ガイドブック. 健康に配慮したメニュー提供推進事業. 平塚: 神奈川県平塚保健福祉事務所; 2007.

佐藤加代子. 企業の研究開発に携わる栄養士の活躍—企業の栄養士に求められるもの—. 栄養日本 2007; 50(1): 31.

佐藤加代子. 管理栄養士・栄養士と教育者のためのコーチングスキルの体験について. 栄養日本2006; 49(7):

29.

須藤紀子, 吉池信男. 自然災害発生後の二次的健康被害防止のための自治体による栄養・食生活支援に関する全国調査. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業

「自然災害発生後の2次的健康被害発生防止及び有事における健康危機管理の保健所等行政機関の役割に関する研究」(主任研究者: 大井田隆) 平成17年度総括・分担研究報告書. 2006. p.190-203.

### Originals

Takimoto H, Sugiyama T, Fukuoka H, Kato N, Yoshiike N. Maternal weight gain ranges for optimal fetal growth in Japanese women. *Int J Gynecol Obstet* 2006 ; 92 : 272-278.

Hayashi F, Takimoto H, Yoshita K, Yoshiike N. Perceived body size and desire for thinness of young Japanese women : a population-based survey. *Br J Nutr* 2006 ; 96 : 1154-1162.

Takimoto H, Tamura T. Increasing trend of spina bifida and decreasing birth weight in relation to declining body-mass index of young women in Japan. *Med Hypoth* 2006 ; 67 : 1023-1026.

Kobayashi Masako, Kobayashi Maiko. The relationship between obesity and seasonal variation in body weight among elementary school children in Tokyo. *Economics and Human Biology* 2006 ; 4(2) : 237-252.

Sudo N, Sekiyama M, Maharjan M, Ohtsuka R. Gender differences in dietary intake among adults of Hindu communities in lowland Nepal : assessment of portion sizes and food consumption frequencies. *Eur J Clin Nutr* 2006 ; 60 : 469-477.

Sudo N, Ohtsuka R. Effects of morning- and evening-shift workers on the sleep, dietary intake, and psycho-

physiological health conditions of Japanese female workers. *Jpn J Health Hum Biol* 2006 ; 72(5) : 177-190.

### Proceedings with abstracts

Ichikawa K, Tanaka T, Uchiyama Y. A comparative study of mortality data for all death and unintentional death between Japan and other advanced nations. In : 1st European Conference on Injury Prevention and Safety Promotion ; July 2006 ; Vienna, Austria.

Ishii H, Tanaka T, Uchiyama Y, Ichikawa K, Umeda M. The Possibility of childhood injury prevention and their information acquisition in Japan. In : 1st European Conference on Injury Prevention and Safety Promotion ; July 2006 ; Vienna, Austria.

Sudo N, Seino F, Yoshiike N. Food assistance and nutritional support systems for natural disasters in local governments in Japan. In : The 38th APACPH Conference 2006 & The 2nd International Public Health Conference ; Dec 3-6 2006 ; Bangkok, Thailand. p.98.

Sudo N, Yoshiike N. Effects of health education on glycemic control of type 2 diabetic patients : a meta-analysis. In : Asia Pacific EBM Network Conference ; Dec 8-10 2006 ; Hong Kong, China. p.136.

### 福祉サービス部

### Department of Health and Social Services

#### 学術雑誌に発表した原著論文

松本勝明. ドイツにおける介護給付と社会参加給付との関係. *海外社会保障研究* 2006 ; 154 : 16-25.

松本勝明. シュレーダー政権下での医療保険改革の評価と今後の展望. *海外社会保障研究* 2006 ; 155 : 4-13.

東野定律, 筒井澄栄, 矢嶋裕樹, 桐野匡史, 筒井孝子, 中嶋和夫. 要援護高齢者の主介護者における精神的健康. *厚生指標* 2006 ; 53(1) : 27-31.

筒井孝子, 東野定律. わが国の特定集中治療室における入室患者の実態とその特徴に関する研究. *病院管理* 2006 ; 2 : 43-52.

筒井孝子, 東野定律. 市町村保健師における「連携」の実態に関する研究. *日本公衆衛生雑誌* 2006 ; 53(10) : 762-775.

桐野匡史, 中嶋和夫, 筒井孝子, 小山秀夫. 潜在曲線モデルを用いた介護老人福祉施設入所高齢者におけるADL能力の経年変化とその関連要因の検討. *介護経営* 2006 ; 1

(2) : 92-100.

森川美絵, 増田雅暢, 栗田仁子, 原田啓一郎, 谷川ひとみ. 生活保護現業員の困難経験とその改善に関する研究—負担感・自立支援の自己評価を中心に. *厚生指標* 2006 ; 53(5) : 15-22.

森川美絵, 根本久仁子, 岡部卓, 新保美香. 生活保護における相談援助過程の評価にむけて. *賃金と社会保障* 2006 ; (1431) : 20-33.

#### 学術誌に発表した総説

松本勝明. 特集: ドイツ社会保障の進路—政権交代は何をもたらすか—趣旨. *海外社会保障研究* 2006 ; 155 : 2-3.

筒井孝子. わが国の要介護認定の特徴と今後の課題. *老年社会科学* 2006 ; 27(27) : 446-452.

筒井孝子. 改正介護保険法における地域包括ケア体制とは—地域包括支援センターの課題. *保健医療科学* 2006 ;

55(1) : 10-18.

筒井孝子. 看護の定量的評価手法. 看護部長通信 2006 ; 4(1) : 46-55.

筒井孝子. ITによる医療の構造改革と看護必要度. 看護管理 2006 ; 14(9) ; 04-10.

### 抄録のある学会報告

筒井孝子, 東野定律, 秋山智弥, 嶋森好子. 急性期入院医療における重症度・看護必要度基準の普及に関する研究—診断名と重症度・看護必要度の関係—. 第44回日本病院管理学会学術総会 ; 2006.10.19-20 ; 名古屋. 同演題抄録集. p.159.

筒井孝子, 東野定律, 秋山智弥, 桑原安江, 任和子, 嶋森好子. 入院ユニット別看護師充足率のモニタリングと安全な空床管理への対応—重症度・看護必要度基準を用いた病床管理の新たな指標—. 第44回日本病院管理学会学術総会 ; 2006.10.19-20 ; 名古屋. 同演題抄録集. p.162.

筒井孝子, 横山英世, 齋藤安彦, 兼坂佳孝, 井深英治, 金子明代, 中村裕美, 原野悟, 大井田隆. わが国の地域高齢者における睡眠時間と死亡構造との関連—4年間の縦断研究—. 第65回日本公衆衛生学会総会 ; 2006.10.25-27 ; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006 ; 53(10 特別付録) : 867.

筒井孝子, 東野定律, 成澤弘美. 介護予防事業におけるケアマネジメントの実際—介護予防事業における業務分類コードの開発—. 第65回日本公衆衛生学会総会 ; 2006.10.25-27 ; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006 ; 53(10 特別付録) : 746.

筒井孝子, 東野定律, 成澤弘美. 介護予防事業における保健師の役割. 第65回日本公衆衛生学会総会 ; 2006.10.25-27 ; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006 ; 53(10 特別付録) : 747.

筒井孝子, 東野定律, 成澤弘美. 要介護高齢者における介護予防事業の効果. 第65回日本公衆衛生学会総会 ; 2006.10.25-27 ; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006 ; 53(10 特別付録) : 747.

森川美絵, 根本久仁子, 岡部卓, 新保美香, 堅田香緒里. 生活保護における相談援助活動の評価にむけて—枠組みの設定と活動過程の項目化. 日本社会福祉学会第54回全国大会 ; 2006.10.7-8 ; 新座. 同要旨集. 2006. p.381.

根本久仁子, 森川美絵, 岡部卓, 新保美香, 堅田香緒里. 地方自治体における生活保護業務マニュアルの実際—マニュアルの策定状況と相談援助に関する記述内容の分析から. 日本社会福祉学会第54回全国大会 ; 2006.10.7-8 ; 新座. 同要旨集. 2006. p.380.

森川美絵. 生活保護における相談援助の質の標準化—現状および質評価の課題. 社会政策学会大第113回大会 ; 2006.10.21 ; 大分. (分科会報告)

### その他学術報告 (研究調査報告書含む)

松本勝明, ドイツ医療保険改革の動向, 厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業「医療等の供給体制の総合化・効率化等に関する研究」(主任研究者: 島崎謙治) 平成17年度研究報告書. 2006.

筒井孝子. 保健師活動の実態分析. 厚生労働科学研究費補助金厚生科学特別研究事業「健康フロンティア戦略における保健師配置基準の策定に関する研究」(主任研究者: 伊藤雅治) 平成17年度研究報告書. 2006.

筒井孝子, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業「介護サービスと類型化された要介護状態像との相互関連に関する研究」平成17年度研究報告書. 2006.

筒井孝子, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「地域保健サービスの担当職員における連携評価指標開発に関する統計的研究」平成17年度研究報告書. 2006.

筒井孝子, 主任研究者. 厚生科学研究費補助金健康科学総合研究事業「地域保健サービスの担当職員における連携評価指標開発に関する統計的研究」平成15～17年度総合報告書. 2006.

筒井孝子, 東野定律. 分冊 4-4 看護必要度にかかる特別調査(調査班長: 嶋森好子) 厚生労働科学研究費補助金「DPC導入の影響評価のための調査研究」(主任研究者: 熊本一朗) 平成17年度報告書. 2006

筒井孝子, 東野定律. 厚生労働省保健局医療課委託事業「看護必要度の普及に関する実態調査事業」(主任研究者: 田中彰子) 平成17年度報告書 ; 2006

筒井孝子, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究「地域保健サービスの担当職員における評価指標開発に関する統計的研究」平成17年度成果発表会(研究者向け) 報告書 ; 2006

森川美絵. 第3章 出産「少子化社会に関する国際意識調査」平成17年度報告書. 東京: 内閣府政策統括官(共生社会政策担当) ; 2006.

森川美絵, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業「生活保護の相談援助業務に関する評価指標の開発と, 指標の業務支援ツールとしての応用に関する研究」(課題番号: H17-政策-020) 平成17年度研究報告書. 2006.

### 視聴覚資料やデジタル媒体などによる研究成果

< DVD >

筒井孝子. 付録 看護必要度の評価者演習. 岩澤和子, 筒井孝子, 監修. 看護必要度第2版—看護サービスの新たな評価基準. 東京: 日本看護協会出版会 ; 2006.8.

## Originals

Asai T, Kaneita Y, Uchiyama M, Takemura S, Asai S, Yokoyama E, Miyake T, Harano S, Suzuki K, Ibuka E, Kaneko A, Tsutsui T, Ohida T. Epidemiological study of the relationship between sleep disturbances and somatic and psychological complaints among the Japanese general population. *Sleep and Biological Rhythms* 2006 ; 4 : 55-62.

Kaneko A, Kaneita Y, Yokoyama E, Miyake T, Harano S, Suzuki K, Ibuka E, Tsutsui T, Yamamoto Y, Ohida T. Factors associated with exclusive breast-feeding in Japan : for activities to support child-rearing with breast-feeding. *Journal of Epidemiology* 2006 ; 16 (2) : 49-56.

Kaneita Y, Yokoyama E, Miyake T, Harano S, Asai T, Tsutsui T, Ibuka E, Suzuki K, Kaneko A, Sone T, Takemura S, Kawahara K, Ohida T. Epidemiological study on passive smoking among Japanese infants and smoking behavior of their respective parents : a nationwide cross-sectional survey. *Preventive Medicine* 2006 ; 42 : 210-7

Tsutsui T, Higashino S, Taneda A, Yajima Y, Kirino M, Nakajima K. Research regarding studies of the factor structure of the Zarit Burden Interview. *The Journal of Japan Academy of Health Sciences* 2006 ; 9(1) : 5-15.

## 口腔保健部

### Department of Oral Health

#### 学術雑誌に発表した原著論文

安藤雄一, 平田幸夫, 石川清子, 鶴本明久, 眞木吉信. 地方自治体におけるフッ化物利用に関する施策の現状. *日本口腔衛生学会誌* 2006 ; 56 : 714-719.

石川正夫, 前田伸子, 譽田英喜, 武藤隆嗣, 安藤雄一, 渋谷耕司, 宮崎秀夫. 高齢者の口腔微生物叢に関する研究 70歳者の口腔状態と口腔微生物叢. *口腔衛生学会雑誌* 2006 ; 56 : 18-27.

和田英子, 福渡努, 佐々木隆造, 西牟田守, 宮崎秀夫, 花田信弘, 柴田克己. 高齢者の血液中 NAD および NADP 含量. *ビタミン* 2006 ; 80 (3) : 125-127.

岡山秀仁, 田中巽, 於保孝彦, 花田信弘, 鹿児島市における要介護認定申請者の現状と歯科関連項目の分析. *口腔衛生学会雑誌* 2006 ; 56 (3) : 233-239.

鴨田剛司, 今井敏夫, 佐藤勉, 今井奨, 西沢俊樹, 花田信弘. 人工口腔装置におけるスクロースのう蝕原性に及ぼす二糖類キシロシルフルクトシドの影響について. *口腔衛生学会雑誌* 2006 ; 56 (3) : 281-288.

原賀滋久, 濱寄朋子, 安細敏弘, 角田聡子, 秋房住郎, 吉田明弘, 花田信弘, 宮崎秀夫, 竹原直道. 弥生人の齲蝕発生部位とその特徴. *口腔衛生学会雑誌* 2006 ; 56 (1) : 71-78.

#### 学術雑誌に発表した総説

安藤雄一. 臨床論文から探る, 疑問解決のヒント う蝕ハイリスクの思春期小児に対し, クロルヘキシジンはう蝕予防効果があるのだろうか?. *The Quintessence* 2006 ; 25 : 466-469.

安藤雄一. 臨床論文から探る, 疑問解決のヒント 水道水フッロリデーションは, 小児う蝕の社会経済的格差を縮小させる. *The Quintessence* 2006 ; 25 : 903-905.

安藤雄一. 臨床論文から探る, 疑問解決のヒント 歯科

疫学情報を開業医の定期健診から収集することは可能か?. *The Quintessence* 2006 ; 25 : 1387-1389.

安藤雄一. 臨床論文から探る, 疑問解決のヒント 小学生に対して学校ベースで行ったシーラントを用いたう蝕予防プログラムは有効か?. *The Quintessence* 2006 ; 25 : 1827-1829.

安藤雄一. 臨床論文から探る, 疑問解決のヒント 食塩フッロリデーションは, う蝕予防に有効か?. *The Quintessence* 2006 ; 25 : 2293-2295.

安藤雄一. 臨床論文から探る, 疑問解決のヒント フッ化物洗口を中止すると虫歯は増えるか?. *The Quintessence* 2006 ; 25 : 2757-2759.

安藤雄一, 南郷里奈. コ克蘭・アブストラクトの紹介. 別冊 *The Quintessence*・科学的根拠に基づいた予防歯科 Year Book 2006-2007 : 310-314.

安藤雄一. 「健康日本21・歯の健康」データバンクの紹介. 8020 (はち・まる・にい・まる) 2006 ; 5 : 81-83.

伊藤中, 花田信弘, 保田好隆. う蝕・歯周病のプロセスに対する治療介入としてのリスクアセスメント. *The Quintessence* 2006 ; 25 (9) : 2037-2046.

花田信弘, 鴨井久一. 「歯周疾患のリスク判定と予防体系」確立へのアプローチ. *日本歯科評論* 2006 ; 765 : 53-57.

日野浦光, 花田信弘. カリオロジーの『現在』を読む なぜ *S.mutans* を除菌するのか? ワクチンで齲蝕予防はできるのか? 歯界展望 2006 ; 107 (2) : 382-386.

花田信弘. ミュータンスレンサ球菌の口腔感染とう蝕. 化学療法領域 2006 ; 22 (4) : 567-572.

#### 著書

花田信弘, 監修. 武内博朗, 編集. 目的別 P M T C とオーラルケア・バイオフィーム制御とオーラルケアの到達

点. 東京: クインテッセンス出版; 2006.

武内博朗, 岡山秀仁, 花田信弘. 第1章 バイオフィルムと抗菌療法④ Dental Drug Delivery System (3DS) —齲蝕原性菌, 歯周病関連菌の制御と発症前リスク低減療法—. デンタルハイジーン別冊・抗菌薬・殺菌薬とフッ化物. 東京: 医歯薬出版; 2006. p.35-42.

武内博朗, 花田信弘. 9. 目的別薬剤インデックス 予防歯科における薬とその使い方. 薬'06 ~ 07口腔疾患からみる治療薬と処方例. 東京: クインテッセンス出版; 2006.

武内博朗, 花田信弘. 抗菌療法のエビデンスと実際. 細菌検査と抗菌療法臨床応用 3DSと化学療法による歯周病関連菌の除菌細菌検査を用いた歯周治療のコンセプト—リスクコントロールとしての抗菌療法—. 東京: 医学情報社; 2006. p.134-146.

花田信弘, 武内博朗, 丸森英史, 内山茂, 豊島義博, 田上順次, 吉山昌宏, 宮崎真至, 日野浦光. 目的別 PMTC とオーラルケア —バイオフィルム制御とオーラルケアの到達点— (クイント・ブックレットシリーズ). 東京: クインテッセンス出版; 2006.

武内博朗, 花田信弘. ペンスコープ VIS-41 [(株) モリタ] 歯科診療を“見える化”する機器の有効活用. 明石俊和, 津田忠政, 編著. 日本歯科評論 増刊 2006. 東京: ヒョーロン; 2006.11.

花田信弘, 豊島義博, 編著. 予防歯科 Year Book —科学的根拠に基づいた— (2006-2007); あなたの笑顔が見たいから. 東京: クインテッセンス出版; 2006.12.

### 抄録のある学会報告

今井奨, 食品のエナメル質脱灰性の評価と展望. シンポジウム: 厚生労働省許可特定保健用食品の歯科における課題と展望. 第55回日本口腔衛生学会総会; 2006.10.8; 大阪.

福島和雄, 門澤久美子, 河内太吉, 井田博久, 西山佳秀, 小林清吾, 今井奨, 花田信弘. *S. mutans* と *S. sobrinus* の口腔内レベルを同時評価できる集団歯科検診用の簡便・低コスト培養システムの確立. 第55回日本口腔衛生学会総会; 2006.10.8; 大阪.

### Originals

Kamoda T, Imai T, Sato T, Imai S, Nisizawa T, and Hanada N. Effect of disaccharide xylosylfructoside on sucrose cariogenicity in an artificial mouth system. J Dental Health 2006; 56: 281-288.

Aida J, Ando Y, Aoyama H, Tango T, Morita M. An Ecological study on the association of public dental health activities and sociodemographic characteristics with caries prevalence in Japanese 3-Year-old children. Caries Res 2006; 40: 466-472.

Aida J, Ando Y, Akhter R, Aoyama H, Masui M, Morita M. Reasons for permanent tooth extractions in Japan. J

薄井由枝, 今井奨, 花田信弘, 植松宏. 要介護者における口腔細菌数の経時的変化に関する研究. 第23回日本障害者歯科学会総会; 2006.10.20-21; 仙台.

安藤雄一, 中垣晴男, 宮崎秀夫, 葭原明弘, 荒川浩久, 他. 乳幼児歯科健診受診児の母親を対象とした全国歯科保健実態調査 う蝕有病状況に関する報告. 第55回日本口腔衛生学会総会; 2006.10.8; 大阪. 口腔衛生学会雑誌 2006; 56: 461.

坂本友紀, 安藤雄一, 鳥山佳則, 田口円裕, 花田信弘, 日高勝美. 平成17年歯科疾患実態調査結果からみた成人の口腔保健の状況. 第55回日本口腔衛生学会総会; 2006.10.6-8; 大阪. 口腔衛生学会雑誌 2006; 56: 524.

二宮恵子, 安藤雄一. 幼児の保護者を対象とした歯科保健指導の効果. 第55回日本口腔衛生学会総会; 2006.10.6-8; 大阪. 口腔衛生学会雑誌 2006; 56: 568.

相田潤, 森田学, 新美完, 大坂美貴子, 安藤雄一. 地域社会が3歳児のう蝕経験に及ぼす影響 マルチレベル分析を用いた検討. 第55回日本口腔衛生学会総会; 2006.10.6-8; 大阪. 口腔衛生学会雑誌 2006; 56: 458.

安藤雄一, 坂本友紀, 日高勝美, 花田信弘. わが国における高齢者の歯の喪失状況. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53 (10 特別付録): 873.

相田潤, 森田学, 安藤雄一. 12歳児 DMFT の減少に対するフッ化物洗口の影響の分析. 第16回日本口腔衛生学会北海道地方会総会; 2006.2.18; 札幌. 口腔衛生学会雑誌 2006; 56: 341.

花田信弘. バイオフィルムから小児歯科治療を考える. 第45回日本小児歯科学会大会・総会; 2006.5.25; 松本. 小児歯科学雑誌 2006; 44 (2): 40-41.

早乙女裕彦, 植松宏, 泉福英信, 多田章夫, 花田信弘, 葭原明弘, 宮崎秀夫. 75歳自立高齢者におけるう蝕原因菌と歯周病, 根面う蝕との関係. 第71回口腔病学会学術大会; 2006.12.8-9; 東京. 口腔病学会雑誌 2006; 73 (1): 148.

花田信弘. 口腔細菌の様々な生き残り戦略. 第7回日本口腔機能水学会学術大会; 2006.2.25-26; 神戸.

Epidemiol 2006; 16: 214-219.

Nishikawara F, Katsumura S, Ando A, Tamaki Y, Nakamura Y, Sato K, Nomura Y, Hanada N. Correlation of cariogenic bacteria and dental caries in adults. J Oral Sci 2006; 48 (4): 245-251.

Nomura Y, Tamaki Y, Tanaka T, Arakawa H, Tsurumoto A, Kirimura K, Sato T, Hanada N, Kamoi K. Screening of periodontitis with salivary enzyme tests. J Oral Sci 2006; 48 (4): 177-183.

Saotome Y, Tada A, Hanada N, Yoshihara A, Uematsu H, Miyazaki H, Senpuku H. Relationship of cariogenic bacteria levels with periodontal status and root surface caries in

elderly Japanese. *Gerodontology* 2006 ; 23 (4) : 219-225.

Kaneko N, Yoshihara A, Ida H, Nomura Y, Imai S, Nisizawa T, Sakuma S, Hanada N, Miyazaki H. Influence of a fluoride mouthrinse on mutans streptococci in school children. *Caries Res* 2006 ; 40 (6) : 501-507.

Tamaki Y, Nomura Y, Takeuchi H, Ida H, Arakawa H, Tsurumoto A, Kumagai T, Hanada N. Study of the clinical usefulness of a dental drug system for selective reduction of mutans streptococci using a case series. *J Oral Sci* 2006 Sep ; 48 (3) : 111-116.

Motegi M, Takagi Y, Yonezawa H, Hanada N, Terajima J, Watanabe H, Senpuku H. Assessment of genes associated with *Streptococcus mutans* biofilm morphology. *Appl Environ Microbiol* 2006 ; 72 (9) : 6277-6287.

Tada A, Senpuku H, Motozawa Y, Yoshihara A, Hanada N, Tanzawa H. Association between commensal bacteria and opportunistic pathogens in the dental plaque of elderly individuals. *Clin Microbiol Infect* 2006 ; 12 (8) : 776-781.

Yano A, Takekoshi M, Morita E, Imai S, Nisizawa T, Hanada N. Production of Fab fragment corresponding to surface protein antigen of *Streptococcus mutans* serotype c-derived peptide by *Escherichia coli* and cultured tobacco cells. *J Biosci Bioeng* 2006 Mar ; 101 (3) : 251-256.

Naito M, Yuasa H, Nomura Y, Nakayama T, Hamajima N, Hanada N. Oral health status and health-related quality of life : a systematic review. *J Oral Sci* 2006 ; 48 (1) : 1-7.

Nishikawara F, Nomura Y, Tamaki Y, Katsumura S, Asada Y, Hanada N. Fluoride-containing toothpastes available in two European countries. *Pediatric Dental Journal* 2006 ; 16 (2) : 187-195.

Nishikawara F, Nomura Y, Tamaki Y, Katsumura S, Asada Y, Hanada N, Petersen PE. Fluoride-containing mouthrinses in three European countries. *Pediatric Dental Journal* 2006 ; 16 (1) : 118-122.

Nishikawara F, Nomura Y, Hanada N. Detection of mutans streptococci by mMSB-kit. *Bacterial Adherence & Biofilm* 2006 ; 19 : 65-73.

### Proceedings with abstracts

Arai T, Imai S, Hanada N, Yaegaki K, Kamoi K, Numabe Y. Evaluation of periodontopathic microorganisms in subgingival plaque by mouth air. In : The 3rd Conference of Asian Association for Breath Odor Research ; November 2006 ; Okayama.

Imai S, Tagashira M, Kanda T, Ohtake Y, Itayama M, Yamamoto Y, Hanada N. Inhibition of *Streptococcus mutans* activity by hop bract polyphenols. In : 84th International Association for Dental Research General Session & Exhibition ; June 2006 ; Brisbane, Australia.

Hanada N, Hiramatsu M, Kimura M, Imai S. Inhibitory effect of lactobacilli against growth of mutans streptococci. In : 84th International Association for Dental Research General Session & Exhibition ; June 2006 ; Brisbane, Australia.

Usui Y, Imai S, Kaeriyama E, Hanada N, Uematsu H. Evaluation of Ag (NH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>F solution as an inhibitor of dentin demineralization. In : 84th International Association for Dental Research General Session & Exhibition ; June 2006 ; Brisbane, Australia.

Takeuchi H, Okuda K, Okayama H, Imai S, Senpuku H, Hanada N. New fluorescence method to detect periodontopathic biofilm. In : 84th International Association for Dental Research General Session & Exhibition ; June 2006 ; Brisbane, Australia.

Yoshihara A, Hiroto T, Takano N, Kondo T, Hanada N, Miyazaki H. The relationship between chronic dehydration and saliva conditions. In : 84th International Association for Dental Research General Session & Exhibition ; June 2006 ; Brisbane, Australia.

Nomura Y, Tamaki Y, Sato T, Hanada N, Kamoi K. Screening and prediction of the periodontal disease by salivary enzymes. In : 84th International Association for Dental Research General Session & Exhibition ; June 2006 ; Brisbane, Australia.

Nomura Y, Tamaki Y, Nishikawara F, Katsumura S, Hanada N. Application of the balancing technique for dental caries prediction model. In : 35th Annual Meeting & Exhibition of the AADR 30th Annual Meeting of the CADR 83rd Annual Meeting & Exhibition of ADEA ; March 8-11, 2006 ; Orlando, Florida.

Nishikawara F, Wada Y, Nomura Y, Hanada N. Influence of the semiconductor TiO<sub>2</sub> on *Streptococcus mutans*. In : IADR Pan European Federation 2006 ; 13-16 September 2006 ; Dublin.

Hanada N. Symposium IV : Caries Risk Assessment. In : 7th Congress of AAPD Theme Health-oriented Concept in Dentistry. 2006. (Symposium)

## 生活環境部 Department of Environmental Health

### 学術雑誌に発表した原著論文

- 鈴木元. 健康危機発生時の行政対応—医療側からの要望  
①原子力災害. 公衆衛生 2006; 170: 192-194.  
影山志保, 中島大介, 山本貴士, 峯木茂, 遠藤治, 高木敬彦, 光崎研一, 後藤純雄. 植物質土壌改良剤の変異原性検索. 環境化学 2006; 16: 43-49.  
大森清美, 中島大介, 江副優香, 森康明, 伏脇祐一, 遠藤治, 武田健, 後藤純雄. 粒径別に分級採取した空気浮遊粒子の発がんプロモーション活性. 環境化学 2006; 16: 119-123.

### 学術誌に発表した総説

- 永井良三, 栗井一夫, 家坂義人, 石綿清雄, 菊池透, 櫻田春水, 庄田守男, 宋寅傑, 谷樹昌, 西谷弘, 平田恭信, 水谷宏, 山口一郎, 山下尋史, 和泉徹, 大江透, 上松瀬勝男, 山口徹. 循環器診療における放射線被ばくに関するガイドライン. 日本循環器学会 循環器病の診断と治療に関するガイドライン (2004-2005年度合同研究班報告). Circulation Journal 2006; 70- Suppl.IV: 1247-1299.  
諸澄邦彦, 安部真治, 佐藤斉, 高橋康幸, 富樫厚彦, 中村豊, 山口一郎, 笹川泰弘, 笹沼和智, 佐藤寛之, 佐藤洋一, 鈴木昇一, 水谷宏, 門田敏秀, 渡辺浩. 放射線診療における線量低減目標値 医療被ばくガイドライン2006. 日本放射線技師会雑誌 2006; 53: 1405-1418.

### 著書

- 鈴木元. 浅野茂隆, 池田康夫, 内山卓, 監修. 三輪血液病学. 東京: 文光堂; 2006. p.1867-1877.  
菊地透, 栗井一夫, 井原智, 大野和子, 古賀佑彦, 島野達也, 鈴木昇一, 多田順一郎, 田中淳司, 山口一郎. 医療領域の放射線管理マニュアル. 東京: 医療放射線防護連絡協議会; 2006.

### 抄録のある学会報告

- 鈴木元. 放射能テロ・ダーティ爆弾. 第22回医療放射線の安全利用研究会フォーラム; 2006.3.24; 東京. 同抄録集: 医療放射線防護 NEWSLETTER 2006; 46: 39-42.  
鈴木元, 藤原佐枝子, 西信雄, 田原榮一. 胃癌コホート内症例対照研究(2), CagA IgG抗体低力価は, 将来の非噴門部胃癌のリスクを高める. 第65回日本癌学会; 2006.9.28-30; 横浜.  
藤原佐枝子, 鈴木元, Harry Cullings, 西信雄, 早田みどり, 田原榮一. 胃癌組織学的異型度による原爆放射線被爆影響に違いはあるのか? 日本放射線影響学会第49回大会; 2006.9.6-8; 札幌.  
寺田宙, 鈴木元, 横浜検疫所輸入食品・検疫検査セン

ター, 神戸検疫所輸入食品・検疫検査センター, 飯島育代, 磯村公郎, 杉山英男. 生活環境における放射線の実態把握と評価—食品中放射性核種—. 第19回公衆衛生情報研究協議会研究会; 2006.2.9-10; 秋田. 同抄録集. 2006. p.27-28.

杉山英男, 寺田宙, 高橋光子, 飯島育代, 磯村公郎. 食品中有害物質としての放射性核種の摂取量評価. 日本薬学会第126年会; 2006.3.28-30; 仙台. 同要旨集 3. 2006. p.174.

小林淳, 寺田宙, 杉山英男. ICP-MSによる環境微量ビスマスの測定. 日本薬学会第126年会; 2006.3.28-30; 仙台. 同要旨集 3. 2006. p.177.

桑原千雅子, 大草沙矢香, 前田千佳, 安齊洋次郎, 杉山英男, 加藤文男. 森林土壌から分離したCd耐性菌のホスファターゼ活性. 日本薬学会第126年会; 2006.3.28-30; 仙台. 同要旨集 3. 2006. p.195.

前田千佳, 角入悠文, 佐藤美津穂, 桑原千雅子, 杉山英男, 加藤文男. *Streptomyces lividans* TK24のK<sup>+</sup>輸送に関わると推定されるtrkA破壊株の性状. 日本薬学会第126年会; 2006.3.28-30; 仙台. 同要旨集3. 2006. p.195.

手島玲子, 米谷民雄, 森本隆夫, 中山一成, 藤田博喜, 磯村公郎, 杉山英男, 池淵秀治, 佐治英郎. イオン交換法によるストロンチウム90の定量. 日本薬学会第126年会; 2006.3.28-30; 仙台. 同要旨集 3. 2006. p.203.

寺田宙, 飯島育代, 磯村公郎, 高橋光子, 杉山英男. 日本国内各地域における食事由来の放射能摂取量・被ばく線量に関する研究. 日本放射線影響学会第49回大会; 2006.9.6-8; 札幌. 同要旨集. 2006. p.164.

杉山英男, 高橋光子, 寺田宙, 加藤文男. キノコによるセシウムの特異的高濃縮性に関する検討. フォーラム2006, 衛生薬学・環境トキシコロジー; 2006.10.30-31; 東京. 同講演要旨集. 2006. p.178.

小林淳, 寺田宙, 杉山英男. 環境水中微量ビスマスの存在と細胞毒性に関する検討. フォーラム2006, 衛生薬学・環境トキシコロジー; 2006.10.30-31; 東京. 同講演要旨集. 2006. p.200.

桑原千雅子, 前田千佳, 杉山英男, 加藤文男. 土壌微生物のCs蓄積に関与するとされるK<sup>+</sup>輸送系の研究. 第43回全国衛生化学技術協議会年会; 006.11.1-2; 米子. 同要旨集. 2006. p.151-152.

Endo O, Kamoshita M, Kosaka K, Asami M, Aizawa T, Suzuki G. Mutagenicity of chlorination by-products of butamifos. 第35回日本環境変異原学会大会; 2006.11.20-21; 堺; 2006. p.105.

松本真理子, 杉田和俊, 小谷野道子, 遠藤治, 後藤純雄, 鈴木元. ニコチン分析に用いるGC/MSカラムの比較

検討. 平成18年度室内環境学会総会・研究発表会; 2006.11.27-28; 東京. 室内環境学会誌 2006; 9; 48-49.

川上由紀子, 中島大介, 杉田和俊, 峯木茂, 白石不二雄, 鈴木規之, 高木敬彦, 遠藤治, 後藤純雄. 半揮発性PAH類抽出溶液の濃縮法について. 平成18年度室内環境学会総会・研究発表会; 2006.11.27-28; 東京. 室内環境学会誌 2006; 9; 54-55.

山口一郎, 鈴木元, 寺田宙, 三宅定明, 杉山英男. 生活環境における放射線の実態把握と評価～医療放射性核種～. 第19回公衆衛生情報研究協議会研究会; 2006.2.9-10; 秋田. 同抄録集. 2006. p.29-30.

山口一郎, 緒方裕光. イブリツモマブ チウキセタン投与後の患者の退出基準についての検討. 日本保健物理学会第40回研究発表会; 2006.6.8-9; 広島. 同要旨集. 2006. p.63.

山口一郎. 先端放射線計測技術と放射線安全管理医療分野での開発と応用 患者の局所や各臓器への線量をどの程度把握すべきか? JRSM6月シンポジウム; 2006.6.22-23; 東京. 日本放射線安全管理学会誌 2006; 5; 90.

山口一郎. 放射性医薬品の治験における医療従事者および公衆の放射線防護. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53 (10 特別附録): 1026.

岩波茂, 丹羽由輝代, 倉品祐二, 山口一郎. カラードーズインジケータラベルの方向依存性の検討. 日本放射線安全管理学会第5回学術大会; 2006.11.29-12.1; 名古屋. 同大会予稿集. p.41.

山口一郎, 岩波茂, 古井滋, 鈴木滋. 診断領域のX線に対する放射線インジケータの方向依存性. 日本放射線安全管理学会第3回学術大会; 2006.11.29-12.1; 名古屋. 同大会予稿集. p.105.

飯田毅象, 藤井伸哉, 牛山明, 安村和彦, Shan S, 大久保千代次, 谷下一夫. 胸部観察窓を用いた正所移植腫瘍の生体内顕微鏡観察. 日本機械学会第18回バイオエンジニアリング講演会; 2006.1.22-23; 新潟. 同論文集. p.289-290.

飯田毅象, 藤井伸哉, 牛山明, 安村和彦, Shan S, 大久保千代次, 谷下一夫. 胸部観察窓を用いた正所移植腫瘍のリポソーム投与における血流への影響. 第31回日本微小循環学会; 2006.2.10-11; 東京. 同予稿集. p.44.

牛山明, 増田宏, 廣田彰吾, 高橋美雪, 大久保千代次. 実験動物を用いた電磁界の生体影響の検討. 第21回日本生体磁気学会大会シンポジウム招待講演; 2006.6.1-2; 東京. 同論文集. p.8-9.

藤井伸哉, 飯田毅象, 牛山明, 安村和彦, Shan S, 谷下一夫. 胸部観察窓による乳がん正所モデルの微小循環内観察: LUV蓄積による血流阻害効果. バイオイメーキング学会第15回学術集会; 2006.10.31-11.2; 盛岡. 同要旨集. p.141-142.

## その他学術報告 (研究調査報告書含む)

杉山英男, 寺田宙, 高橋光子, 磯村公郎, 飯島育代. 食品中の放射性核種の摂取量調査・評価研究. 厚生労働科学研究費補助金食品の安心・安全確保推進研究事業「食品中の有害物質等の摂取量の調査及び評価に関する研究」(主任研究者: 松田りえ子, 分担研究者: 杉山英男. 課題番号: H16-食品-015) 平成17年度研究報告書. 東京: 松田りえ子; 2006. p.51-87.

杉山英男. 走査電子顕微鏡-X線マイクロアナライザ(SEM-EDX)によるキノコ(ヒラタケ; *Postreatus* Y-1)菌糸内の元素分布. 保健物理 2006; 41(1): 2.

遠藤治. 高残留性人工フッ素化合物の環境動態メカニズムの解明と安全性評価に関する研究(主任研究者: 山下信義). 平成17年度環境保全成果集(CD-ROM). 東京: 環境省; 2006.

遠藤治. 環境中の変異原性物質に関する調査研究(班長: 渡辺徹志). 平成17年度環境省委託業務結果報告書. 東京: 財団法人日本公衆衛生協会; 2006.

山口一郎. 医療機関における適切な放射線防護及び関係する制度についての研究. 課題(1)放射線免疫療法治療薬「イブリツモマブ チウキセタン」の適正使用及び投与された患者の管理区域からの退出基準など放射線安全防护策についての検討. 厚生労働省科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「医療放射線分野における法令整備等含めた管理体制に関する研究」(主任研究者: 油野民雄. 課題番号: H16-医療-008) 平成17年度研究報告書. 2006.

山口一郎. 医療機関における適切な放射線防護及び関係する制度についての研究. 課題(2)診療用放射性同位元素使用室への入退出時における患者のスリッパ履き替えの必要性についての検討. 厚生労働省科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「医療放射線分野における法令整備等含めた管理体制に関する研究」(主任研究者: 油野民雄. 課題番号: H16-医療-008) 平成17年度研究報告書. 2006.

山口一郎. 医療機関における適切な放射線防護及び関係する制度についての研究. 課題(3)初療室でのエックス線装置の使用に関する規制整備のあり方についての検討. 厚生労働省科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「医療放射線分野における法令整備等含めた管理体制に関する研究」(主任研究者: 油野民雄. 課題番号: H16-医療-008) 平成17年度研究報告書. 2006.

山口一郎. 医療機関における適切な放射線防護及び関係する制度についての研究. 課題(4)医療機関から公共下水道に排出される排水中の放射能濃度. 厚生労働省科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「医療放射線分野における法令整備等含めた管理体制に関する研究」(主任研究者: 油野民雄. 課題番号: H16-医療-008) 平成17年度研究報告書. 2006.

山口一郎. 医療機関における適切な放射線防護及び関係する制度についての研究. 課題(5)モバイルPETに関する放射線防護上の検討. 厚生労働省科学研究費補助金医療技

術評価総合研究事業「医療放射線分野における法令整備等を含めた管理体制に関する研究」（主任研究者：油野民雄，課題番号：H16-医療-008）平成17年度研究報告書，2006。

山口一郎，医療機関における適切な放射線防護及び関係する制度についての研究，課題(6)放射線管理における情報処理技術の活用への規制の適用のあり方についての検討，厚生労働省科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「医療放射線分野における法令整備等を含めた管理体制に関する研究」（主任研究者：油野民雄，課題番号：H16-医療-008）平成17年度研究報告書，2006。

清堂峰明，坂下恵治，山口一郎，救急処置室への据付型X線装置の設置について，日本放射線技師会雑誌 2006；53：369-374。

岡崎真弓，清堂峰明，山口一郎，分割利用が可能なAngio-CT装置の設置について，日本放射線技師会雑誌 2006；53：542-545。

清堂峰明，泉對則男，山口一郎，移動型エックス線装置の使用に伴う記録について，日本放射線技師会雑誌 2006；53：646-649。

諸澄邦彦，泉對則男，清堂峰明，山口一郎，エックス線装置の一週間当りの延べ使用時間の記載，日本放射線技師会雑誌 2006；53：744-749。

清堂峰明，松尾浩一，泉對則男，山口一郎，漏えい線量の測定について（医療法施行規則第30条の22関係）日本放射線技師会雑誌 2006；53：866-871。

清堂峰明，泉對則男，山口一郎，医療放射線施設の遮蔽計算，日本放射線技師会雑誌 2006；53：978-981。

金子直樹，岡崎真弓，清堂峰明，山口一郎，放射線診療従事者の届出，日本放射線技師会雑誌 2006；53：1487-1491。

金子直樹，清堂峰明，山口一郎，デュアルソース（二つのエックス線管を持つ）CTの許可・届出，日本放射線技師会雑誌 2006；53：1615-1619。

大場久照，山口一郎，加藤英幸，田中真司，諸澄邦彦，渡辺浩，国際免除レベルの導入に伴う医療法施行規則の改正概要について，日本放射線技術学会雑誌 2006；62：53-58。

渡辺浩，山口一郎，大場久照，田中真司，加藤英幸，諸澄邦彦，法改正に伴う放射線障害予防規程の改訂における留意点等について，日本放射線技術学会雑誌 2006；62：253-265。

山口一郎，大場久照，加藤英幸，田中真司，諸澄邦彦，

渡辺浩，放射性医薬品の治験に関する規制整備の現状と課題，日本放射線技術学会雑誌 2006；62：266-270。

山口一郎，大場久照，加藤英幸，田中真司，諸澄邦彦，渡辺浩，放射線管理における情報処理技術の活用と規制，日本放射線技術学会雑誌 2006；62：401-406。

大場久照，山口一郎，加藤英幸，田中真司，星野豊，渡辺浩，細羽実，吉村仁，野口雄司，放射線管理諸記録を電子保存するための法規制等の概要について，日本放射線技術学会雑誌 2006；62：1644-1652。

山口一郎，医療放射線管理における法令適用の課題とその解決策の模索，医療放射線防護 2006；45：12-16。

山口一郎，外国為替令及び輸出貿易管理令の一部改正と医療放射線源のセキュリティ，医療放射線防護 2006；46：49-51。

山口一郎，医療放射線分野の許認可手続きの課題，医療放射線防護 2006；47：11-15。

山口一郎，放射線診療施設の申請手続きについて，医療放射線防護 2006；47：44-53。

山口一郎，多田順一郎，チェルノブイリ原発事故の健康影響 その全体像，医療放射線防護 2006；46：59-64。

牛山明，増田宏，厚生労働科学研究費補助金がん予防等健康科学総合研究事業「発達段階にある脳を対象とする携帯電話周波数帯電磁界曝露の血液脳関門に及ぼす影響に関する研究」（主任研究者：牛山明，H16-がん予防-096）平成17年度総括研究報告書，2006，p.1-44。

大久保千代次，牛山明，増田宏，平成15～17年度厚生労働科学研究費補助金がん予防等健康科学総合研究事業「発達段階にある脳を対象とする携帯電話周波数帯電磁界曝露の血液脳関門に及ぼす影響に関する研究」（主任研究者：大久保千代次，牛山明，H16-がん予防-096）平成15～17年度総合研究報告書，2006，p.1-105。

牛山明，発達段階にある脳を対象とする携帯電話周波数帯電磁界曝露の血液脳関門に及ぼす影響に関する研究，平成17年度厚生労働科学研究 健康科学総合研究成果発表会（研究者向け）報告書，東浦町（愛知県）：財団法人長寿科学振興財団；2006，p.32-38。

## 視聴覚資料やデジタル媒体などによる研究成果

山口一郎，診療放射線に関わる危機管理，平成18年度東京都特別区職員研修所診療放射線専門研修テキスト，2006，p.9-67。

## Originals

Imaizumi M, Usa T, Tominaga T, Neriishi K, Akahoshi M, Nakashima E, et al. Radiation dose-response relationships for thyroid nodules and autoimmune thyroid diseases in Hiroshima and Nagasaki atomic-bomb survivors 55 - 58 years after radiation exposure. JAMA 2006；295：1011-1022。

Hakoda M, Kasagi F, Kusunoki Y, Matsuura S, Hayashi T, Kyoizumi S, et al. Levels of antibodies to microorganisms implicated in atherosclerosis and of C-reactive protein among atomic bomb survivors. Radiat Res 2006；166：360-366。

Ohashi W, Fujiwara S, Suzuki G, Kishi T, Sora M, Matsuura S, et al. Feasibility of freeze-dried sera for

serological and molecular biological detection of hepatitis B and C viruses. *J Clin Microbiol* 2006 ; 44 : 4593-4595.

Sugiyama H, Terada H, Takahashi M, Iijima I, Isomura K. Contents and daily intakes of gamma-ray emitting nuclides, <sup>90</sup>Sr, and <sup>238</sup>U using market-basket studies in Japan. *J Health Sci* 2006 ; Published online Nov. 10.

Kobayashi J, Terada H, Sugiyama H. Distribution of Aluminum in aqueous environments. *J Tsuruma Health Sci Soc* 2006 ; 30 : 33-39.

Masuda H, Sanchez S, Dulou PE, Haro E, Anane R, Billaudel B, Leveque P, Veyret B. Effect of GSM-900 and -1800 signals on the skin of hairless rats. I : 2-hour acute exposures. *Int J Radiat Biol* 2006 ; 82 : 669-674.

Sanchez S, Masuda H, Billaudel B, Haro E, Anane R, Leveque P, Ruffie G, Lagroye I, Veyret B. Effect of GSM-900 and -1800 signals on the skin of hairless rats. II : 12-week chronic exposures. *Int J Radiat Biol* 2006 ; 82 : 675-680.

### Books

Traikov L, Ushiyama A, Lawlor G, Ohkubo C. Changes of the magnitude of arteriolar vasomotion during and after ELF-EMF exposure in Vivo. In : Ayrapetyan N, Markov MS, editors. *Bioelectromagnetics current concepts : The Mechanisms of the biological effect of extremely high power pulses*. Berlin : Springer-Verlag ; 2006. p.377-389.

### Proceedings with abstracts

Sugiyama H, Takahashi M, Terada H, Kato F. Speciation of high-level cesium accumulation in edible mushroom *Pleurotus ostreatus*. In : *Forum 2006 : Pharmaceutical Health Science · Environmental Toxicology* ; 2006 Oct. 30-31 ; Tokyo, J. Health Sci., 52 (Supplement). 2006. p.178.

Kobayashi J, Terada H, Sugiyama H. Existence of trace bismuth in environmental water samples and cell toxicity of their compounds. In : *Forum 2006 : Pharmaceutical Health Science · Environmental Toxicology* ; 2006 Oct. 30-31 ; Tokyo, J. Health Sci., 52 (Supplement). 2006. p.200.

Hirota S, Masuda H, Ushiyama A, Takahashi M, Tanaka S, Kawai H, Wake K, Watanabe S, Taki M, Ohkubo C. Real-time measurement of brain microcirculation during RF-EMF exposure using an 8-shaped loop antenna. In : *The 4th International Workshop on Biological effects of Electromagnetic Field* ; 2006 Oct. 16-20 ; Crete, Greece. *Proceedings CD-ROM*. 2006. p.961-963.

Ushiyama A, Masuda H, Hirota S, Kawai H, Tanaka S, Wake K, Watanabe S, Suzuki Y, Taki M, Ohkubo C. Biological effect on blood-cerebrospinal fluid barrier due to radio frequency electromagnetic fields exposure of the rat

brain in vivo. In : *The 4th International Workshop on Biological effects of Electromagnetic Field* ; 2006 Oct. 16-20 ; Crete, Greece. *Proceedings CD-ROM*, 2006. p.1238-1240.

Takahashi M, Hirota S, Masuda H, Ushiyama A, Tanaka S, Kawai H, Wake K, Watanabe S, Taki M, Ohkubo C. Transient effects of RF-EMF exposure on the brain microcirculation in either juvenile or adult rats. In : *The 4th International Workshop on Biological effects of Electromagnetic Field* ; 2006 Oct. 16-20 ; Crete, Greece. *Proceedings CD-ROM*, 2006. p.1196-1198.

Masuda H, Ushiyama A, Takahashi M, Wang J, Fujiwara O, Hikage T, Nojima T, Fujita K, Kudo M, Ohkubo C. Effects of 915 MHz electromagnetic field irradiated in TEM-cell on blood-brain barrier and neurons in the rat brain. In : *4th International Workshop on Biological effects of Electromagnetic Field* ; 2006 Oct. 16-20 ; Crete, Greece. *Proceedings CD-ROM*, 2006. p.1074-1076.

Masuda H, Ushiyama A, Takahashi M, Hirota S, Kawai H, Wake K, Watanabe S, Taki M, Ohkubo C. Effects of radiofrequency electromagnetic fields on cerebral microcirculation in the rat. In : *Korea-Japan Workshop on Biological Effects of Electromagnetic Field* ; 2006 Sept. 27-28 ; Seoul, Korea. *Abstract book*, 2006. p.177-179.

Tanaka S, Wake K, Kawai H, Watanabe S, Masuda H, Ushiyama A, Taki M, Uno T. SAR estimation in immature rat-heads exposed by an 8-shaped loop antenna. In : *The 27th Annual meeting of Bioelectromagnetic Society* ; 2006 Jun. 11-15 ; Cancun, Mexico. *Abstract book*, 2006. p.176-178.

Wang J, Fujiwara O, Hikage T, Nojima T, Masuda H, Ushiyama A, Ohkubo C. Dosimetry evaluation of rats exposed to GSM-900 signals in Salford-used TEM-cell. In : *The 27th Annual meeting of Bioelectromagnetic Society* ; 2006 Jun. 11-15 ; Cancun, Mexico. *Abstract book*, 2006. p.364-365.

Masuda H, Ushiyama A, Takahashi M, Hirota S, Tanaka S, Kawai H, Wake K, Watanabe S, Taki M, Ohkubo C. No transient effects of RF-EMF exposure on the brain microcirculation in either juvenile or adult rats. In : *The 27th Annual meeting of Bioelectromagnetic Society* ; 2006 Jun. 11-15 ; Cancun, Mexico. *Abstract book*, 2006. p.102-103.

Suzuki Y, Baba M, Taki M, Ushiyama A, Masuda H, Fukunaga K, Wake K, Watanabe S. Application of three dimensional visualization of the temperature distribution to assessment of localized exposure to microwaves for in vivo study. In : *The 27th Annual meeting of Bioelectromagnetic Society* ; 2006 Jun. 11-15 ; Cancun, Mexico. *Abstract book*, 2006. p.266-268.

Ugawa Y, Mizuno Y, Terao Y, Nishikawa M, Okano T, Yano H, Shirasawa K, Furubayashi T, Ushiyama A, Masuda H, Soukejima S, Taki M, Wake K, Pongpaibool P, Watanabe S, Maruyama E, Ohkubo C. Studies on hypersensitivity to non-thermal radiofrequency electromagnetic field in Japan : Second report. In : The 27th Annual meeting of Bioelectromagnetic Society ; 2006 Jun. 11-15 ; Cancun, Mexico. Abstract book, 2006. p.74-76.

Ushiyama A, Masuda H, Hirota S, Takahashi M, Kawai H, Tanaka S, Wake K, Watanabe S, Suzuki U, Taki M, Ohkubo C. Blood-cerebrospinal barrier in rats is not affected by 1.5 GHz RF-EMF exposure at non-thermal level. In : The 27th Annual meeting of Bioelectromagnetic Society ; 2006 Jun. 11-15 ; Cancun, Mexico. Abstract book, 2006. p.376-377.

Tanaka S, Uno T, Wake K, Kawai H, Watanabe S, Masuda H, Ushiyama A, Taki M. SAR calculation in immature rats exposed by an 8-shaped loop antenna in 1.5 GHz band. In : Progress In Electromagnetics Research Symposium 2006 ; 2006 Aug. 2-5 ; Tokyo, Japan. Abstract book, 2006. p.550.

Endo O, Koyano M, Watanabe I, Sugita K, Yamashita N, Nakajima D, Goto S. Perfluorooctane sulfonate (PFOS) and Perfluorooctanoic acid (PFOA) levels in urban airborne particles - Long term trends in Tokyo in the 1980s, 1990s and 2000s. In : 26th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants ; 2006 Aug 21-25 ; Oslo, Norway. 2006. Organohalogen Compounds Vol.68. p.2035-2037 (CD-ROM).

Yamaguchi I, Narita H, Morozumi K and Aburano T. Study on the Establishment of the Radiation Safety Standard for Y-90 in Nuclear Medicine. In : Namito Y, Hirayama H, Ban S, editors. Proceedings of the Thirteenth EGS Users Meeting in Japan, KEK Proceedings 2006-4 ; 2006 Aug 8-10 ; Tsukuba, Japan. 2006. p.75-80.

Yamaguchi I, Furui S, Irie T, Kato R, Sakai T, Suzuki S. Radiation Exposure to Patients and Physicians during CT Fluoroscopy-guided Interventional Procedures. In : Proceedings of the Second Asian and Oceanic Congress for Radiation Protection ; 2006 Oct 9-13 ; Beijing, China. 2006. p.1385-1389.

## 建築衛生部

### Department of Architectural Hygiene and Housing

#### 学術雑誌に発表した原著論文

並木則和, 大谷吉生, 藤井修二, 鍵直樹. オフィス用プリンタからの超微粒子の発生. エアロゾル研究 2006 ; 21 : 59-65.

柳宇, 鍵直樹, 池田耕一. 空気イオンによる室内空气中微生物と VOCs 汚染への影響に関する検証. 日本建築学会環境系論文集 2006 ; (604) : 45-50.

山田花菜, 佐野武仁, 池田耕一, 柳宇. 中小規模の病院における微生物汚染に関する年間調査. 日本建築学会計画系論文集 2006 ; (604) : 57-62.

糟谷佐紀, 米田郁夫, 阪東美智子, 末田統, 藤澤正一郎. 手動車いす操作における段差抵抗の尺度化に関する研究. 日本建築学会計画系論文集 2006 ; (602) : 7-11.

#### 学術誌に発表した総説

柳宇, 池田耕一, 鍵直樹. 空気イオンとその清浄化性能に関する検証. クリーンテクノロジー 2006 ; 16(1) : 1-5.

鍵直樹. エアロゾルとは何か. 建築設備と配管工事 2006 ; 44(2) : 1-5.

鍵直樹. 室内空气中の浮遊微粒子と VOC の関係. クリーンテクノロジー 2006 ; 16(5) : 23-26.

鍵直樹, 池田耕一, 柳宇. エアフィルタから発生する有機化合物の測定. クリーンテクノロジー 2006 ; 16(10) : 44-47.

柳宇. 空気汚染による諸障害について. 建築設備と配管

工事 2006 ; 44(2) : 5-10.

柳宇. 中国における空調システム衛生管理の現状. 空気清浄 2006 ; 44(2) : 8-11.

鍵直樹, 池田耕一, 柳宇. エアフィルタから発生する有機化合物の測定. クリーンテクノロジー 2006 ; 16(10) : 44-46.

柳宇. 建築物と微生物. 臨床環境医学 2006 ; 15(2) : 91-100.

阪東美智子. 書評『ホームレス自立支援システムの研究』. 季刊 Shelter-less 2006 ; 29 (Summer & Autumn) : 153.

鈴木晃. 自立支援としての住環境整備の課題—介護保険制度の見直しを機会に. GP net 2006 ; 53(2) : 13-8.

鈴木晃. 住宅改修の評価システムの構築—自立支援としての意義を高めるために. 月刊介護保険 2006 ; (124) : 26-27.

鈴木晃. 住環境整備固有の意義と介護保険・住宅改修の課題—住まいづくりから福祉へのアプローチ. 中小商工業研究 2006 ; (88) : 90-95.

鈴木晃. 再び「住宅改修の評価」について. 月刊介護保険 2006 ; (130) : 26-27.

#### 著書

池田耕一. 第7章 カビ (Mold), とべと病菌 (Mildew). 社団法人日本冷凍空調学会, 編. 湿度制御設計ガイド. 東

京：日本冷凍空調学会；2006. p.69-86.

池田耕一. 第8章 ダニと昆虫. 社団法人日本冷凍空調学会, 編. 湿度制御設計ガイド. 東京：日本冷凍空調学会；2006. p.87-91.

池田耕一. 第9章 細菌とウィルス. 社団法人日本冷凍空調学会, 編. 湿度制御設計ガイド. 東京：日本冷凍空調学会；2006. p.91-99.

東賢一, 池田耕一, 久留飛克明, 中川雅至, 長谷川あゆみ, 森有紀子, 山田裕巳. 建築に使われる化学物質辞典. 東京：風土社；2006.

柳宇. ここがしりたい 建築の？と！. 東京：技報堂出版；2006. p.110-113.

柳宇. 厚生労働大臣登録 統括管理者講習会テキスト. 東京：日本ビル管理教育センター；2006. p.112-143.

### 抄録のある学会報告

鎌倉良太, 高橋道広, 齋藤敬子, 高柳保, 鍵直樹. 講習会場ロビーのレイアウト変更による分煙効果の改善事例について. 第33回建築物環境衛生管理全国大会；2006.1.19-20；東京. 同大会講演集. p.18-19.

田村一, 藤井修二, 鍵直樹, 諏訪好英, 並木則和, 大谷吉生, 平敏和, 白根頭一. 帯電ウェーハ表面への凝縮性有機物質の吸着挙動. 第24回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会；2006.4.11-12；東京. 同大会予稿集. p.5-6.

山田花菜, 柳宇, 鍵直樹, 池田耕一. エアフィルタによる細菌と真菌の捕集特性に関する研究(その2) エアフィルタに捕集された細菌と真菌について. 第24回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会；2006.4.11-12；東京. 同大会予稿集. p.63-65.

池田耕一, 柳宇, 鍵直樹, 山田花菜, 藤井修二, 西村直也, 高柳保, 齋藤敬子. オフィスビルにおける浮遊微生物の挙動に関する研究. 第24回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会；2006.4.11-12；東京. 同大会予稿集. p.66-68.

根本智之, 根本摩耶, 西村直也, 藤井修二, 池田耕一, 鍵直樹, 明星敏彦, 竹田菊男, 長谷川あゆみ, 高柳保. 事務所ビルにおける空気環境調査 その3 超微粒子の挙動とアクティビティ. 第24回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会；2006.4.11-12；東京. 同大会予稿集. p.117-118.

西村直也, 中島好香, 藤井修二, 鈴木智彰, 池田耕一, 鍵直樹, 明星敏彦, 竹田菊男, 長谷川あゆみ, 高柳保. 事務所ビルにおける空気環境調査 その4 分煙方法とその効果の実態調査. 第24回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会；2006.4.11-12；東京. 同大会予稿集. p.119-121.

船戸浩二, 柳宇, 鍵直樹, 高橋順子, 濱尚矢, 白井義生, 本間克典. 室内及び室外環境における Water-based CPC の性能評価. 第24回空気清浄とコンタミネーション

コントロール研究大会；2006.4.11-12；東京. 同大会予稿集. p.195-196.

諏訪好英, 藤井修二, 鍵直樹, 田村一, 並木則和, 大谷吉生, 平敏和, 吉池恒久. 帯電プレート表面への凝縮性有機物質イオン吸着現象のモデル化. 第24回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会；2006.4.11-12；東京. 同大会予稿集. p.197-199.

松川裕樹, 藤井修二, 鍵直樹, 諏訪好英, 田村一, 並木則和. 室内空気質におけるイオン性物質の捕集計測の可能性. 第24回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会；2006.4.11-12；東京. 同大会予稿集. p.262-264.

鍵直樹, 柳宇, 池田耕一, 山田花菜, 堀越玲子. 各種チャンバーによるエアフィルタから発生する揮発性有機化合物. 第24回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会；2006.4.11-12；東京. 同大会予稿集. p.270-272.

小松明弘, 岩井徹, 並木則和, 大谷吉生, 鍵直樹. クリーンルーム環境における HDD ディスク基板への SO<sub>2</sub> ガス吸着特性. トライボロジー会議；2006.

鍵直樹, 池田耕一, 柳宇, 塩津弥佳, 小畑美知夫, 齋藤敬子, 鎌倉良太, 吉野博. 病院の室内空気環境の維持管理に関する研究 - 第1報 室内空気質の測定結果. 第15回日本臨床環境医学会総会；2006.7.7-8；仙台. 同会講演集. p.66.

柳宇, 池田耕一, 鍵直樹, 塩津弥佳, 小畑美知夫, 齋藤敬子, 鎌倉良太, 吉野博. 病院の室内空気環境の維持管理に関する研究 - 第2報 居住者に起因する汚染物質濃度の測定結果. 第15回日本臨床環境医学会総会；2006.7.7-8；仙台. 同会講演集. p.67.

池田耕一, 柳宇, 鍵直樹, 塩津弥佳, 小畑美知夫, 齋藤敬子, 鎌倉良太, 吉野博. 病院の室内空気環境の維持管理に関する研究 - 第3報 室内湿度管理の現状. 第15回日本臨床環境医学会総会；2006.7.7-8；仙台. 同会講演集. p.68.

根本智之, 西村直也, 根本摩耶, 池田耕一, 鍵直樹, 藤井修二, 鈴木智彰, 明星敏彦, 横山辰巳, 小山博巳, 高柳保, 鎌倉良太. 建築物における超微粒子の分布. 第23回エアロゾル科学・技術研究討論会；2006.8.8-10；福岡. p.17-18.

西村直也, 池田耕一, 鍵直樹, 藤井修二, 鈴木智彰, 明星敏彦, 小山博巳, 横山辰巳, 長谷川あゆみ, 高柳保, 鎌倉良太. 建築物における喫煙対策の効果の実態調査 その1 空調システムと超微粒子の分布. 第23回エアロゾル科学・技術研究討論会；2006.8.8-10；福岡. p.21-22.

鍵直樹, 西村直也, 明星敏彦, 小野真理子, 長谷川あゆみ, 竹田菊男, 池田耕一, 藤井修二, 高柳保, 鎌倉良太. 建築物における喫煙対策の効果の実態調査 その2 粒子及びガス状物質の成分. 第23回エアロゾル科学・技術研究討論会；2006.8.8-10；福岡. p.23-24.

柳宇, 池田耕一, 鍵直樹, 山田花菜, 藤井修二, 西村直也. 事務所ビルにおけるバイオエアロゾルの挙動に関する

研究. 第23回エアロゾル科学・技術研究討論会; 2006.8.8-10; 福岡. p.29-30.

田村一, 諏訪好英, 鍵直樹, 藤井修二, 大谷吉生, 平敏和. コロナ放電式イオナイザ直下における凝縮性有機物質のウェーハ表面吸着挙動 その1 TCEPとP付着量の比較. 第23回エアロゾル科学・技術研究討論会; 2006.8.8-10; 福岡. p.255-256.

諏訪好英, 田村一, 鍵直樹, 藤井修二, 大谷吉生, 平敏和. コロナ放電式イオナイザ直下における凝縮性有機物質のウェーハ表面吸着挙動 その2: フラグメントイオンを考慮した挙動のモデル化と実験との比較. 第23回エアロゾル科学・技術研究討論会; 2006.8.8-10; 福岡. p.257-258.

池田耕一, 鍵直樹, 長谷川あゆみ, 竹田菊男, 藤井修二. DNPHカートリッジによる室内空気の分析精度の実態調査. 日本建築学会2006年度大会; 2006.9.7-9; 横浜. 同大会学術講演梗概集. p.863-864.

柳宇, 池田耕一, 鍵直樹, 山田花菜, 藤井修二, 西村直也. オフィスビルにおける浮遊微生物の挙動に関する研究. 日本建築学会2006年度大会; 2006.9.7-9; 横浜. 同大会学術講演梗概集. p.893-894.

鍵直樹, 柳宇, 池田耕一, 山田花菜, 飯尾昭彦. 真菌の成長過程とMVOC発生量の関係. 日本建築学会2006年度大会; 2006.9.7-9; 横浜. 同大会学術講演梗概集. p.897-898.

鍵直樹, 池田耕一, 柳宇, 塩津弥佳, 小畑美知夫, 高柳保, 齋藤敬子, 鎌倉良太, 吉野博. 病院施設における室内環境の衛生管理に関する研究(第1報) 調査の概要と空気環境法定測定の結果. 平成18年度空気調和・衛生工学会大会; 2006.9.27-29; 長野. 同大会学術講演論文集. p.2017-2020.

柳宇, 池田耕一, 鍵直樹, 塩津弥佳, 小畑美知夫, 高柳保, 齋藤敬子, 鎌倉良太, 吉野博. 病院施設における室内環境の衛生管理に関する研究(第2報) 室内空気環境の連続測定の結果. 平成18年度空気調和・衛生工学会大会; 2006.9.27-29; 長野. 同大会学術講演論文集. p.2021-2024.

池田耕一, 柳宇, 鍵直樹, 塩津弥佳, 小畑美知夫, 高柳保, 齋藤敬子, 鎌倉良太, 吉野博. 病院施設における室内環境の衛生管理に関する研究(第3報) 室内環境の衛生管理状況. 平成18年度空気調和・衛生工学会大会; 2006.9.27-29; 長野. 同大会学術講演論文集. p.2025-2028.

長谷川あゆみ, 藤井丈志, 竹田菊男, 西村直也, 池田耕一, 鍵直樹, 藤井修二, 明星敏彦, 高柳保. 実態調査に基づく喫煙所および喫煙所近傍のタバコ臭気の解析. 平成18年度室内環境学会総会; 2006.11.27-28; 東京. 同講演集. p.98-99.

吉野博, 吉田真理子, 池田耕一, 野崎淳夫, 角田和彦, 北條祥子, 吉野秀明, 天野健太郎, 祢津紘司, 石川哲. シックハウスにおける室内空気質と居住者の症状に関する長期追跡調査. 第15回日本臨床環境医学会総会; 2006.7.7-8; 仙台. 同会講演集. p.43.

柳宇, 山田花菜, 池田耕一. エアフィルタによる細菌と

真菌の補修特性に関する研究(その1) 捕集率の経時変化. 第24回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会; 2006.4.11-12; 東京. 同大会予稿集. p.60-62.

山田花菜, 柳宇, 鍵直樹, 池田耕一. エアフィルタによる細菌と真菌の補修特性に関する研究(その2) エアフィルタに捕集された細菌と真菌について. 第24回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会; 2006.4.11-12; 東京. 同大会予稿集. p.63-65.

吉田真理子, 吉野博, 池田耕一, 角田和彦, 北条祥子, 吉野秀明, 天野健太郎, 祢津紘司, 石川哲. 化学物質による室内空気汚染と居住者の健康状況に関する長期追跡調査. 平成18年度室内環境学会; 2006.11.27-28; 東京. 同総会講演集. p.162-163.

吉野博, 吉田真理子, 池田耕一, 野崎淳夫, 角田和彦, 北條祥子, 吉野秀明, 天野健太郎, 祢津紘司, 石川哲. シックハウスにおける室内空気質と居住者の健康状況に関する調査研究. その11 長期追跡調査の結果とまとめ. 日本建築学会2006年度大会; 2006.9.7-9; 横浜. 同大会学術講演梗概集. D-2, 環境工学II. 2006. p.911-912.

吉田真理子, 吉野博, 池田耕一, 野崎淳夫, 角田和彦, 北條祥子, 吉野秀明, 天野健太郎, 祢津紘司, 石川哲. シックハウスにおける室内空気質と居住者の健康状況に関する調査研究. その12 シックハウス対策の効果に関する検証. 日本建築学会2006年度大会; 2006.9.7-9; 横浜. 同大会学術講演梗概集. D-2, 環境工学II. 2006. p.911-912.

吉野博, 吉田真理子, 池田耕一, 野崎淳夫, 角田和彦, 北條祥子, 吉野秀明, 天野健太郎, 祢津紘司, 石川哲. シックハウスにおける室内空気質と居住者の健康状況に関する継続調査. 平成18年度空気調和・衛生工学会大会; 2006.9.27-29; 長野. 同大会学術講演論文集. p.2085-2088.

渡辺宗明, 谷川誠, 吉田新一, 池田耕一. 空気調和・衛生設備に関する石綿に関わる調査研究報告(第3報) 建設工事に伴うアスベスト対策と提言. 平成18年度空気調和・衛生工学会大会; 2006.9.27-29; 長野. 同大会学術講演論文集. p.1533-1536.

柳宇, 山田花菜, 池田耕一. 浮遊真菌の測定におけるPDA・DG18・M40Y培地の比較. 日本防菌防黴学会第33回年次大会; 2006.5.30-31; 東京. 同要旨集. p.135.

柳宇. 建築物と微生物. 第15回日本臨床環境医学会総会; 2006.7.7-8; 仙台. 同抄録集. p.85.

菅原文子, 吉澤晋, 柳宇. 空中菌測定器による測定値の比較. 日本建築学会2006年度大会; 2006.9.7-9; 横浜. 同大会学術講演梗概集. p.831-832.

吉澤晋, 柳宇, 菅原文子. エアフィルタ上の菌の時間的変動について(1) 理論的検討とフィルタサンブラの補正係数. 日本建築学会2006年度大会; 2006.9.7-9; 横浜. 同大会学術講演梗概集. p.891-892.

柳宇. 室内空気中の微生物—細菌・カビ・ウィルス. 平成18年度室内環境学会総会; 2006.11.27-28; 東京. 室内環境学会誌 2006; 9; 32-33.

柳宇, 池田耕一. 空中浮遊微生物粒子の測定における瞬間微生物計測器の適応に関する研究. 平成18年度室内環境学会総会・研究発表会; 2006.11.27-28; 東京. 室内環境学会誌 2006; 9; 128-129.

吉田真理子, 吉野博, 池田耕一, 野崎敦夫, 角田和彦, 北条祥子, 吉野秀明, 天野健太郎, 柗津紘司, 石川哲. 化学物質による室内空気汚染と居住者の健康状況に関する長期追跡調査. 平成18年度室内環境学会総会・研究発表会; 2006.11.27-28; 東京. 室内環境学会誌 2006; 9; 162-163.

阪東美智子. 障害のある子どものための住環境整備の現状と課題. 日本福祉のまちづくり学会 第9回全国大会; 2006.8.27-28; 呉. 同梗概集. p.403-406.

糟谷佐紀, 室崎千重, 米田郁夫, 阪東美智子, 末田統, 藤澤正一郎. 車いす使用者の移動スペースに関する研究(その1) 通路・開口幅と車いす全長の相関関係. 日本建築学会2006年度大会; 2006.9.7-9; 横浜. 同大会学術講演梗概集 E-1分冊. p.799-800.

阪東美智子. 生活保護被保護世帯・低所得世帯の住宅状況と居住水準 大阪市西成区の高齢被保護世帯調査を通して. 日本建築学会2006年度大会; 2006.9.7-9; 横浜. 同大会学術講演梗概集 F-1分冊. p.1111-1112.

境道子, 白神美津子, 成澤弘美, 肥田有紀子, 藤原千秋, 阪東美智子, 米澤洋美, 鈴木晃. ホームレス地域生活移行支援事業における健康に焦点を当てた生活支援に関する取り組み. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53 (10 特別附録): 502.

鈴木晃. 高齢社会の「住まいと健康」. 2006年室内環境学会シンポジウム; 2006.2.1; 東京.

鈴木晃. 自立支援としての住環境整備. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53 (10 特別附録): 75. (シンポジウム)

鈴木晃. 「理由書」標準様式を用いた住宅改修の給付妥当性の評価に関する予備的検討. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53 (10 特別附録): 827.

### その他学術報告(研究調査報告書含む)

鍵直樹. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「建築物における環境衛生管理に関する研究」(主任研究者: 目黒克巳) 平成17年度研究報告書. 2006.

鍵直樹. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「今後の建築物の維持管理のあり方に関する課題等に関する研究」(主任研究者: 小畑美知夫) 平成17年度研究報告書. 2006.

鍵直樹. 空調機エアフィルタの汚染物質の捕集と発生. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「建築物衛生における健康危機管理のあり方に関する研究」(主任研究者: 池田耕一) 平成17年度研究報告書. 2006.

p.29-33.

鍵直樹. 科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))「空調システムにおける微生物汚染の実態と対策に関する研究」(主任研究者: 池田耕一) 平成15-17年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))研究成果報告書. 2006.

池田耕一, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「建築物衛生における健康危機管理のあり方に関する研究」(課題番号: H17-健康-019) 平成17年度研究報告書. 2006.

吉野博, 柗津紘司, 吉田真理子, 池田耕一, 野崎敦夫, 角田和彦, 北条祥子, 吉田秀明, 天野健太郎, 石川哲. シックハウスの実態解明と防除対策に関する実証的研究. 微量化学物質による室内空気汚染の実態と発生要因に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「微量化学物質によるシックハウス症候群の病態解明, 診断・診断治療対策に関する研究」(主任研究者: 石川哲) 平成17年度分担研究報告書. 2006. p.110-145.

吉野博, 柗津紘司, 吉田真理子, 池田耕一, 野崎敦夫, 角田和彦, 北条祥子, 吉田秀明, 天野健太郎, 石川哲. シックハウスの実態解明と防除対策に関する実証的研究. 平成15-17年度厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「微量化学物質によるシックハウス症候群の病態解明, 診断・診断治療対策に関する研究」(主任研究者: 石川哲) 平成17年度分担研究報告書. 2006. p.215-272.

池田耕一, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金厚生労働科学特別研究事業「夏期におけるわが国のオフィス温熱環境の特徴に関する調査研究」平成17年度総括・分担研究報告書. 2006.

鎌田元康, 池田耕一, 名取雄司, 本間健司, 遊佐秀逸, 他. アスベストによる健康障害対策に関する緊急調査研究. 建築物室内のアスベスト濃度指標の検討. 文部科学省科学技術振興調整費「緊急に対応を必要とする研究開発等」報告書. 2006.

村上周三, 加藤信介, 田辺新一, 池田耕一, 他. 経済産業省委託工業標準化推進調査研究調査等委託費社会基盤創成標準化調査「室内空気汚染物質の試験方法に関する標準化調査研究」平成17年度成果報告書. 2006.

村上周三, 坊垣和明, 加藤信介, 吉野博, 赤林伸一, 池田耕一, 石川哲, 大沢元毅, 桑沢保夫, 田辺新一, 森川泰成, 柳沢幸雄. 室内化学物質空気汚染の解明と健康・衛生居住環境開発に関する特別調査研究委員会報告書. 日本建築学会特別調査委員会報告書. 2006.

池田耕一. 空調システムにおける微生物汚染の実態と対策に関する研究. 文部科学省平成15~17年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))研究成果報告書(課題番号15360315). 2006.

小畑三知夫, 相沢好治, 池田耕一. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「今後の建築物の維持管理のあり方に関する課題等に関する研究」(主任研究者: 小畑三知夫) 平成17年度報告書. 2006.

目黒克己, 池田耕一, 紀谷文樹, 藤井修二, 他. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「建築物における環境衛生管理に関する研究」(主任研究者:ビル管理教育センター)平成17年度報告書. 2006.

柳宇. 建築環境における生化学物テロ対策. ICUS REPORT 2006-08. p.65-102.

柳宇. 厚生労働科学研究費補助金健康科学研究事業「建築物衛生における健康危機管理のあり方に関する研究」(主任研究者:池田耕一)平成17年度分担研究報告書. 2006.3. p.15-28.

柳宇. 厚生労働科学研究費補助金健康科学研究事業「今後の建築物の維持管理のあり方に関する課題等に関する研究」(代表研究者:小畑美知夫)平成17年度報告書. 2006.3. p.5-23.

柳宇. 科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))研究成果

### Originals

Azuma K, Uchiyama I, Ikeda K. The risk management for indoor air pollution caused by formaldehyde in housing. The historical perspectives on early warnings and actions. *Facilities* 2006 ; 24 (11/12) : 420-429.

Park JS, Ikeda K. Variations of formaldehyde and VOC levels during 3 years in new and old homes. *Indoor Air* 2006 ; 16 (2) : 129-135.

Yanagi U, Ikeda K, Kagi N, Sakaguchi M, Arashima Y. A Study on indoor air contamination related to pets in Japanese dwellings. *Journal of Asian Architecture and Building Engineering* 2006 ; 5 (2) : 355-360.

### Books

Azuma K, Uchiyama I, Ikeda K. Health risk of asbestos in general ambient environmental exposure in Japan : Risk levels and recommendations. *Environmental Toxicity Evaluation and Risk Management, Volume 2, The Environmental Risk Management Group of JSPS-VCC Program on Environmental Science, Engineering and Ethics 2000-2009.* 2006. p.145-156.

### Proceedings with abstracts

Ikeda K, Yanagi U, Kagi N, Yamada K, Fujii S, Nishimura N, Takayanagi T, Saito K. A Study on the behavior of airborne bacteria and fungi in office buildings. *Proceedings for Healthy Buildings ; 2006 ; Lisboa, Portugal.* p.411-414.

Yamada K, Yanagi U, Kagi N, Ikeda K. A study about microbes on the surface of air filter in an air conditioning system. *Proceedings for Healthy Buildings ; 2006 ; Lisboa, Portugal.* p.443-446.

Yanagi U, Yamada K, Kagi N, Ikeda K. A Study on the

報告書「空調システムにおける微生物汚染の実態と対策に関する研究」(分担研究)平成15-17年度研究成果報告書. p.1-29, 45-69. 2006.3.

阪東美智子, 主任研究者. 財団法人国土技術研究センター研究助成事業「障害児の健全な成育と自立支援のための住環境整備に関する研究」平成16年度研究事業報告書. 2006.3.

阪東美智子. 住宅の状況は?大阪就労福祉居住問題調査研究会(代表:水内俊雄), 編. 大阪市西成区の生活保護受給の現状(西成区生活保護受給者開き調査の概要). 2006.3. p.12-6, 18.

鈴木晃. 住居の視点から—04年と05年の変化について. 平成17年度高齢者日常生活継続調査研究報告書. 東京:国際長寿センター; 2006. p.55-64.

filtration efficiency of an air filter over airborne bacteria and fungi vs elapsed time. *Proceedings for Healthy Buildings ; 2006 ; Lisboa, Portugal.* p.479-482.

Nishimura N, Nakajima K, Fujii S, Suzuki T, Takayanagi T, Ikeda K, Kagi N, Myojo T, Takeda K, Hasegawa A. Actual condition survey of tobacco smoke leakage at operational area. *Proceedings of the 8th International Symposium on Building and Urban Environmental Engineering ; 2006 ; Tokyo.* p.114-119.

Nishimura N, Nemoto M, Nemoto T, Fujii S, Ikeda K, Kagi N, Myojo T, Takeda K, Hasegawa A, Takayanagi T. Nano order airborne particle in office building. *Proceedings of the 8th International Symposium on Building and Urban Environmental Engineering ; 2006 ; Tokyo.* p.131-136.

Kagi N, Yanagi U, Ikeda K, Tamura H. Influence on ion to volatile organic compounds in indoor air by field measurement in buildings. *Proceedings of the 8th International Symposium on Building and Urban Environmental Engineering ; 2006 ; Tokyo.* p.371-374.

Namiki N, Otani Y, Kagi N, Fujii S. Characterization of emission of ultrafine particle from office printers. *Proceedings of the 8th International Symposium on Building and Urban Environmental Engineering ; 2006 ; Tokyo.* p.137-140.

Azuma K, Uchiyama I, Ikeda K. The Risk screening for indoor air pollution chemicals in Japan. *Proceedings for Healthy Buildings ; 2006 ; Lisboa, Portugal. Vol. I.* p.283-288.

Yoshino H, Netsu K, Yoshida M, Ikeda K, Nozaki A, Kakuta A, Hojo S, Amano K, Ishikawa S. Long-term field survey on IAQ occupant's health in 57 sick houses in Japan. *Proceedings for Healthy Buildings ; 2006 ; Lisboa, Portugal. Vol. III .* p.315-320.

## 水道工学部 Department of Water Supply Engineering

### 学術雑誌に発表した原著論文

鈴木祥弘, 安藤弘康, 丸山俊朗, 光山宗人, 下津義博, 五味謙之, 国包章一. 分散気泡を利用した河川水からのフタル酸ジ-2-エチルヘキシル (DEHP) の除去. 水環境学会誌 2006; 29(1): 29-35.

### 著書

国包章一. 金子光美, 編著. 水道の病原微生物対策 (一部分担執筆). 東京:丸善; 2006. p.70-90.

国包章一. 日本陸水学会, 編. 陸水の事典 (一部分担執筆). 東京:講談社; 2006.

国包章一. (社)日本水環境学会, 編. 水環境ハンドブック (一部分担執筆). 東京:朝倉書店; 2006. p.183-188.

伊藤雅喜. (社)日本水環境学会, 編. 水環境ハンドブック (一部分担執筆). 東京:朝倉書店; 2006. p.205-211.

秋葉道宏. 凝集・沈殿. 日本水環境学会, 編. 水環境ハンドブック, 東京:朝倉書店; 2006. p.188-194.

### 抄録のある学会報告

春日郁朗, 島崎大, 国包章一. 生物活性炭処理における微生物群集構造の特性評価. 第40回日本水環境学会年会; 2006.3.15-17; 仙台. 同講演集. p.374.

金志勲, 高橋惇, 千葉信男, 野村宗弘, 中野和典, 西村修, 秋葉道宏. AOC 生成能を指標に用いた浄水システムにおける AOC 除去性の再評価. 第40回日本水環境学会年会; 2006.3.15-17; 仙台. 同講演集. p.527.

鬼束豊英, 高梨啓和, 中島常憲, 大木章, 秋葉道宏, 相澤貴子. 水道水の変異原性レベルの解析および12年前との比較. 第40回日本水環境学会年会; 2006.3.15-17; 仙台. 同講演集. p.451.

浦瀬太郎, 香川千絵, 島崎大. 医薬品の活性炭への吸着特性. 第40回日本水環境学会年会; 2006.3.15-17; 仙台. 同講演集. p.30.

藤原淳, 平松敏, 島崎大, 浅見真理, 国包章一. 水道水源等において優先して監視すべき医薬品の選定方法に関する研究. 第40回日本水環境学会年会; 2006.3.15-17; 仙台. 同講演集. p.601.

鴨志田公洋, 小坂浩司, 浅見真理, 相澤貴子. 有機りん系農薬の塩素処理におけるオキソソ体への変換について. 第40回日本水環境学会年会; 2006.3.15-17; 仙台. 同講演集. p.368.

春日郁朗, 島崎大, 国包章一. オゾン-活性炭処理における活性炭表面付着微生物群集の分子生物学的手法による解析. 第57回全国水道研究発表会; 2006.5.24-26; 長崎. 同講演集. p.264-265.

眞壁朝宏, 浅見真理, 秋葉道宏, 国包章一, 森田久男.

公共用水域における人畜由来汚染のステロール指標に関する研究. 第57回全国水道研究発表会; 2006.5.24-26; 長崎. 同講演集. p.558-559.

藤原淳, 眞鍋晋, 松田満夫, 島崎大, 浅見真理, 国包章一. 塩素処理および凝集沈殿処理における医薬品の処理性. 第57回全国水道研究発表会; 2006.5.24-26; 長崎. 同講演集. p.578-579.

鴨志田公洋, 小坂浩司, 浅見真理, 相澤貴子. 有機りん系農薬およびそのオキソソ体の塩素反応性. 第57回全国水道研究発表会; 2006.5.24-26; 長崎. 同講演集. p.584-585.

大谷真巳, 林田武志, 高橋俊介, 松岡雪子, 浅見真理. 水道用次亜塩素酸ナトリウム中の臭素酸に関する調査. 第57回全国水道研究発表会; 2006.5.24-26; 長崎. 同講演集. p.590-591.

鎌田素之, 相澤貴子, 西村哲治, 浅見真理. 農業実態調査に基づく今後の農業監視のあり方. 第57回全国水道研究発表会; 2006.5.24-26; 長崎. 同講演集. p.566-567.

中島典之, Yongyod Thaveemaitree, 古米弘明, 国包章一. 密閉型ジャーテスターによるフタル酸エステル凝集ブロックへの吸着試験. 第57回全国水道研究発表会; 2006.5.24-26; 長崎. 同講演集. p.614-615.

横川宣弘, 伊藤雅喜, 原義和, 福井啓喜, 與儀麻希. 異なる凝集剤を用いた膜ろ過, 砂ろ過の濁質処理性と凝集剤の残留性に関する研究. 第57回全国水道研究発表会; 2006.5.24-26; 長崎. 同講演集. p.182-183.

馬場崇, 伊藤雅喜, 帆刈洋, 鈴木宏幸. 単式バネ式逆止弁の作動状況の可視化と異常検知に関する研究. 第57回全国水道研究発表会; 2006.5.24-26; 長崎. 同講演集. p.464-465.

圓佛伊智朗, 岡部洋, 鹿島田浩二, 小熊久美子, 小池健一, 島崎大, 長岡裕, 山口岳夫. 水供給システムの中長期的課題の実現時期に関するアンケート調査. 第57回全国水道研究発表会; 2006.5.24-26; 長崎. 同講演集. p.80-81.

浅見真理, 小坂浩司, 松岡雪子, 鴨志田公洋. IC/MS/MS 法を用いた環境水及び水道水中のハロゲン酸分析法と過塩素酸の検出. 第9回日本水環境学会シンポジウム; 2006.9.5-6; 東京. 同講演集. p.54-55.

小坂浩司, 浅見真理, 松岡雪子, 鴨志田公洋, 国包章一. IC/MS/MS を用いた利根川流域の過塩素酸イオンの実態調査. 第18回環境システム計測制御研究発表会; 2006.10.30-31; 京都. 同講演集. p.215-218.

遠藤治, 鴨志田公洋, 小坂浩司, 浅見真理, 相澤貴子, 鈴木元. プタミホスの塩素処理副生成物の変異原性, 日本変異原学会第35回大会; 2006.11.20-21; 堺. 同大会プログラム・要旨集. p.105.

### その他学術報告（研究調査報告書含む）

国包章一, 浅見真理, 島崎大, 他. 環境省地球環境保全等試験研究費「水道水源等における生理活性物質の測定と制御に関する研究」平成17年度環境保全成果集. 2006.

国包章一, 浅見真理, 秋葉道宏. 環境省地球環境保全等試験研究費「公共用水域の人畜由来汚染による健康影響リスクの解明と規制影響分析に関する研究」平成17年度環境保全成果集. 2006.

国包章一, 他. 厚生労働科学研究費補助金厚生労働科学特別研究事業「飲料水中のウイルス等に係る危機管理対策に関する研究」(主任研究者: 国包章一. H17- 特研-027). 平成17年度総括・分担研究報告書. 2006.3

国包章一, 秋葉道宏, 他. クリプトスポリジウム症等感染リスクの評価手法の確立に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業「クリプトスポリジウム等による水系感染症に係わる健康リスク評価及び管理に関する研究」(主任研究者: 国包章一. H15- 新興-16). 平成17年度総括・分担研究報告書. 2006.3

国包章一, 秋葉道宏, 他. クリプトスポリジウム症等感染リスクの評価手法の確立に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業「クリプトスポリジウム等による水系感染症に係わる健康リスク評価及び管理に関する研究」(主任研究者: 国包章一. H15- 新興-16). 平成15～17年度総合研究報告書. 2006.3

国包章一, 島崎大, 他. 厚生労働科学研究費健康科学総合研究事業「残留塩素に依存しない水道の水質管理手法に関する研究」(主任研究者: 国包章一. H17- 健康-025). 平成17年度総括・分担研究報告書. 2006.3

国包章一, 西野二郎, 他. 水道水質管理分科会報告書. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「最新の科学的知見に基づく水質基準の見直し等に関する研究」(主任研究者: 眞柄泰基. H16- 健康-066). 平成17年度総括・分担研究報告書. 2006.3

眞柄泰基, 国包章一, 伊藤雅喜, 他. 無機物質分科会報告書. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「最新の科学的知見に基づく水質基準の見直し等に関する研究」(主任研究者: 眞柄泰基. H16- 健康-066). 平成17

年度研究報告書. 2006.3

眞柄泰基, 秋葉道宏, 他. 一般有機物分科会報告書. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「最新の科学的知見に基づく水質基準の見直し等に関する研究」(主任研究者: 眞柄泰基. H16- 健康-066). 平成17年度研究報告書. 2006.3

眞柄泰基, 遠藤卓郎, 秋葉道宏, 他. 微生物分科会報告書. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「最新の科学的知見に基づく水質基準の見直し等に関する研究」(主任研究者: 眞柄泰基. H16- 健康-066). 平成17年度研究報告書. 2006.3

中村文雄, 伊藤雅喜, 他. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「給水末端における水質および給水装置・用具機能の異常監視と管理に関する研究」(主任研究者: 中村文雄). 平成17年度総括・分担研究報告書. 2006.3

池田耕一, 伊藤雅喜, 他. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「建築物衛生における健康危機管理のあり方に関する研究」(主任研究者: 池田耕一. H17- 健康-019). 平成17年度総括・分担研究報告書. 2006.3

早川哲夫, 秋葉道宏, 他. 厚生労働科学研究費健康科学総合研究事業「貯水槽施設, 特に未規制の小規模施設の実態把握と設置者を対象とする管理運営マニュアルの策定に関する研究」(主任研究者: 早川哲夫. H17- 健康-026). 平成17年度研究報告書. 2006.3

眞柄泰基, 相澤貴子, 西村哲治, 松井佳彦, 浅見真理. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「最新の科学的知見に基づく水質基準の見直し等に関する研究」(主任研究者: 眞柄泰基. H16- 健康-066). 平成17年度総合研究報告書. 2006.3

眞柄泰基, 伊藤禎彦, 亀井翼, 浅見真理. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「最新の科学的知見に基づく水質基準の見直し等に関する研究」(主任研究者: 眞柄泰基. H16- 健康-066). 平成17年度総合研究報告書. 2006.3

島崎大. 研究機関の移転や人事異動における実験試薬や廃液等の処分について. 環境安全 2006; 108: 23.

### Originals

Hu J, Jin X, Kunikane S, Terao Y, Aizawa T. Transformation of pyrene in aqueous chlorination in the presence and absence of bromide ion: Kinetics, products and their aryl hydrocarbon receptor-mediated activities. *Environmental Science & Technology* 2006; 40(2): 487-493.

Thaveemaitree Y, Nakajima F, Furumai H, Kunikane S. Adsorption test of semi-volatile di-(2-ethylhexyl) phthalate in coagulation and flocculation processes with/without bubble in closed jar tester. *Water Science & Technology Water Supply* 2006; 6(3): 9-16.

Ohgai T, Oguchi Y, Ohno K, Kamei T, Magara Y and Itoh M. Development of evaluation methods to introduce a nanofiltration membraned process in drinking water treatment. *Water Science & Technology: Water Supply* 2006; 6(2): 9-17.

Simazaki D, Asami M, Nishimura T, Kunikane S, Aizawa T, Magara Y. Occurrence of 1,4-dioxane and MTBE in drinking water sources in Japan. *Water Science & Technology: Water Supply* 2006; 6(2): 47-53.

Kim J, Lee S, Xu S, Nomura M, Chiba N, Nakano K, Nishimura O, Akiba M. Assimilable organic carbon formation from algogenic organic matter and its variation

by chlorination. *Water Science & Technology Water Supply* 2006 ; 6(2) : 239-244.

Heekyong OH, Kagawa C, Urase T, Simazaki D, Kunikane S. Removal of ionic and non-ionic pharmaceuticals using granular activated carbon. *Journal of Korean Society of Environmental Engineers (大韓環境工學會誌)* 2006 ; 28(11) : 1192-1197.

### Proceedings with Abstracts

Oh H, Kagawa C, Urase T, Kasuga I, Simazaki D, Kunikane S. Removal of pharmaceuticals through continuous operation of column filled with fresh and aged granular activated carbons. *Proceedings of the 7th International Symposium on Water Supply Technology ; 2006 Nov 22-24 ; Yokohama. p.452-461.*

Heekyong OH, Kagawa C, Urase T, Simazaki D, Kunikane S. Removal of ionic and non-ionic pharmaceuticals using granular activated carbon. *韓国環境工学会春季学術研究発表会 ; 2006 Apr ; Goyang, Korea.*

同会講演集. E-1-5.

Kasuga I, Shimazaki D, Kunikane S. Characterization of microbial community structures associated with filter media in an advanced drinking water treatment process. *Proceedings of the 4th International Symposium on Southeast Asian Water Environment ; 2006 Dec 6-8 ; Bangkok, Thailand.*

Kasuga I, Shimazaki D, Kunikane S. Influence of backwashing on the microbial community in a biofilm developed on biological activated carbon used in a drinking water treatment plant. *Proceedings of IWA-specialist conference Biofilm Systems VI ; 2006 Sep 25 - 27 ; Amsterdam, the Netherlands ; p.217-226.*

Sasaki T, Hanamoto T, Ogura K, Oya M, Itoh M, Fujiwara M and Watanabe Y. Membrane-media active collaboration (M-MAC) : An alternative for solid-liquid separation in drinking water treatment. *Proceedings of the 7th International Symposium on Water Supply Technology ; 2006 Nov 22-24 ; Yokohama. p.443-451.*

## 施設科学部

### Department of Facility Sciences

#### 学術雑誌に発表した総説

箕淳夫. 看護に適した病棟の条件. *病院設備* 2006 ; 48(1) : 61-64.

箕淳夫. 急激に変わる医療環境・制度にどう対応. *医療タイムズ* 2006 ; No.1752 : 38-41.

箕淳夫. 治療環境の整備. *病院管理* 2006 ; 43(4) : 1.

井部俊子, 箕淳夫. 対談 急性期医療と病棟計画. *医療福祉建築* 2006 ; No.150 : 2-5.

箕淳夫. 医療施設にかかわる学会. *建築雑誌* 2006 ; 121 (1553).

井上由起子. 老健インタビュー その人らしさを支えるハードとソフト. *老健* 2006 ; 17(2) : 38-41.

井上由起子, 生田京子. ユニット型介護保険施設における看取りに関する調査研究. *医療福祉建築* 2006 ; 7(152) : 32-33.

井上由起子. 高齢期の住まい. *別冊厚生サロン* 2006 ; III Autumn : 36-41.

井上由起子. ユニットケアで食事が変わる一食を通じた生活支援 第2回 食事の環境を整える. *おはよう21*. 2006 ; 11 : 52-55.

井上由起子, 小山剛. 施設の“住宅化”に求められる入居者の暮らしから発想する設計—在宅介護時代における高齢者居住の方向性. *日経アーキテクチュア* 2006 ; 11 : 23-25.

井上由起子. 高齢者の住まい—住宅と施設のあいだ. *G P net*. 2006 ; 53(9) : 3-5.

小林健一. 近年の病棟計画の動向. *医療福祉建築*

2006 ; 150 : 6-7.

小林健一. 話題を追って. *眼科と経営* 2006 ; 87 : 3.

小林健一. 小規模医療施設における震災対策の考え方. *眼科と経営* 2006 ; 87 : 4-5.

小林健一. 防災の拠点としての公共建築 医療施設の備えるべき要件. *公共建築* 2006 ; 48(2) : 48-49.

小林健一. 医療福祉用語の基礎知識 (災害拠点病院, 救急搬送システム, プレホスピタル・ケア). *医療福祉建築* 2006 ; 151 : 36.

#### 著書

井上由起子, 石井敏, 大内俊一, 編. *高齢者介護・シルバー 事業企画マニュアル最新版*. 東京 : エクスナレッジ ; 2006. p.314-317.

井上由起子. *いえとまちななかで老い衰える これからの高齢者居住そのシステムと器のかたち*. 東京 : 中央法規出版 ; 2006.

井上由起子, 小滝一正, 高橋公雄, 市川禮子, 上野淳. *改訂ユニットケア導入のための施設改修の手引き*. 東京 : 中央法規出版 ; 2006.

小林健一. *災害看護のQ&Aシリーズ プレホスピタルケア・災害初期救急のQ&A*. 東京 : 中山書店 ; 2006.

小林健一. *災害拠点病院*. 日本病院管理学会, 編. *医療・病院管理用語事典 改訂第3版*. 東京 : エルゼビア・ジャパン株式会社ミクス ; 2006.

## 抄録のある学会報告

笥淳夫, 井上由起子. 回復期リハビリテーション病棟における患者のADL変化について. 日本建築学会2006年度大会; 2006.9.7-9; 横浜. 同大会学術講演梗概集. p.75-76.

笥淳夫, 井上由起子. 回復期リハビリテーション病棟の現状分析. 第44回日本病院管理学会学術総会; 2006.10.19-20; 名古屋. 病院管理 2006; 44 (Suppl.): 156.

笥淳夫, 須田眞史, 横井郁子, 橋本美芽, 井上由起子, 三宅祥三. ベッドまわりでの転倒への物的対策の検討. 第1回医療の質・安全学会; 2006.11.23-24; 東京. 医療マネジメント学会雑誌 (第1回医療の質・安全学会学術会プログラム・抄録) 2006; 1 (増補号): 237.

朱庸善, 長澤泰, 笥淳夫, 西出和彦. 精神病患者視線からみた病棟空間の性格. MERA 2006.2; 9(2): 51.

鄭佳紅, 上泉和子, 笥淳夫. 療養環境の安全性に影響を及ぼす看護職の患者把握に関する研究. 第10回日本看護管理学会; 2006.8.25-26; 東京. 日本看護管理学会年次大会講演抄録集. p.54.

周穎, 笥淳夫, 小林健一. 患者転室からみた急性期病棟の建築計画に関する研究. 日本建築学会2006年度大会; 2006.9.7-9; 横浜. 同大会学術講演梗概集. p.61-62.

工藤真人, 笥淳夫. 精神社会復帰病棟における治療内容と施設環境に関する研究. 第44回日本病院管理学会学術総会; 2006.10.19-20; 名古屋. 病院管理 2006; 44 (Suppl.): 99.

須田眞史, 笥淳夫. 転倒・転落対策に用いられる物品の適正評価に関する研究. 第44回日本病院管理学会学術総会; 2006.10.19-20; 名古屋. 病院管理 2006; 44 (Suppl.): 173.

井上由起子. まちなかグループホームにおける地域生活の具体に関する研究 (その2). 日本建築学会2006年度大会; 2006.9.7-9; 横浜. 同大会学術講演梗概集. p.67-68.

小林健一, 宇田淳, 山下哲郎. 病院の地震対策に関する実態調査について. 第11回集団災害医学会; 2006.2.10-11; 仙台. 第11回集団災害医学会総会プログラム・抄録集. p.222.

小林健一, 笥淳夫, 工藤真人, 田中英紀. 結核患者を収容する病室の施設要件と運用のあり方について. 日本建築学会2006年度大会; 2006.9.7-9; 横浜. 日本建築学会大会学術講演梗概集. p.71-72.

小林健一, 笥淳夫, 工藤真人. 施設整備・運営面からみた一般病床における結核患者への対応について. 第44回日本病院管理学会学術総会; 2006.10.19-20; 名古屋. 病院管理 2006; 44 (Suppl.): 140.

長谷川崇, 岩佐明彦, 新海俊一, 篠崎正彦, 安武敦子, 小林健一, 宮越敦史. 災害仮設住宅における居住環境改善とその支援 「仮設カフェ」による実践的研究. 日本建築

学会2006年度大会; 2006.9.7-9; 横浜. 同大会学術講演梗概集. p.17-20.

## その他学術報告 (研究調査報告書含む)

笥淳夫. 結核患者収容のための施設基準の策定に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業「小児結核及び多剤耐性結核の予防, 診断, 治療における技術開発に関する研究」(主任研究者: 森亨) 平成15-17年度総合研究報告書. 2006. p.25-36.

笥淳夫, 井上由起子. 回復期リハビリテーション病棟の現状と課題に関する調査報告書. 東京: 全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会; 2006.

笥淳夫, 須田眞史. 患者の入院生活における物的環境の適正評価に関する研究. 厚生科学研究費補助金医療技術評価総合研究「安全な療養環境を構築するための物的対策に関する研究」(主任研究者: 笥淳夫) 平成17年度分担研究報告書. 2006.

三宅祥三, 笥淳夫, 横井郁子. 医療施設における療養環境の安全性に関する研究. 厚生科学研究費補助金医療技術評価総合研究「安全な療養環境を構築するための物的対策に関する研究」(主任研究者: 笥淳夫) 平成17年度分担研究報告書. 2006.

周穎, 小林健一, 笥淳夫. 病棟の病床運営に関する調査の報告書—武蔵野赤十字病院におけるケーススタディー—. 日本学術振興会科学研究補助金特別研究員奨励費: 課題番号16-04505.

井上由起子. 既存特別養護老人ホームでのユニット導入のための改修モデルに関する調査研究報告書. 東京: 日本医療福祉建築協会; 2006.

井上由起子. ユニットケア施設研修公開シンポジウム「進化するユニットケアの新たな展開 ~これからそして未来へ~」. 東京: 認知症介護研究・研修東京センター; 2006.

井上由起子. ユニット型介護保険施設における看取りに関する調査研究報告書. 平成17年度老人保健事業推進費等国庫補助事業. 東京: 日本医療福祉建築協会; 2006.

井上由起子. 「地域に暮らす」という概念の具体に関する研究—都市型グループホームにおける事例調査を通して—豊かな高齢社会の探究. 東京: ユニバーサル財団; 2006.

小林健一, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「地震災害に対応した医療施設の配置計画に関する研究」(課題番号: H15-医療-013) 平成17年度総括研究報告書. 2006.

小林健一, 主任研究者. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「地震災害に対応した医療施設の配置計画に関する研究」(課題番号: H15-医療-013) 平成15-17年度総合研究報告書. 2006.

## 研修企画部

### Department of Education Training Technology and Development

#### 学術雑誌に発表した原著論文

久保秀一, 井上孝夫, 山崎彰美, 羽田明, 加藤則子, 林謙治. 多子傾向に関する要因の解析—少子化対策への手がかりを求めて—. 小児保健研究 2006; 65(5): 633-642.

#### 学術雑誌に発表した総説

加藤則子. DENVER IIの我が国における標準化とその実践法; 日本版デンバーIIによる発達判定法の実践法. 小児保健研究 2006; 65(2): 223-226.

加藤則子. 「乳児死亡率ゼロ」から「子どもを守る」まで. 公衆衛生 2006; 70(8): 578-583.

加藤則子. 前向き子育てプログラム(トリプルP)の紹介. 小児保健研究 2006; 65(4): 527-531.

加藤則子. 乳児期の体重発育にみとめられる三法則について. 日本成長学会雑誌 2006; 12(2): 61-63.

加藤則子. 生活リズムと食育. 月刊幼稚園じほう 2006.6; 34(3).

松田智大, 野口真貴子, 梅野裕子, 加藤則子. 小児保健とQOL研究 現状と今後の課題. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53(11): 805-813.

西村秋生, 川内敦文. 介護予防給付導入にかかわる要介護認定の改訂. 保健医療科学 2006; 55(1): 19-24.

#### 著書

加藤則子. 身体計測. 衛藤隆, 中原俊隆. 学校医・学校保健ハンドブッカー—必要な知識と視点のすべて—. 東京: 文光堂; 2006. p.238-245.

加藤則子. 第5章 乳幼児(生後3年までの間). マッシュュー・R・サンダース, 著. 柳川敏彦, 加藤則子, 監訳. 梅野裕子, 志村ゆう子, 松本有貴, 訳. エブリペアレント 読んで使える「前向き子育て」ガイド. 東京: 明石書店; 2006. p.139-189.

加藤則子. 7 身体発育 1 身体発育の意義. 日本小児科学会, 日本小児保健協会, 日本小児科医会, 日本小児科連絡協議会ワーキンググループ 編集. 心と体の健診ガイド—乳児編—. 東京: 日本小児医事出版社; 2006. p.111-113.

加藤則子, 土井由利子, 瀧本秀美. I 未病の概念と展望 7 少子化問題と対策. 日本未病システム学会, 編. 次世代の医学・医療がわかる未病医学入門. 京都: 金芳堂; 2006. p.29-31.

#### 抄録のある学会報告

加藤則子, カトリーヌ・ソバジエ. 複産児の出生体重に関する基礎的解析. 第16回日本疫学会学術総会; 2006.1.23; 名古屋. Journal of Epidemiology 2006; 16(1): 106.

加藤則子, カトリーヌ・ソバジエ, 瀧本秀美. 10代出産の出生体重に関する基礎的解析. 第25回日本思春期学会総会学術集会; 2006.8; 大阪. 同集会抄録集. p.85.

加藤則子, 須藤紀子, 柳川敏彦, 石津博子. 埼玉県和光市における前向き子育てプログラムの試行と評価. 第53回日本小児保健学会; 2006.10.26-28; 甲府.

平尾恭子, 柳川敏彦, 北野尚美, 前馬理恵, 内海みよ子, 山田和子, 加藤則子. 和歌山県における前向き子育てプログラムの試行. 第53回日本小児保健学会; 2006.10.26-28; 甲府.

加藤則子. 行政官研修の現状. 「公衆衛生専門職について」公衆衛生行政研修フォーラム第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山.

武村真治, 曾根智史, 橘とも子, 緒方裕光, 加藤則子. 諸外国の健康危機管理システムの実態. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53(10 特別附録): 469.

曾根智史, 遠藤弘良, 水嶋春朔, 加藤則子. 国立保健医療科学院における医師臨床研修「地域保健・医療」プログラムの開発. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53(10 特別附録): 487.

橘とも子, 角野文彦, 武村真治, 加藤則子, 緒方裕光, 曾根智史. ケースメソッド演習の健康危機管理コンピテンシー獲得効果に関するパイロット研究. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53(10 特別附録): 490.

綿引信義, 畑栄一, 岡本悦司, 兵井伸行, Licos Jr. Artemio R, Seekitooleko James, Lyimo E, Chimedtselen Nyamragechaa, Gebremicheal Tigist, 林亜紀子, 福田笑子, 福澤歌織, 北川由美子. 埼玉市在任のフィリピン人既婚女性が直面している問題—対処経験とソーシャルネットワーク—. 第21回日本国際保健医療学会総会; 2006.10.13; 長崎. J Intern Health 2006; 21 (Suppl): 198.

#### その他学術報告(研究調査報告書含む)

加藤則子, 森田圭子. 地域における住民参画と保健と福祉の協働—和光子育てネットワークの事例を通じて—. 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「住民参画と保健福祉の協働による子育て機能の向上・普及・評価に関する研究」(主任研究者: 前川喜平) 平成17年度総括・分担研究報告書. 2006. p.12-23.

加藤則子, 安藤寿康, 野中浩一, 大木秀一. コホートデータベースにおける追跡調査項目開発及び生物統計学・臨床疫学方法論導入に関する研究 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「子どもの病気に関する包括的

データベース（難治性疾患に関する疫学研究データベース等を含む）の構築とその利用に関する研究」（主任研究者：原田正平）平成17年度総括・分担研究報告書，2006. p.137-158.

詫間晋平，加藤則子．第三章 結果の考察と総括（結論を含む。）厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「地域における子どもに係る犯罪・事故回避に関する研究」（主任研究者：詫間晋平，課題番号：H16-子ども-023）平成17年度総括研究報告書，2006. p.27-30.

加藤則子，主任研究者．総括研究報告書 地域における危機管理研修に関する研究．厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「地域における健康危機管理研修に関する研究」（主任研究者：加藤則子）平成17年度総括・分担研究報告書，2006. p.1-6.

加藤則子，曾根智史，緒方裕光，橘とも子，谷畑健生，武村真治．地域における健康危機管理研修に関する研究．厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「地域における健康危機管理研修に関する研究」（主任研究者：加

藤則子）平成16年度～17年度総合研究報告書，2006.

加藤則子．公衆衛生医師等に対する研修カリキュラムの開発．厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「公衆衛生医師等の専門的能力の構築とその向上に資する教育研修プログラムの開発に関する研究」（主任研究者：曾根智史）平成18年度総括・分担研究報告書，2006. p.21-121.

加藤則子．既存資料による出生体重減少要因の検討．平成17年度厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「若い女性の食生活はこのままで良いのか？次世代の健康を考慮に入れた栄養学・予防医学的検討」（主任研究者：吉池信男）平成17年度総括・分担研究報告書，2006. p.26-41.

畑栄一．厚生労働科学研究費補助金統計情報高度利用総合研究事業「統計情報を用い保健医療福祉分野ごとに施策評価について具体的に応用可能な指標パッケージの開発に関する研究」（主任研究者：畑栄一，課題番号：H17-統計-001）平成17年度総括・分担研究報告書，2006.3.

## Originals

Kato N, Matsuda T. The Relationship between birthweight discordance and perinatal mortality of one of the twins in a twin pair. *Twin Research and Human Genetics* 2006 ; 9(2) : 292-297.

Takimoto H, Sugiyama T, Fukuoka H, Kato N, Yoshiike N. Maternal weight gain ranges for optimal fetal growth in Japanese women. *IJGO* 2006 ; 92 : 272-278.

Kato N, Matsuda T. Estimation of optimal birth weights and gestational ages for twin births in Japan. *BMC Public Health* 2006.6 ; 45.

Ando J, Nonaka K, Ozaki K, Sato N, Fujisawa K, Suzuki K, Yamagata S, Takahashi Y, Nakajima R, Kato N, Ooki S. The Tokyo twin cohort project : Overview and initial findings. *Twin Research and Human Genetics* 2006 ; 9(6) : 817-826.

Kumae T, Arakawa H. Comparison of effects of in vivo nitrogen dioxide exposure starting from different periods on

alveolar macrophage activity, assessed by a chemiluminescence technique in Brown-Norway rats. *Luminescence* 2006 ; 21 : 226-232.

## Reviews

Baigalmaa D, Nishimura A, Ito K. Smoking cessation rate 12 months after a group counseling program in Mongolia. *Asian Pacific Journal of Cancer Prevention* 2006 ; 7 : 399-402.

Chen X, Yamauchi K, Kato K, Nishimura A, Ito K. Using the balanced scorecard to measure Chinese and Japanese hospital performance. *International Journal of health care quality assurance* 2006 ; 19(4) : 339-350.

Tran TMT, Nguyen HT, Yatsuya H, Hamajima N, Nishimura A, Ito K. HIV prevalence and factors associated with HIV infection among male injection drug users under 30 : a cross-sectional study in Long An, Vietnam. *BMC Public Health* 2006 ; 6 : 248.

*プラクティス* 2006 ; 25(8) : 714-719.

吉見逸郎，祖父江友孝．胆道癌 胆道癌の疫学 日本および世界における胆道癌の疫学的動向．*日本臨床* 2006 ; 64 (増刊1) : 322-330.

阿部信一，磯野威．NPO 法人日本医学図書館協会「国立ライフサイエンス情報センター（仮称）推進準備委員会」経過報告．*医学図書館* 2006 ; 53(2) : 166-178.

## 著書

緒方裕光．分散分析．柳井晴夫，緒方裕光，編著．

## 研究情報センター

### Center for Information Research and Library

#### 学術雑誌に発表した原著論文

和田耕治，星佳芳，佐藤敏彦．厚生労働科学研究における採択の優先順位づけに考慮すべき要因の検討．*日本医事新報* 2006 ; (4297) : 72-75.

#### 学術雑誌に発表した総説

緒方裕光．放射線診療を受ける患者さんの放射線リスクアセスメント．*医療放射線防護 NEWSLETTER* 2006 ; 46 : 5-8.

吉見逸郎．わが国の喫煙と健康問題の現状．*クリニカル*

SPSSによる統計データ解析. 医学・看護学, 生物学, 心理学の例題による統計学入門. 京都: 現代数学社; 2006. p.110-125.

緒方裕光. ロジスティック回帰分析. 柳井晴夫, 緒方裕光, 編著. SPSSによる統計データ解析. 医学・看護学, 生物学, 心理学の例題による統計学入門. 京都: 現代数学社; 2006. p.268-287.

緒方裕光. 生存時間データの解析. 柳井晴夫, 緒方裕光, 編著. SPSSによる統計データ解析. 医学・看護学, 生物学, 心理学の例題による統計学入門. 京都: 現代数学社; 2006. p.288-304.

### 抄録のある学会報告

土井徹. 健康危機管理における情報ネットワークの在り方. 国立保健医療科学院から: 健康危機管理情報の活用について. 第19回公衆衛生情報研究協議会研究会; 2006.2.9-10; 秋田. 同研究会抄録集. 2006. p.13-14. (シンポジウム)

土井徹, 緒方裕光, 大坪浩一, 星佳芳. 国立保健医療科学院の保健情報処理技術研修. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53 (10 特別附録): 287.

緒方裕光, 馬替純二. 疫学研究における線量率効果を考慮した定量的リスク評価モデル. 日本保健物理学会第40回研究発表会; 2006.6.8-9; 広島. 同講演要旨集. p.79.

山口一郎, 緒方裕光. イブリツモマブ チウセキタン投与後の患者の退出基準についての検討. 日本保健物理学会第40回研究発表会; 2006.6.8-9; 広島. 同講演要旨集. p.63.

緒方裕光, 杉原崇, 古川智春, 馬替純二. 低線量・低線量率ガンマ線の生物応答に関するメタ・アナリシス. 日本放射線影響学会第49回大会; 2006. 9.6-8; 札幌. 同講演要旨集. p.99.

武村真治, 曾根智史, 橘とも子, 緒方裕光, 加藤則子. 諸外国の健康危機管理システムの実態. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53 (10 特別附録): 469.

橘とも子, 角野文彦, 武村真治, 加藤則子, 緒方裕光, 曾根智史. ケースメソッド演習の健康危機管理コンピテンシー獲得効果に関するパイロット研究. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53 (10 特別附録): 490.

緒方裕光. 疫学概念と方法. 放射線防護研究会第119回例会; 2006.9; 蓼科. 同会要旨集. p.1-5.

吉見逸郎, 林謙治. 健やか親子21の新たな展開—地域において思春期対策をどのように進めていくのか—望ましくない生活習慣への対策. 第65回日本公衆衛生学会総会; 2006.10.25-27; 富山. 日本公衆衛生雑誌 2006; 53 (10 特別附録): 158.

吉見逸郎. がんの1次予防と3次予防(再発予防): 交

錯するエビデンスを読み解く 喫煙関連がんの1次予防健康増進におけるたばこ対策の位置付けについて. 第28回日本臨床栄養学会総会; 2006.9.1-3; 東京. New Diet Therapy 2006; 22 (2): 121-122.

吉見逸郎. わが国における喫煙問題の動向と禁煙指導の実態 わが国のたばこ規制に関わる諸問題について. 第46回日本呼吸器学会学術講演会; 2006.6.1-3; 東京. 日本呼吸器学会雑誌 2006; 44 (増刊): 34.

### その他学術報告(研究調査報告書含む)

土井徹, 主任研究者. 「たばこ規制枠組条約」を前提としたわが国のたばこ政策の政策評価に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業「「たばこ規制枠組条約」を前提としたわが国のたばこ政策の政策評価—特に, 規制インパクト分析及びプログラム評価—に関する研究」平成17年度総括研究報告書. 2006. p.1-59.

緒方裕光, 主任研究者. 健康危機管理情報の網羅的収集と評価に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「健康危機管理情報の網羅的収集と評価に関する研究」平成17年度総括・分担研究報告書. 2006. p.1-7.

緒方裕光, 主任研究者. 健康危機管理における情報の評価について. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「健康危機管理情報の網羅的収集/評価および統合/提供に関する調査研究」平成17年度総括・分担研究報告書. 2006. p.65-69.

緒方裕光, 主任研究者. 患者/家族のための良質な保健医療情報の評価・統合・提供方法に関する調査研究. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「患者/家族のための良質な保健医療情報の評価・統合・提供方法に関する調査研究」平成17年度総括・分担研究報告書. 2006. p.1-8.

緒方裕光, 磯野威. 知識管理と保健医療情報システム. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「患者/家族のための良質な保健医療情報の評価・統合・提供方法に関する調査研究」(主任研究者: 緒方裕光) 平成17年度総括・分担研究報告書. 2006. p.113-117.

緒方裕光. 健康危機事例の収集・分析の方法論の開発. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「地域における健康危機管理研修に関する研究」(主任研究者: 加藤則子) 平成17年度総括・分担研究報告書. 2006. p.292-298.

緒方裕光, 馬替純二. 環境要因の健康リスク評価におけるメタ・アナリシスの応用に関する研究. 線量反応関係, しきい値の有無, 線量率の影響等に関する検討. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「エビデンスを適切に統合するためメタ・アナリシスの理論, 応用と普及に関する調査研究」(主任研究者: 丹後俊郎) 平成17年度総括・分担研究報告書. 2006. p.99-101.

緒方裕光. 一般的及び方法論的問題点. 平成17年度チェルノブイリ事故報告関連調査(原子力安全基盤機構委託調

査). 2006. p. I -33-34.

緒方裕光. バラルーシ, ロシア連邦, ウクライナにおけるチェルノブイリ関連の公衆衛生システム 保健医療プログラムおよび医療モニタリング. 平成17年度チェルノブイリ事故報告関連調査 (原子力安全基盤機構委託調査). 2006. p. I -62-65.

緒方裕光. 疫学的方法の背景. 平成17年度チェルノブイリ事故報告関連調査 (原子力安全基盤機構委託調査). 2006. p. II -42-45.

佐藤敏彦, 星佳芳, 櫻井千裕, 細井香. 厚生労働科学研究費と疾病負担との関連について. 厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業「わが国の疾病負荷 (disease burden) に基づく保健医療研究分野の優先順位付けに関する研究」(主任研究者: 佐藤敏彦. 課題番号: H16- 政策 -017) 平成17年度総括・分担研究報告書. 2006. p.56-63.

佐藤敏彦, 星佳芳, ジュリアヨン. 医学部寄付講座の現状について. 厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業「わが国の疾病負荷 (disease burden) に基づく保健医療研究分野の優先順位付けに関する研究」(主任研究者: 佐藤敏彦. 課題番号: H16- 政策 -017) 平成17年度総括・分担研究報告書. 2006. p.64-93.

磯野威. 科学研究費研究計画書の電子申請におけるセ

キュリティおよび個人情報保護に関する研究—研究成果データベースとの整合性の検証, 電子申請システムの実運用—. 厚生科学研究費補助金厚生労働科学特別研究「科学研究費研究計画書の電子申請におけるセキュリティおよび個人情報保護に関する研究」(主任研究者: 山崎力) 平成17年度総括・分担研究報告書. 2006.

諏訪部直子, 磯野威, 泉峰子, 大橋ゆき子, 加藤恵子, 萩原美保, 藤沢靖子. メディア (図書・雑誌・テレビ) における医学・健康情報流通調査. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「患者／家族のための良質な保健医療情報の評価・統合・提供方法に関する調査研究」(主任研究者: 緒方裕光) 平成17年度総括・分担研究報告書. 2006. p.9-16

橘とも子, 磯野威, 土井徹, 泉峰子, 郡山一明, 原岡智子. 健康危機管理支援情報システム (H-Crisis.System) におけるシミュレーショントレーニングプログラムのモデル開発・評価に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「健康危機管理情報の網羅的収集／評価および総合／提供に関する調査研究」(主任研究者: 緒方裕光) 平成17年度統括・分担研究報告書. 2006. p.33-51.

## Originals

Miyaki K, Masaki K, Naito M, Naito T, Hoshi K, Hara A, Tohyama S, Nakayama T. Periodontal disease and atherosclerosis from the viewpoint of the relationship between community periodontal index of treatment needs and brachial-ankle pulse wave velocity. *BMC Public Health* 2006 ; 6 : 131 doi : 10.1186/1471-2458-6-131.

Sato Y, Nakayama T, Satoh T, Hoshi K, Kojimahara N, Miyaki K, Eguchi N, Okamoto T, Hayashi Y, Yamaguchi N.

Preferred information media for providing clinical practice guidelines to physicians in Japan : A Needs assessment study by the medical information network distribution service (Minds). *General Medicine* 2006 ; 7 (2) : 45-51.

## Review

Hoshi K. How to prevent surgical-site infection in the oral and maxillofacial region. *Bull Kanagawa Dent Col* 2006 ; 34 (1) : 69-74.